

自ら勞働して得たる學資によりて苦學する學生米國には其數甚だ多く由つて以て一般米國學校の學風を察知することを得べし。此の美風は我英國には既に久しき以前より地を拂へる所にして、蘇格蘭には二三十年前迄は稍普通の事なりしも今は同く稀有の事に屬せり。米國學生の以て學資を得る所の勞働方面は甚だ廣く或る者は學術の教師となり或る者は説教師となり或る者は食卓の給仕となり或るものは圖書館の役員となり或る者は工場に臨時職工となり或る者は牧場に牛羊を監視し或る者は電車に車掌運轉手を勤めある者は市街點燈夫の伴に入り或る者は新聞を配達し或る者は市内電話の検査に従ひ或る者は政治的選舉に助勢し甚しきは三人の學生協同して洗濯屋を開き自ら得意を廻り自ら洗ひ自ら火熨斗し自ら之を配達す。猶甚だしきは食事を報酬と定めて黒人の小料理屋に食器の洗ひを勤むるものあり。米國學生中目的確定の後卒業後償還の約を以て學資の大部を他より借るもの少なからず。要するに此の如き苦學生は實に世界の防廢劑にして一國の元氣精力は此の如き健全不撓の精神に出づるものと言はざるべからず。米國人は勞働を尊敬し怠惰を

惡む其勞働の種類の何かは問ふ所にあらず。米國人の信條の精髓は「勞働にあらずんば饑渴」是なり。

九、移民の同化

米國教育で殆んど他國て類例を見ることの出來ぬ一現象は年々百萬餘の外國移民を同化してアメリカ氣質とならしむることである。學齡の兒童は殆んど英語一語をも解せず小學校に來る。一年生もあれば二年生乃至三四年生などもある。自分の本國て他の教科目は相當に修めて居るけれども唯英語が出來ぬ計りて相當學級に編入が出來ぬものがある。ニューヨーク市に就いて言へば小學校兒童總數の四分の一は斯の如き移民の子女である。それでニューヨーク市では特別の方法を講じて移民の子弟に英語を授くる方法を講じて居る。殊に教授法に關しては市役所から教師の爲めに一冊の本を出版して其範例や心得を示して居る。

自分が參觀した一學校では吃音矯正に當つて居る一女教師が新來移民子弟の發音を矯正して居つた。是は最も學術的方法であると感じた。即ち發聲の生理から研究して外國人に困難なる音を最も正確に教へて居つた。是は英語を教

移民の子

英語の特
別教授

ふる方法に過ぎぬけれども移民をして英語に通ぜしむることは之を米國化せしむる第一歩にして且つ最も重要な條件である。英語に通ぜずして充分に米國魂を理解し之に同化することは困難の事業である。米國の歴史、風俗、習慣、道德に關する思想感情は國語によつて最もよく吹き込まれるものである。

移民子女の同化法として別に奇術や祕密がある譯では無い。先づ英語を教へて米人と少しも違はぬやうに話が出来るやうにし米國人と同一の課業に加はり米國人と同様に遊び一切萬人米國人のやうに行動云爲するやうになれば即ち米國化したのである。外國人を米國化せしむることはつまり米國人と同一の行動せしむる事である。

米國と言ふ事を絶えず念頭に浮べ全校の兒童は凡て米國の市民である事を自覺せしむる爲めには全校の生徒に國歌を唱へしめ又校内の目立つ所に校旗を掲げ毎朝教授前に國旗に敬禮せしむる。又校外高く國旗を掲ぐる事もある。此等は必ずしも移民の子弟の爲にするので無く一般に愛國心を喚起する爲めであるけれども移民を同化する一方便たることを失はぬ。自分の見る所では學校の生

米人と同一の行動

國旗と愛國心

社會の同化力

活全體が兒童生徒を米國化する勢力であると思ふ。

學校に行く年齢を過した青年や大人の勞働者に英語を教ゆる機關は夜學校其他社會事業として種々の方法が講ぜられて居る。とも角米國に居る以上は早晚英語を知らねばならず又速成の法を講ぜずとも必要上ある程度までは自然に之に通ずるのである。併し移民を米國化する最も大なる勢力は米國の社會生活其物である。國民生活其物が國民生活を訓練して行くことは前にも度々述べた如く敢て米國に限つて居る譯では無い。米國に生活するものは自から其國民生活に同化せられ自から米國風にならざるを得ぬ。又生物學上より考察して見ても生物は其境遇に適應して行くのが最も安全なる生活の方法である。否其境遇に適應すること能はざるものは其生存を完うすることは困難である。所謂米國魂は米國に於ける固有の國民生活によつて米國の社會で生長したる如く外來の移民も社會生活によつて之に同化せらるるのである。

十、男女共學主義

男女同一の學校で而も同一の學級に學ぶことは米國に限つたことは無いけれ

村落小學
共學の男女

ども他國に比すれば最も廣く行はれて居る様に思ふ。
村落の學校で經濟上の必要から男女共學を行ふて居るのは世界到る所に其例があつて誰も之を不思議と思はぬ。けれども市街の學校で男女學級を分つことが出来れば區別するのが通例である。併し米國では主義として通例男女共學を行つて居る。

大學の男
女共學

大學で男女共學になつて居るのも決して珍らしく無い。是は大學の設備が仰山で女子の大学生の數が割合に少いから女學生が男子の爲めに作つた大學に聽講して居ると言ふ有様である。

中等學校
の男女共學

米國の男女共學主義が最も異彩を放つて居るのは男女の一生の危機と稱せらるゝ青少年女期より青年期の始めにかけて中學校で男女共學主義を執つて居ることである。米國の外には和蘭なども同様に中學校で男女共學を行つて居るけれども米國は此點に於て最も廣く世に知られて居る。

男女共學
は自然に
習せし
風に

米國で男女共學が行はれて來たのは教育上の主義から其長處を認めて實施したと言ふよりは寧ろ米國の社會生活の自然の產物と言はねばならぬ。植民の初

期に方つて男女の兒童が一所に遊んで生長したやうに淋しい田舎で小團體の爲めに出來た學校は男兒女兒の別を立つる必要なく一家族の内の如く男女共學を行つたのは少しも不思議の事は無い。米國では今も昔も小學校より大學に至るまで男女共學は當り前となつて居る。今日各國の僻陬の地で男女共學を行つて居るのと少しも異つたことは無い。米國の男女共學は植民生活の生産物と見做すことか出来ると思ふ。

男女共學
の利害

さて今日となりては男女共學の利害得失に就いて教育上の主義から種々の議論がある。米國內にもあれば外國にもある。概して言へば男女共學を行つて居らぬ國の教育家の議論は通例之に反對である。併し少數の人人は大に之に賛成して既に其輸入に努めて居るものも少く無い。英國に於ける男女共學の學校の事は既に述べた通りで獨逸でも賛成者が随分にある。

非難

男女共學に反對する人は道徳上からは青年男女を接近せしむる危険男子が女子化せらるゝ弊、女子が男子化せらるゝ弊、知力上からは男女知力の相違は明瞭であるから之を同一の標準によつて教育するは女子に無理を生ずること又生理上

利益

からも同様の非難がある。

男女共學を賛成する方から言へば人間の社會は男女の共同生活から成立するものであるから人間の將來の社會生活の準備をなす學校生活では男女共學の方が最も適切なる方法である。詳言すれば男女相知り將來社會に立つて男女相接する上にも一層自然に應對することが出来る。是は男子は男子計り女子は女子計り別々に引離して養ふことの出来ぬ所である。道德上の危険は青年男女を離隔する方が却つて多く公然と會合して居れば人の耳目を避けて密會する機會が少く又實際上男女共學の爲めに生ずる醜行は却つて少い。男女互に及ぼす性格上の影響に就いても女子は眼前に男子あるが故に却つて女子らしくなり男子は女子の前である爲めに却つて男子らしき徳を養ひ孰れも一層高尚なる徳の修養に努むるのである。殊に管理上から言へば男女共學の方が遙かに容易である。知力の上から言つても女子は却つて男子を壓倒するが如きことがあつても著しく劣等なことは極めて少ないと言ふのである。

とも角も米國に於ける經驗では世人が想像するやうな弊害は表はれて居らぬ。

米國の經驗

伊澤修二氏の所見

米國でも男女を全然離隔したならば今日より一層劣つた成績を生ずるか如何かは勿論疑問に屬する事と思ふ。又今日之を行つて居らぬ國に之を輸入して見て同一の結果を生ずや否やも同じく疑問である。とも角米國では極めて自然の事として行はれて居る。明治八年に文部省から米國に派遣せられマツサチュセツ州のブリッツヂウエーターの師範學校に入學された伊澤修二氏は明治四十四年に行はれた還曆祝の際に出來た「教界周遊前記」と言ふ自叙傳中に左の經驗談を載せて居らるる。

今日に於ても日米間に於ける文物制度風俗言語習慣等の差は、兩國々民をして互に奇異の念を起さしめる程である。況んや今より三十七年の昔に於てをやて、事々物々奇異の感を生ぜざるは無かつた。其中の最も重なるものは男女合併教育であつて、該校の在學生中男子は十八歳から二十三歳位まで、女子は十六七歳から二十歳前後で、所謂青春妙齡の男女である。然るに之を集めて同教室で教授するのみで無く、寄宿舎の如きも間隔こそありたれ、ヤハリ同一建物中であつて、それでは校長以下教員も男女生徒も皆平氣でをり、然かも何等風紀上

の汚點の無いといふことは、純東洋風の教育に育つた余の目に實に甚しく奇異に感ぜられたのであつて、當時の奇異の感は今日尙ほその印象が消え去らぬ程深刻であつた。

男女離隔主義を執つて居る思想を標準として米國の男女共學主義を論ずれば其批評に無理の所があるは勿論の事である。又男女共學に長處があることは明瞭であつても少しも短處が無いと言ふ保證は出來ぬ。青年心理の大著で學術界に大貢獻をした米國クラーク大學のスタンレーホール總長は青年心理の研究の結果米國の現在の男女共學に反對の意見を發表して居る。同總長が一昨年には著した「教育問題」(Educational Problems)の第二卷に「我公立學校の二三の缺點」と題する中に男女共學を以て缺點の一に數へて居る。男女は青年期に至れば自然に相遠ざからんとする傾向を有し且つ男女身心の自然の差異の外、同一年齡の女子は男子より早熟で趣味も違ふから別にした方が善いと言ふのである。併し現行の制度に絶對的に反對と言ふのでは無く小學校の上級と中學校以上では漸次分離の方針を執るが善いと言ふのである。男女共學を自然とする國には學術上から

スタンレー
ホール
總長の
意見

反對を唱ふるものがあり、男女共學を行つて居らぬ國には之を輸入せんとて盡力する人があるのは餘程興味ある事柄である。是は丁度宗教を全然學校教育から放逐した佛國では宗教教育の必要を唱ふるものがあり、學校教育中に宗教を併せて居る獨逸では之と分離せんとする運動があると同様で此等は一物皆長處と短處とを併せ具へて居ることを證明するものであると言はねばならぬ。

最後に一寸注意して置き度い事は米國では世人が想像する如くあらゆる學校が男女共學主義を執つて居る譯では無い。地理上から言へば東部は西部に比して割合に男女共學が少い。ボストン、ニューヨーク、フィラデルフィアでは殊に著しい。中學校にも女子計りのものがあり大學にも女子計りのものがある類である。ハーヴァード大學にも特に女子の爲めにラドクリフ、カレッジがありニューヨークのコロンビア大學にも女子のバーナード、カレッジがあり有名なヴァツサー、スミス、ウエルズリー等の女子大學は孰れも女子の爲めに開いたもので男子に入學を許さぬから男女共學主義に反して居るものと言はねばならぬ。所謂ニュー、イングランドに屬する東部の諸州は最も英國風を存して居る所て男女共學に就いても多

米國は全
部男女共
學に非ず

少其影響を受けて居るものと見ゆる。

十一、女子教育の進歩

女子教育の進歩も米國教育の一特色と數ふべきものである。男女共學は男女一様に教育を受くる機會を與へ小學校より進んで中學大學に至るまで女子が男子と併んで教育を受くる途を開いて居るのである。其結果は米國の女子が他國に比して一般に教育の程度が高いと言ふことになる。中學校が無月謝であるといふことも女子が中等教育を受くる機會を多くするのである。他國に於ては小學校ではとも角中等學校になれば女子の數よりは男子の數が多いのが通例である。然るに米國では之に反して女子の方が男子よりも多い。是には經濟上の原因が加はつて居ると思ふ。中等社會以下では男子は成るべく獨立の計を營む必要があるからして男子なれば當然何か職業に就く所を女子である爲めにあまり費用もかゝらぬから中學校に入ると言ふものが出来るからであると思ふ。言ひ換ふれば他國では到底中等學校に入らぬ位の社會上の地位のものが米國では中學校に入るのである。

男女共學と女子教育

女子の中等教育

自活と教育

米國の女子教育と外國

男女教師の消長

大學では米國全體に就いて言へば男子の學生が多いけれども個々の大學に就いて言へば女學生の方が男學生の二倍以上に達して居る所がある。米國の女子は何の國と比べても教育を受くる年月が長いのである。米國には女子の爲めにも男子と等しく自活の途があると云ふことは女子教育の進歩に大なる助けを與ふるものと言はねばならぬ。米國の女子教育の進歩は女子の社會上の位置を高めたのみならず外國の女子教育に大なる刺戟を與へたことを忘れてはならぬ。殊に女子高等教育に於て此事が最も著し。

十二、女教師多き事

教師としては男女孰れが適するかと言ふことは勿論教育上の問題であるけれども米國では教師の大多數は女子で今日では教師と言へば殆んど女子と同意義に用ひらるる位である。米國も初めは勿論男教師が多數を占めて居つたのが千八百六十三年より六十五年に互る南北戦争を界として男教員と女教員との數の比例が轉倒して來た。即ち我慶應元年頃より女教師の數の方が男教師の數より

多くなつて來た。今年々女教師増加の割合を擧ぐれば明治三年に教師百人中女子五十九人明治十三年には五十七人二分二十三年には六十五人五分三十三年には七十人一分四十三年には七十八人六分である。最近の調はまだ分らぬけれども百人中八十人以上即ち女子は全數の五分の四を超えて居ることは疑はれぬ。女子五人に對する男子一人に對する割合である。是れは米國全體に就いての平均て一々の都市に就いて之を見れば女教師の割合は更に多いのである。ニューヨーク市では女教師が百人中八十九人フィラデルフィアでは百人中九十一人四分シカゴでは九十三人三分南カロライナ州のチャールストンでは九十九人三分に達して居る。小都會で男教師の全く無い所が四十四もあるのである。

此現象は國家の主義方針から起つたので無く經濟上の必要から起つた事は固より説明を要せぬ。如何なる國でも教師の報酬は充分で無く殊にアメリカのやうな新開國で事業の多い所では男子は産業の方面に向つて教師となるものが少い。若し教師となるものがあつても有爲なものとは來ぬ。若し同額の俸給を拂ふとすれば男子を用ふるよりは女子を用ひた方が優良のものが取らるる。そこで

女教師増加の原因

男子の女性化

男教師は次第に減じて女教師の全盛の時代となつた。

今日では小學校に行く兒童は滿六歳から十四歳まで男兒も女兒も男教師に教はる機會が殆んど無い。中學校になれば男教師が多少あるけれどもカレッジに入つて始めて男教師に教育を受けたと言ふものがあるのである。男子が男子らしい性格を養ふには男教師の訓練を必要とする事は明白の道理である。女教師には女教師の長處があつて男兒の性格の上に高尚なる感化を及ぼすことは疑はれぬけれども全然男子の感化を缺いた訓練は充分とは言はれぬ。殊に青年期の初期に於ては剛健なる男子の氣象の感化が必要である。

斯の如く論ずれば米國の女教師が多數を占めて居ることは米國教育の短處と言はねばならぬ。

スタンレー・ホール總長は米國の女教師が師範教育を缺いて居る點から之を非難して居らるる。米國教師中で正式の師範教育を受けた者は百人中僅か四十人に過ぎぬ。或る地方になれば其數が僅か百人の中の十人位に過ぎぬ所がある。殊に女子は結婚をするから教師を終生の職業と心得るものが割合に少い。其就

師範教育の缺乏

男子の感化の缺乏

職は長いものもあるけれども平均すれば一人四五年に過ぎぬ。是れは女教師が態々師範教育を受くるに及ばぬと言ふ考を起す一原因である。とも角年々新任の教師中の四分の一乃至六分の一は教育には殆んど全く素人である。

此等の點を考ふれば米國の教育は大切な教師の上に大なる弱點を有して居るものと言はねばならぬ。此事は前に述べたスタンレー總長を始め幾多の具眼者が大聲疾呼して國民を警醒して居る所である。

教師全數の約五分の一が男子であるが此等少數の男子は如何なる事をして居るかと言ふとを考へて見るのも興味ある事である。數の上から言へば如何にも女教師に壓倒せられて居る様に見ゆるが事實上では之に反して中等學校以上の教師の多數及び各種の學校の校長又は學校の幹部となつて働いて居るのである。夫れて男教師の數は微々たるものであるけれども實際の勢力は中々大きいもので多數の女教師を統御して居るのである。女子計りの爲めに作つた學校に男子が校長となつて居るのが通例である。英國や佛國では寧ろ不思議のやうに見ゆるけれども米國では元からの風習で誰も之を當然として居る。丁度獨逸や我邦

少數男教師の任務

の點

の點

の點

の女學校の校長が男子であると同様である。是は米國の女教師大多數の弊害を多少矯正する一助となつて居ると思ふ。

米國の學校で校長其他樞要の位置に居る人が男子で其他が女子と言ふのは考へ方によつて餘程不思議に見ゆる。先づ第一に適任者を如何にして選擇するかと言ふことである。併し是は男教師中で不適任の人は早く轉職し比較的に適任の人が幹部に残り進んで校長になるので自然淘汰の結果と言つてよからう。

第十四章 英米訓育の比較

一、訓育の主義

英國式より来る

米國の訓育の主義方法は全體に於て英國から得來つたものと見てよからう。米國魂がアングロサクソン人種の性格を中核として米國式に發達したものと見れば此意義は一層明瞭であらう。英國が成るべく外部の干涉束縛を少くして兒童生徒の自治心に基いて訓練しやうとするのと同じやうに米國でも同じく自治的訓練主義である。此點に於ては米國は英國よりも一層束縛が少く各自の判断分別に任かすることが多いと思ふ。約言すれば自由放任主義に近いのである。是は米人が自由を尊び獨立自營を生命として簡略主義を執る所から考ふれば之を推測するに難らぬ。訓練の上に於ても個人の意志を重んじ其人權を尊び最も簡易直截の法によりて米國魂を養成せんとして居る。それで別に米國魂訓練法と言ふ煩瑣な規則がある譯では無い。米國人は其理想として居る自由正義人道に適つた徳さへ養へば其方法には深く拘泥せぬのである。

自由放任主義

學校生活訓練によれる

訓育に於ける自由主義の代表者は佛人ルソーであることは勿論であるが其理想は自由平等友愛を標榜して居る佛國に實現されずして却つて米國に行はれて居るのは頗る興味ある事である。併し米國の訓練法とても全然ルソー式の自由主義では無い。英國の力行主義から出た訓練主義である。

米國の力行的訓練主義は如何にして行はるるかと言へば學校に於ては學校の生活が萬事米國人としての訓練となるのである。學校内に於ける一舉一動は凡て米國魂を養ふ機會と見做されて居る。國家社會に於ける團體的規律は學校の規律によりて訓練さるる。早くより秩序の觀念を養ひ又自己の責任の考へを養ふ。將來社會に立つて業務に従事するに必要な勤勞責任忠實等の諸徳は日々の課業によつて養つて行く。國家的精神も同様である。性格の訓練の爲めに特別の施設をせずとも學校の生活は如何なる方面であらうとも凡て訓練の機會に利用されて居るのである。自分は學校の日々の課業が性格訓練の方便に用ひられて居るのは米國に於て最も著しいと思ふ。米國では獨逸や英國のやうに宗教と言ふものもなければ佛國のやうに修身科も無い。而して之に代はるものは日

日々の課業と訓練

日の課業によれる訓練である。

米國でも他國と同じやうに國語や歴史等が道德の觀念を養ひ又國家的精神を鼓舞する助けとなつて居ることは勿論である。米國の教育で國民として必要な知識を授くるに意を用ひて居るけれども性格訓練の主要なる手段と見るべきものは日々の課業である。即ち課業のやり方によつて人間の業務の仕方を訓練するのである。米人は概して英人の如く形式的に道德を教授することは贊成せぬ。知識として道德を授くるよりは之を實行せしめやうとする。口で彼是と指圖するよりは各自反省して自覺させようとする。教師は別に聖人や賢人のやうな顔もせず兒童生徒に容易に出來ぬやうな事を要求せぬ。唯米國人として自由を尊び正義人道に従ひ大に活動し努力して獨立自營せしめんことを期するのである。

約言すれば米國の學校では學校の生活が米國魂を訓練して行くのである。是は丁度米國の社會生活が米國人を作り出し外來の移民を同化して居るのと同様であると思ふ。團體生活の訓練力に重きを置くものである。

米國の學校では大に社交的方面が発達して居る。是は勿論英國風の轉化である。此點に於ては遙に獨逸や佛蘭西に優つて居る。

二、宗教的精神

米國の公立學校で宗教を課せぬのは宗教の精神に反對するのでは無い。本來は宗教の相違より生ずる難問を避くる爲めであるから結局個人の宗教の自由を尊重したのである。此意義に於ては佛蘭西の學校で宗教を廢して修身に代へたのとは大に趣が違ふ。殊に米國の最初の植民者には宗教の自由を得んとしたものが多く、就中清教徒の如きは極めて嚴肅なる信仰を持つて居つた。今日でも米國人の宗教心は種々の方面に發揮されて居る。中學校及大學に於ける基督教青年會の如きは偉大なる勢力を持つて居る。日本に來て居る基督教宣教師の大部分は米國人である所から考ふれば米國が如何に傳道事業に力を盡して居るかと言ふとが分る。又米國では國家の政治の上から見ても立法の上にも司法の上にも行政の上にも宗教の權威を充分に認めて居るのである。

併し物質的文明の進歩と共に宗教的精神が衰退して行くのは現代社會の大勢

である。米國も此大勢を動かすことは出来ぬ。自分の見る所では米國一般の宗教心から言へば佛蘭西よりは一層眞面目であるけれども英國のそれには及ばぬと思ふ。米國の學校では宗教を標榜せぬけれども事實に於ては獨逸と伯仲の間にある位であると思ふ。併し外見上から言へば米國では物質的文明があまりに跋扈する爲めに宗教は壓倒されたやうな傾向がある。例へば歐羅巴では寺院は到る所で最大の建築物で大都會には大都會ほど大寺院があつて高く雲表に聳えてあたりの民家を睥睨して居る。然るに米國では此頃所謂スカイスクレイパーが流行し出して五十幾階と言ふ家が出来て寺院は一向に目立たぬやうになつた。約二十年前まではあたりを拂ふて屹立して居たニューヨークのトリニチー、チャーチの如きも周圍に摩天閣が林立した爲めに今日は隠れん坊をして居るやうに小さくなつて見ゆる。此はやがて社會に於ける物質的勢力と宗教的勢力との比較を示して居るやうに思はるる。

三、舊慣の勢力

米國人は進歩を主として舊慣に拘泥せぬ。歴史や傳説の牽制を受けず進歩的

の活動をなすのが米國人の本色である。此點は英國人と大に違ふ。併根本がアングロサクソン人種であるから佛國人のやうに革命的では無い。米國魂を傳へて行き米國の國是を保存して行く上から言へば矢張り保守的である。米國の大學を代表して居るハーヴァード及エールの二大學は米國大學中で最も保守的と言はれて居る。ボストン、フィラデルフィアの如く最も英國風を存して居る所は英國人の保守的精神を存して居るのは敢て怪しむに足らぬ。併し今日となりては米國人は保守の精神を以て其特色と見ることは出来ぬ。

四、校風の感化

米國は前にも述べた通りに通例の學校では舊慣を重んぜぬから英國で見るとやうな校風と言ふものは少い。校風は少くとも外部から拘束するやうな勢力となつて表はれぬ。米國とても全校の道德的空氣を重んずる事は同様であつても英國のやうに歴史的になつた校風と言ふもの少ない。尤も多少歴史的になつた大學にはそれ／＼氣風が出来て居るのは英國に類して居るけれども中學校では英國のやうに重要なものとは見ることは出来ぬ。とも角も事實上の校風が自然の

感化を及ぼすことがあつても當局者は大に之を訓練の方法に利用しやうとして居らぬやうに見ゆる。

五、教師の感化

米國の師弟の關係は本來英國の風から來たもので昔程英國の風に似て居つたらしく思はれる。訓練は大體に於て自治主義を執り大に兒童生徒の人格を重んじ之に自由を與へて居るから師弟の間は極めて圓滑て和氣靄然として居る。教界周遊前記の中に伊澤修二氏は次の通りに述べて居らるる。

余の入學したブリッヂフォートル師範學校長の感化力の偉大なることは、實に余をして、理想的教育家の如何なるものなるかといふに就いて、其模範を得しめたと云つて可いのである。其人は即ち校長ボイデン氏である。氏は訓育家で別に著述などは見無かつたが、其感化訓育といふものは有名であつた。同校に入學する者は大概ハイスクールから來て、年齢は十七八歳から二十歳位の青年であつて中に荒ボイもので、其品行から云つても飲酒喫煙などの惡習を有つてをる者も少くない、女子といへども亦甚だお轉婆であるが、在學一ヶ年で殆んど別

英國式

伊澤氏の
經驗

人の様になつてしまふ、入學當時は學校の在る町(實は村の少し大きな位の町)に行つて、酒屋へ這入り込んでビールを飲む、森の陰に行つて煙草を吸ふ、共一年間経つ間に何れも皆立派に止んでしまふ。二年目には眞に飲酒喫煙の惡習なることを信じ、他に對してこれが廢止を勸告する様になるのである。かく殆んど人間を拵へ直すといふ程ボイデン氏の感化力は偉大であつたからして前述の如く妙齡の男女を一屋の下に置いて、惡評などは一切無かつたのである、けれ共格別規則といふようなものは立てず、唯

- 一、 食事の時間を確守すること
- 二、 散歩の時間を確守すること
- 三、 默學の時間を確守すること

(默學は夜二時間宛であつた)

右の如く唯法三章のみであつたが、これにて感化が非常に立派に行はれたのであつて、校長宅は寄宿舎の一部に位し、他から來訪があれば直ぐ取次に出られる様な所て其所に一家が住んでをつた、而して食事の時には校長が家族を引き連れ

先に立つて食堂に入り、續いて二三百人が同じ食堂に入りて坐し、食事の祈禱があつて食事に取りかゝるのであるが、誠に靜肅で絶えて紛雜の態は無い、と云つて決して窮屈の感などを起さぬ誠に所謂和氣霽々たるもので、一大家族たるもの、殆んど異なる所が無かつた。乍併規則は嚴正に守らねばならぬのであつて、毎週金曜日に當り、若し前一週間に規則を破つた事が有れば一定の印刷紙中に記入して、これを校長に提出せねばならぬ。而して此報告は校長獨がこれを視るのであるが、能く規則を守る者に對しては、格別何等の事も無い、共、犯則が何遍も重なれば校長室に呼び寄せ、誠に莞爾たる顔付で、「お前の犯則は嘗にお前のみならず、他の者にも悪影響を與へるからどうか改めてもらひたい」と、誠告する。此誠告が重れば、「お前には誠に氣の毒であり、又私はお前を是に置いて教育したいが、他の者の爲にならぬから、お氣の毒だがこゝを去つてもらひたい」と話すのであつて、此の如きものが一年に一二人程はあるが、此誠告及退學の命令共、他の者に解らぬ様祕密に行ふのである。又毎夜の默學時間が來れば相圖の鐘が鳴る。けれ共、一室には二人宛をるから話がハヅム時などには聞洩すことがある。

其中に報の音がコツリ／＼として、室の戸が靜に開き、慈愛の結晶の様な顔が現はれて「他の者の邪魔になるから靜にしてもらひたい」と云ひ、莞爾たる一瞥が與へられて扉の陰に隠れ去るといふ有様で、其感化訓育の力の偉大なることは誠に恐入つたものであつた。今日は我國でも教育の事が開け、ホイデン氏の如き人もないではなからうが、當時の余には如何にも崇高に觀えたのであつて、其師範教育が實に能く教育の眞理を實際に行つて行き、教授法から訓育まで事々物々に教育の眞理が閃いてをつた。これが亦實に我々の歸國後に於ける努力の目的となつた。

斯の如き教師の人物の感化は全然英國式で當時の學校の教師は斯様の感化の仕方を理想として居つたに相違無い。殊に伊深氏の學ばれたブリッヂウォーターは所謂ニューイングランドに屬するので最も英國風の盛んな地方である。米國人は今日でも此地方の人には英國人と見まがうやうな紳士に出遇ふことが少く無い。けれども米國は植民地で生活状態が違ふ所から人物の理想も自然と違ひ今日では一般に言へば米國人と英國人とは餘程違ふやうに見ゆる。

最も家庭的

教師は慕はしきもの

又南北戦争以後になつて女教師の数が漸次に増加し今日では女教師が大多数と言ふ有様となつて師弟の關係茲に教師の感化の意義も次第に變更した。男教師多數の時代に教師の感化が家庭に於ける父に比することが出来た、すれば現今の女教師は母の感化を與へつゝあるものと言つて宜からう。今日の米國の學校の師弟の關係は如何にも家庭的である。教師は兒童生徒に親切に兒童生徒は皆教師を慕ふて何か物言ひ相談するにも丁度母に對するやうな趣がある。殊に米國では女子は社會に於て尊敬されて居るから校内の管理上には少しも困難が無い。例へば男兒が女教師を輕侮するとか言ふことを聞かぬと言ふことは殆んど無い。教場内は靜肅で教師は眼付で全級を動かす事が出来る位である。米國では教師は慕はしい頼もしいものになつて居る。之を獨逸の教師が教權を好み威嚴を作り時として兒童生徒に恐れられて居るのに比ぶれば雲泥の差である。獨逸教師の威嚴は規律の訓練に利用されて居る。それで時として兒童生徒は訓練の結果として唯表面丈けの禮を盡すと言ふ事も生ぜぬては無い。とも角獨逸の規律訓練主義は元と軍隊式で男性的である。之に反して今日の米國の

教師の感化は少數の場合を除いては女性的である。人間の教育の男性的感化が必要とすれば米國の教育は此點に於て缺點があるものと言はねばならぬ。米國では今日の一般の輿論は普通の學校では英國で豫期する程教師の人物の感化を豫期して居らぬやうに見ゆる。米國では獨立自營主義が盛んで幼少の時から彼是外から指導するより自分の事は自分で判斷してやらせ自然に米國生活に同化するやうに勉めて居るやうに見ゆる。

六、寄宿制

米國には中等以上の學校には寄宿舎が随分澤山にある。けれども中學校は通例通學制である。米國の寄宿舎は獨逸のよりも佛蘭西のよりも英國のにも最も近い。併し英國のに比ぶれば平民的で歴史的の勢力が無い。小學校程度の貴族的の豫備學校に相當するものも見當らぬ。有名の大學には随分贅澤で英國のオックスフォードやケムブリッジ大學に過ぐとも劣らぬ生活をして居る富豪の子弟も居るけれども之と同時に貧生や自活生が居られるやうな寄宿舎もある。通例食堂なども二様に分れて居る。是等は英國で見る事の出來ぬ所である。

寄宿生活は性格訓練の手段となることは勿論であるけれども英國のやうに重きを置いて居るやうには見えぬ。英國に比すれば萬事餘程放任主義である。

七、自治制

米國のやうな獨立自營を尊ぶ國で生徒自治の行はるゝのは當然の事である。殊に學校で共和政治の精神を養成しやうと言ふのは米國訓育の特色と見るとが出來やう。英國のアーノルドが根本思想を取り來つたヘーゼルウッド學校の生徒自治制は其當時米國にも傳はつて之を模したものが多かつた。米國今日一學校を一共和國と見做して兒童生徒中より種々の役員を選び立法行政司法の分權制を取つて居るものさへある。或は學校を一市と見做して仕組んで居るものもある。ニューヨーク市第六十九番公立學校で行つて居るのはクロンソン著生徒自治制 (Ornson, Pupil self-government) と言ふ本に詳しく書してある。

ジョージと言ふ人がコーネル大學から程遠からぬフリーヴァイルと言ふ所に不良少年感化事業として試みて居るジョージ小共和國 (George Junior Republic) は全然共和國として組織してあるのであらゆる組織が國と同様になつて居る。大統領

判事巡査等の役人から普通教育職業教育を授くる所全く一國の通りである。是は共和國民の教育ととしては最も適切なものであると言つてよからう。此事は菊池男爵の近著『日米教育時言』に詳しく述べてあるから茲に略する。

八、運動競技

米國では運動競技は中々盛である。殊に米國固有のベースボールは米國氣質に最もよく適するもので最も廣く行はれて居る。殊に大學やカレッジでは運動熱が盛んである。併し運動競技が英國と同一の意義に於て性格訓練の手段となつて居るや否やは頗る疑はしい。英國人は必ずしも勝敗に拘泥せず運動競技其物を樂しむ風があるけれども米人は稍勝を目的とする傾向がある。ベースボールが劇烈なる競争を惹起すことは最もよく之を表はして居る。運動競技も勝敗の點から言へば米國は英國を凌駕せんとしつゝある。昨年のオリムピック、ゲームの成績に就いて之を見ることが出来る。併し運動競技が身體の鍛鍊と性格の訓練の手段として社會一般に廣く行はれて居ると言ふ點から言へば米國はまだ英國に及ばぬやうである。

九、賞及罰

米國では自由を尊び人格を重じ且つ師弟の關係が母子のやうであるから學校では殆んど罰を行はぬ。又罰を以て脅迫して強いて事を爲さしむる如きは米人の大に厭ふ所である。州によつては教師に全然罰の權能を與へぬ所がある。兒童生徒が若し悪い事をすれば父に通知して父に罰せしむるのである。兒童場には獎勵の爲めに屢褒詞を用ふる。又賞品も與ふる。

十、餘暇の指導

多忙なる米國ではあまり此方面に意を用ひ居るやうに見えぬ。

十一、家庭

米國の家庭は大體に於て英國式と言つて大差無からうと思ふ。男女の關係が自由を主とし女子を尊敬する習慣が強い點に於いては米國は英國に數歩を進めて居る。併し一家團樂の樂みを理想とする上に於ては英米の間に主義上の相違は無い。國民性の訓練上に最も大關係ある子女の教育法に於ても大體自由放任主義を採つて居るのは英國同様である。殊に米國では獨立自營の考へが英國よ

り一層強いものと見てよからう。是は自由を尊び他人の人格權利を尊重するからである。子供を大人の如く取扱つて自重自信の念を起さしめんとすることも英國同様である。米國では女子を尊重することが強いから子女も母親を尊敬するからして家庭の訓練に於て母親は一段の威嚴を添へて居る。とも角米國魂は先づ家庭に於て養はるゝのである。

米國で女子の權利が強く所謂女尊男卑の風を作り出して居ることは廣く世間に知れ渡つた事實であるが今私かに此風俗を馴致した原因を考へて見るに、米國植民の當初女子の數が少なかつた計りて無く一家族は親密不離の一團となつて男女幼少の別なく危険を冒して土人の地に進んで行つたのである。若し土人の襲來に會つた時には妻も夫と共に鐵砲を手にして防戦したのである。自分はデンヴァーの市で同市開拓の率先者の記念碑に男女等しく銃を手にして居る像を見て深く當時の狀況を感じた。一家族均しく苦樂を共にし艱難を分つと言ふのは植民創業時代の實狀であつた。それで男子が女子に對する保護の責任の情も一層強く又事實上當時は女子は男子の保護を要することが多かつたのである。此等

の事情から英國で女子が尊重さるる風俗が一層進んで遂に今日の状態となつたものらしく思はれる。

英國の婦人でも米國に旅行して見れば見ず知らずの米人でも禮儀を厚くすることは英國以上であると言はれて居る。是れは米國には女子に對する禮儀作法上の要求が英國よりは一層嚴格であるからである。

英國の家は多く男子の便を主として作つてあるけれども米國の家は女子の便利のやうに考へて居るさうである。例へば上流の人又は富豪の人が其社會上の位置を示すには英國では馬車とか乗馬とか家従とか男子の威光を表はしたものを用ふる。然るに米國では多く交際社會で婦人の衣服裝飾品などによつて示す。米國婦人の驚くべき豪華の生活は絶えず新聞雜誌に報道せせらるゝ所である。米國の女子は英國女子よりも男子に世話を要求することが多い。併し米國は多忙の國であるから事實上男子は外出する事が多く又英國人のやうに一分間でも長く自宅で一家團樂の樂をしやうと言ふ考へが少いやうである。それで動もすれば米國の家庭は婦人と子供の住み家となる傾きがある。米國の家は婦人の便

利になるやうに作つてあると言ふのは此邊の消息を傳へたものであらう。家事を整理して行く上に一定の秩序を立て一週間及毎日の時間割を作る事などは英國も米國も別に變らぬ。併し英國の婦人は米國の婦人よりも家事の整理の術殊に理財に長じて居ると言ふ評である。英國の主婦は節儉の上に於ては獨佛の主婦に到底及ばぬけれども米國の婦人に比ぶれば著しく節儉である。又家族に和樂を與ふる上に於ても米國婦人に優つて居ると稱せられて居る。

十二、社會

米國の社會は米人を作り出すことは前に數回述べた通りである。社會生活の影響が國民性の訓練上に最も大なる勢力を有して居る例を求めたならば自分は先づ米國を以て第一に擧げなければならぬ。是れは年々百萬餘の移民が漸次米國魂に同化されて行くのを以て最もよく理解することが出来る。

歐羅巴の社會を見馴れた眼で米國の社會を見れば如何にも新開國らしく不秩序不調和無趣味殺風景を免れぬけれども自分が國民性の條に列擧したやうな國民性の長處は何人も之を認むることが出来ると思ふ。是れが米國が世界の強國

として存立し國運駸々として發展しつゝある理由を説明するものと思ふ。

教育ある米國人は中々上品である。殊に東部の紳士は英國紳士と見まがう位であるけれども米國人の大多數は世界の典型として推し出すには如何であらう。米國の社會は比較的健全であるけれども直ちに之を以て世界の模範とするには足るまい。名譽ある米國魂も時代と共に多少變遷しつゝあるやうに見ゆる。昔のモンロー主義はいつしか捨てられて今は帝國主義の實行に忙はしい。米國は平和を理想とし正義人道を標榜するに拘らず有色人種する處置は公平を缺いて居ることが近年になつて著しく多い。奴隸開放の爲めに義軍を起した精神は今尙米人の頭腦に健在であるか試みに借問して見度い。米人は自由を生命とし一切均等の待遇を主義として居るに拘らず自負尊大の念が強く他國民他人種に對して傲慢不遜の態度を取る。率直と言へば美德に聞ゆるけれども往々無遠慮無作法となり簡略主義は粗略主義となつて他國人に不快を感ぜしむる。自國より一層劣等と見做した國民に對して侮蔑の態度を最も露骨に表白するものは米國人である。獨逸人は英佛二國民に比すれば他國人の反感を買ひ易いが米國人は

獨逸人以上である。自分が米國に居つた時は前に人の談を聞いて想像して居つた程不快の事は經驗し無かつたけれども他國に比ぶれば住心地よい程度が最も少なかつた。米國に居れば立派な人に接すれば敬服し下等のものに接すれば腹立たしい事がある。是は米國に旅行した日本人一般の所感であらうと思ふ。初めから米國に居る日本人や長く米國に住み馴れた人は左程の感じもあるまい。米國の産業主義は往々黄金萬能主義となり射利の爲に狂奔し金力を恃んで專横を極むるものを生ずる傾向を免れぬ。教育上の速成主義は専門家の學術上の素養淺薄の傾向を生ずる。例へば醫師の如きである。此點に就ては在米の獨逸人は大に非難し又併せて辯護士の無識を笑つて居る。警察裁判所の腐敗に就いても種々の報導があるけれども自分は茲に詳言することを好まぬ。要するに米國魂の長處は一方に於て短處となつて種々の弊害を醸しつゝあることは疑ふ可からざる事實である。殊に吾人が最も注意を要するは年々渡米する歐洲各國の移民は下層社會のもので假令米國魂に同化されても本國より持つて來た劣等の品性は一朝一夕に改むることは出來ぬ。是等が積り積りて社會に惡影響を與へ道

徳の標準を下落せしむる恐ある事である。此等の諸點を考ふれば米國人が目下性格訓練問題に留意するに至つたのは決して偶然で無い事が分る。

結論

現今宇内に對峙せる強國は孰れも世界の氣勢に伴ひて文明の進歩を圖り益己の國力を發展して最優等の位置を占めんと努力奮勵しつゝあるとは争ふ可からざる事實である。此競争劇甚なる時代に於て國家發展の基礎を國民の教育に求め其改善進歩に苦心慘憺たる經營をなしつゝあることも亦掩ふ可からざる事實である。自分が見る所に依れば國家の存亡隆替の依りて係る所は一方に於て國民生活に必須なる學術藝の教授如何にあるけれども其最も根本となり原動力となるものを求むれば國民性格の訓練如何にあるのである。若し國民性格の如何を顧みざるに至れば學術技藝はありても其用をなさぬのである。歐米列強各固有の國民性格を有し其訓練の方法も一様で無い。各自最よく自國に適する方法によつて各自の理想とする國民性格を作り出さんとして居ることは上來陳述

したる所によりて明瞭であると思ふ。又歐米列強の現在の國勢と其國民性并に其訓練法とを比較して考ふれば隆替各其理由が明瞭である。列強の今日あるは孰れも嚴然たる根柢があつて決して偶然では無い。國運隆興の基礎には必ず各着實堅固なる國民性の訓練が行はれて居るのである。

我明治の時代は泰西文物の輸入を始めとして空前の進歩發展を以て國史の上に燦爛たる異彩を放つて居る。僅々四十餘年間の進歩發展としては實に世界に歴史あつて以來の奇蹟と稱するの外は無い。併し明治の文明は其裡面に於て幾多の弊害を醸し大に識者先覺者の心を苦しむるものがある。曰く。奢侈虚榮の風。曰く。輕佻浮薄の俗。曰く。青年の意氣銷沈。曰く。學校騒動。曰く。危險思想。曰く。懷疑思想の類である。世人動もすれば此等は泰西文明の輸入に伴うて生じたもので西洋文明を採用する以上は必ず之に伴つて來るものやうに考へて居るものがあり又斯様に論ずる人も間には見受くるやうである。併し此等の病的思想は孰れの國にも多少はあつても孰れも其國民性の本領では無い。歐米の列強孰れの國を求めても之を以て國民の本領として居るものは無い。國

運の隆興と此等の思想とは全く無關係である。されば此等は若し歐米に假りにありとしても其短處に屬するものである。之を以て文明に伴ふことを得ざる弊害と言ふことは出来ぬ。

明治の社會に日本の社會に缺乏して居つたものは主として泰西の物質的文明であつた。當時は上下擧つて泰西文明の輸入に努めたけれども之を國民性の訓練から言へば當時の人の性格は事實上舊來の方法によつて陶冶せられて居つたのである。而るに明治の終りに幾多の弊害を醸し來つたのは泰西の長處を學んだ爲めて無く寧ろ其短處にカビレた爲めてである。明治時代には泰西の物質的文明の長處を探るには大に盡力したけれども國民性訓練の上に於ては著しく其長處を學んだものと思はれぬ。明治教育史上に於ても彼の訓練法の長處が屢々紹介された事はあつても事實に於ては大に之を學び之を發揚したやうには思はれぬ。よし多少彼の訓練法を學んでも充分に其長處を發揮したものは少い。其顯著なるものは彼の長處で無くて寧ろ彼の短處である。

自分の考ふる處によれば明治の進歩を來した根柢と見るべき國民の元氣と氣

象とは泰西文物の輸入の結果で無くて日本人が本來固有して居る國民精神に本ついた者で其訓練の方法も日本固有のものであつたに相違無い。明治の未だに方つて種々泰西文明の弱點を暴露し來つたのは日本國民が一方に於て彼の物質的文明の長處を得た代りに我國民性格の長處の一部を捨て其上に彼の短處を引受けたのでは無いか。要之。自分は國民性の訓練上から云へば我は彼の長を學ばずして其短にかびれ我短を補はずして却つて我長を捨て居るのでは無いかと恐るゝのである。

自分が本書に歐米列強の國民性の訓練を論述したのは何か我國の國民性の訓練に何等か資する所があるだらうと信ずるからである。日本教育の立場から言へば外國の訓練法は他山の石として參考に供するので最も重要な問題は我國民性の訓練法を如何にして改善進歩を圖るべきかと言ふに歸着する。

我大和民族の國民性如何。其長處如何。其短處如何。其長處を發揮し其短處を補ふ最も有效なる方法如何。此等は吾人が滿腔の熱誠を以て攻究すべき問題で讀者諸君は本書を讀む際に諸種の思想が胸中に往來した事であらうと

思ふ。自分も終りに臨んで私見の一端を述べて見度いけれども自から別問題に屬するから他日の機會に譲り茲に二三の疑問を提出して讀者諸君に解決を求め度いと思ふ。

日本の新教育は明治時代に空前の進歩をなし知識技能の教授法に於ては研究が随分行届いて居るやうであるが我國民性の訓練に於ては之に遜色なき方法が立つて居ると言ふことが出来るか。言ひ換ふれば我國民性の訓練に於ては我日本教育は獨立の體面を保つに充分の抱負ありや。日本教育にては修身科を重んじ高尚なる國民道德の理想を標榜して居るが此理想は遺憾なく實行の方面に實現されつゝあるか。嘗て米人スウング氏が批評したやうに「日本人は道德を口にすることを好み其實行如何を顧みず」と言ふ傾向なしと反證するに充分の根據ありや。修身科は充分に豫定の効果を收めつゝありや。殊に中等以上の學校に於ける修身科の成績果して充分なりや。修身科以外の訓練の機會は充分に利用されつゝあるか。修身教授に對して實行方面の訓練は充分に行はれつゝあるか。性格訓練の方法は果して教授法と同一の効果を收めつゝあるか。更に進んで我

邦の家庭の訓練は國民性格訓練の場所として相當の任務を盡しつゝあるか。日本の社會は國民性格の訓練を助長しつゝあるか。將た幾分か之を妨害しつゝあるか。我社會の風儀は充分に堅實なりと言ふを得るか。小學校を卒業したる大多數の青年の訓練は充分と言ふべきか。勤儉忠實の風は遺憾なく養成されつゝあるか。日本帝國は立憲政治を行つて居るが國民自治の精神は果して能く學校家庭及社會に於て涵養されつゝあるか。我國民現時の政治的生活は果して能く他國の模範とするに足るか。我物質的文明は果して堅實なる精神的基礎を有するか。日本の世界的商業は果して充分の信用を博しつゝあるか。日本は古來禮儀の國の稱があるが今日果して此稱讚を受くる價值があるか。日本の家庭學校社會は果して國民性の訓練に於て協同一致して同一方向に進みつゝありや。自分は此等の疑問に自問自答して感慨措く能はざるものがある。

現代は四海比隣の世の中である。思想交換の便は四方八方に通じて居る。有益の著書は直ちに各國の語に翻譯せられ斬新の研究は直に新聞雜誌により立るに千里の遠きに達し、諸般の萬國會議は世界の名士を一堂に會して思想の交換を

便にする。之が爲めに世界各国互に他國の長處を採つて我短處を補はんと務むるやうに見ゆる。殊に自國の短處は他國の長處と比較して極めて顯著となるのである。英國の自重自尊主義を以てすら世界最優勢の地位を謙遜して自國の缺陷を補はんとするに汲々として居る。獨逸の知育の長處を學び又モズリーの米國視察委員派遣の如きは其適例である。明治三十五年の小學校令の大改正の如きも獨逸より少なからざる刺戟を受けて居るものと見て差支なからう。英國人が現今の教育法を以て満足して居らぬ事も英國の輿論と見るべきである。

獨逸も今日に於ては充分に從來の教育法の短處を自覺して他の強國の長處によつて自國の短處を補はんとしつゝある。獨逸が從來の學校の授業時數の過多と試験の壓迫の弊を覺つて英米の長處とする運動競技を輸入し又束縛主義の短處を觀破して自治の精神を鼓吹し又知識偏重の弱點を補はんが爲めに近年切りに米國の刺戟によつて作業主義の勃興を見るに至つた如き一として此傾向を證明せぬものは無い。

吾人は佛國の教育に於ても同様の趨勢を見ることが出来る。ドモラン一派の

絶叫は佛國教育の缺點を英國教育によつて補はんとするものである。最近にあつて性格訓練の方に一層意を注ぎ古風をすてゝ現代生活に適する人物を作り出さんとするは一般の努力である。今日に於ては佛國の眼識ある人は從來訓練の煩雜なる規律の弊を悟り規律の取締は一層寛大にすべきものとして居る。

米國教育が獨逸の影響を受けつゝあることは最も著しい。又女教員問題より國民の訓練上缺點あることを發見して之が救済の途を講じつゝあることも同一の氣運と見てよからう。

斯の如く論じ來れば我日本の教育に於ても若し著しき短處ありとすれば彼の長を取り來つて我短を補ふのは當然の事である。自分は日本人は日本の長處を發揮するに十分の力を盡すべきことを主張するのである。日本國民性の訓練には日本固有の國民性が固より其中核とならねばならぬ。約言すれば益我長を發揮して我短を補ふのである。自分の此著書が幾分にも此方面に貢獻する所があつたならば自分の満足此上無いのである。

歐米列強國民性の訓練終

附 録

獨逸の家庭に於ける學校生徒

一 學校教育と家庭教育

學校教育の基礎が家庭教育によつて作らるゝことは極めて明白な事實で今更茲に詳述する必要は無い。又兒童が學校に入る前は其教育が全部家庭に於て行はるゝことも言ふまでも無い。併し乍ら兒童が學校に行くやうになつたからと言つて其の父母は決して教育の事業から手を引くべきものではない。學校は教育を目的として出來た機關であるけれども兒童は晝も夜も残らず學校に居る譯には行かぬ。兒童が學校に居る時間と家庭に居る時間と比較して見れば勿論家庭に居る方が長い。夫れ故に若し父母が無教育か或は大に學校の方針と異つた考を持つて居るやうな場合には學校教育の効果は家庭によつて片端から破壊さるゝ事が少く無い。教師が苦心して教へ込んだ事が一朝にして水泡に歸して仕舞ふ。斯様の點から考ふれば學校教育の結果を充分ならしむる爲には少くとも第一に家庭が之を妨害又は破壊せぬと言ふ消極的の條件が必要である。家庭は常に學校教育の効果を妨害又は破壊せぬのみならず更に一步を進めて積極的に學校と協同して其事業を補助促進して行く必

要がある。學校は決して學校の爲めに教育を施して居る譯では無い。生徒を立派な國民に作り上げる事が目的である。即ち生徒の爲めに教育して居るのである。國家に學校が無かつたならば子弟は無論家庭に於て教育を受くるか若しくは他の方法を取らねばならぬ。とも角も子弟の教育につき直接の責任を帯びて居るものは其父母なることは最自然の道理である。斯様に考ふれば兒童が學校に入つてからも父母が其教育に助力すべきことは當然である。換言すれば學校の教育が有効なるやうに力を盡さねばならぬ。加之家庭は教育の上に於て學校の到底及ぶ能はざる長處を持つて居る是は取りも直さず骨肉の温情である。親子の愛や同胞の信は家庭外には容易に見る事は出来ぬ。家族は愛情、同情、誠實、等のあらゆる美德を骨子として成り立つて居るから教育の場所としては最も自然である。家族は互に私利を捨て、家族全體の繁榮發展を希圖して居るのである。是は到底通例の學校では見る事は出来ぬ。家庭が教育の場所として學校に優る第二の點は教育の方法が個人的であることである。學校教育では學級制で一齊に教授する爲めに大に各個人の特性や長處短處を注意して居つても其注意は一人一人に教育するやうに周到綿密な事は出来ぬ。又兒童の不用意の時を絶えず觀察して習僻、弱點等を知る機會は學校は到底家庭に及ばぬ。臨機應變に兒童の行動云爲を矯正するのも同様である。兒童の個人的發達を監視するに家庭は最も優等の位置を占めて居るのである。又他の方面より考察すれば普通教育を施す學校は必ずしも各生徒の身分位置境遇を精細に顧みず

一般に國民として知るべきこと人として行ふべき道を教ふるのである。教授の方法が學級制により一齊的であるやうに其の教材も同級のものには皆共通である。是は廣く國民としての生活の準備をする爲めて一個人一個人の爲めに直接に特別の生活の準備する爲めて無いからである。然るに個人としての生活は一人一人に其事情が違ふ。即ち身分、職業、財産等の差異に従つて衣、食、携帶品、の如き有形の物から言語、舉動に至るまで適當でなければならぬ。其爲めには特別の知識技能が必要であり又之を得るに特別の躰が無くてはならぬ。斯様な特別な躰は到底學校で遺憾無く授くる譯には行かぬ。さりとて自然のまゝに放任して置いて済むもので無い。家庭教育が此個人的生活の準備に關する周到の躰をなすことは自然の順序と言はねばならぬ。

自分は斯様の着眼點から考察して學校教育は家庭の助力を待たずしては充分に其効果は收むることが出来ぬと信ずるものである。不良少年は多く缺點ある家庭から出て、居る如く兒童が學校に入る前の家庭教育が宜くなければ學校教育が施しにくいのみならず時としては學校の迷惑者となる。之に反して成績の優等なものは多く家庭に其基礎がある。成績の優等なものは生徒一人の力計りでも無く學校の力ばかりでも無く家庭の躰が有力なる原因であることは疑はれぬ事實である。

然らば學校生徒と其家庭とが獨逸では如何なる關係になつて居るかと言ふのが此通信の眼目である。充分の年月を費やし廣く細かに精確に觀察したならば我邦の教育界に極めて有益なる報道を貢獻することが出来るに相違無い。遺憾ながら自分が是迄一年餘の滞在はまだ長いと云ふことは出来

ぬ。自分の觀察した範圍は充分に廣く且つ觀察の方法が公平無私で且つ精確であると斷言することを得ぬ。併し自分は色々異なつた學校に通學した四人の子供ある家庭に入ヶ月間同居し又其知己親戚の家に入し子女の朋友に接し又他に觀察した所を綜合して出来る丈け忠實に記述したならば幾何か讀者諸君を益することがあらうと信ずる。

家庭の事情は主人の位置、職業、階級、財産等の如何によりて大に趣が理ふから中々一概には云ひにくひ。自分が今茲に述べやうとするは主として中等及中等以上の社會のつもりである。即ち子弟に中等教育以上を授けんとするのである。

二 學校生徒と母親

赤兒が生れ落ちてから第一に世話になるものは其母親である。母親が其幼兒の看護者であることは文明の程度の如何に拘らず古今東西を通じて其軌を一にして居る。又家庭に於ける夫婦の分業の上から考へても夫は外出して業務に従事することが多いから子供の世話は自から妻の手に委ねばならぬことになる。幼兒が次第に成長して學校に行くやうになつてからも此事情は依然として繼續して行く。古來偉人君子賢母の手に育てられたものが多いのは自然の順序である。

獨逸では子供の教育は母親が監督すべきことになつて居る。是はベスタロッチーを始めとし幾多の教育家の意見と一致する所であるのみならず常識に訴へても極めて自然の事である。そこで子供

が學校に行くやうになつても學校の時間に後れぬやうに食事其他身仕度の世話注意監督は皆母親の責任である。子供が家に居る時の色々の躰も主として母親が主になつて仕込む。子供は何事も母親の許可を得ねば手を事す事が出来ぬ。遊びに出るのも、物を貰ふも、凡て母親の指揮に従ふのである。子供が學校から命ぜられた課業を正しく行つて居るかどうかを監督するのも母親の役目である。そこで家庭の躰がよければ母親の名譽であり家庭の躰が行届かず子供が我儘であるとか學校の教師がもてあますやうなのは取りも直さず母親の不名譽又は耻辱となるのである。何か生徒が學校でよく無いことをしたとか或は學業を怠ると云ふ場合に家族を學校に呼び出す時に行くものは日本て通例に言ふやうに父兄で無くて母親である。

母親は子供の教育の責任を帯びて居るから一方に於て子に對する慈愛を失はぬに拘らず一方に於ては子の躰に就いては極めて嚴格である。母は自分の教育意見に異なることは決して子供に行はしめぬ。其嚴禁の勵行はとも女子の意思力では實行が出来まいと考へらるゝ程である。子供が母親の命に背き又は爲すまじき事をすれば罰を加ふる。此罰を加ふるのも父親で無くて母親である。之れは五六歳の子供計りでは無い。日本では隨分生意氣盛りの青年令嬢も母親の叱咤に避易するとは決して稀で無い。少し良い家庭に於ける母親の子に對する威嚴は日本人たる我等の想像に及ばぬ所がある。此點に於ては日本と獨逸(廣く西洋)との間に大なる差異があると思ふ。

我邦には嚴父慈母と言ふ熟字は全く普通名詞として用ひられ嚴父と言ふは特別に嚴格なる父、慈

母と言ふは特別に慈愛深き母を指すのでは無い。唯父母と言ふと同義である。言葉を換ふれば此形容詞は孰れも親の子に對する態度によつて冠らしめたものと解釋すべきものであると思ふ。言ふまでも無く父は子に對して飽くまで嚴格で人の道を教へ子の過失あれば嚴重に戒飭する位置に立つて居る。併し父母一様に歩調を揃へて子を攻め立つれば子は全く味方を失ひ頼る人が無くなる。つまり嚴正なる道義には協つてもうるはしき親子の情愛に疎くなる恐れがある。つまり義理にならずに人情に遠かる傾がある。そこで父が嚴なれば母が慈て之を調和して行くと言ふのは家庭融和の自然の要求と思はれる。例へばひどく父に叱られるれば子は氣が挫けて仕舞ひ或は父を恐れ或は父を怨むやうな事になるかも知れぬ。そこを旨く取りなし父の訓誡を有効にして行くのが母の任務て之にはあたゝかき慈愛の情が其生命となつて居る。此は日本の家庭の方針である。然るに獨逸には我邦の嚴父慈母の熟字と正反對の熟字がある。直譯すれば嚴母慈父 (Strenge Mutter und milder Vater) となる。自分は伯林で一度食卓に家族一同集まつて居る時に此事を話した所が子供連中は日本の慈母主義が大賛成で日本に生るればよかつたと言つて切りに日本の子供を羨やんで居る。之に反して両親は日本の子供は歐羅巴の子供より大人なしいそうであるから日本に遣つて躰け度いと言ふ。子供等は父の溫和なるを知つて日本の父の嚴格なることを知らぬ。日本の子供の幸福を羨む所は誠に無邪氣である。日本の子供が歐羅巴の子供に比して少し無氣力と思はるゝ程大人しいのは事實のやうである。是は日本の嚴父主義に畏縮して居る傾向は無いかと自分は疑ふのである。併し此事は決して

て一つや二つの單簡な理由で説明することは出来まい。

嚴父慈母と嚴母慈父とが正反對になつて居るから凡ての家庭教育の關係が東西正反對であると言ふやうに解釋することは出来ぬ。詳しく言へば日本では父が専ら子の教育の責任を有し母には少しも嚴格な所が無く獨逸の父は子の教育に無責任で母は少しも慈愛が無いと言ふのでは無い。又獨逸の父親が子に對して少しも嚴格な誡飭を加へぬと斷言することは出来ぬ。子の教育に就いては父母は勿論意見が一致せねばならぬ。又一方丈け全く責任を免るゝと言ふ事も不合理である。けれども父は平素外に出づるとが多いのみならず家に在つても仕事が多いからして日夜家に残つて居る母親が主として教育監督の責任を負ふと言ふとは自然の順序である。けれども母親に教育が無く子の教育の任に當る資格に缺點があると言ふことになれば勢ひ其代りを求めなければならぬ。而して其最も自然なる代りは父親である。女子教育が等閑に附せられて居た我邦の昔に嚴父慈母の熟字通りの俗習を馴致したのは免る可らざる結果ではあるまいか。併し女子教育漸く勃興した明治四十三年の今日は勿論徳川時代の趨勢を以て論ずることは出来ぬ。又今日は明治の初年とも家庭の事情が大に變つて居る。孰れにしても子に對して兩親の感化の偉大なることは古今東西を通じて否む可らざる事實である。唯父母の孰れが主として子の教育の任に當るかと言ふことと父母が子に對する態度の如何が東西稍其趣を異にして居ると思ふ。

子の教育は子が男であるか女であるかに因つて父母が之に對する態度が自から違ふ。日本では嚴

父慈母で父が主として躰方の役を務めたやうに見ゆるけれども女子の躰には母親が主として責任を負うた事は争はれぬ。獨逸でも子の教育は主として母親が責任を負ふことになつて居つても子供が次第に成長して行くにつけ男子は父の感化を受くることが多くなり女子は特に母親の指揮を受けるやうになることは東西變りは無。唯子供が成熟するまでは母親が躰について一種の威嚴を有して居る點は日本よりは大に趣が違ふと思ふ。

母親が多忙で充分に子女の教育に力を盡すことが出来ぬとか、或は社會事業の爲めに外出するところが多いとか或は子が多い爲めに一人では充分に手が届かぬとか或は子供が學校で不成績であるけれども父母は之に相當の策を施す道知らぬとか言ふ場合には所謂家庭教師を備うて之を補ふ。家庭教師には種々あるけれども其主要の任務は母親の補助と見るのが適當であると思ふ。

家庭教師には女子が多い。母親の補助と言ふ任務から考ふれば女子が多いと言ふ理由も自ら明瞭である。家庭教師には其家族の一人と同じ待遇で同居するものと通勤するものと二種ある。同居する家庭教師は子供が全く學校に行かず自宅ばかりで教育さるゝ場合に多い。是は勿論上流の社會である。家庭教師には免狀を持つて居るものが多い。言ひ換ふれば専門の教育家である。又特別に子女に外國語に熟達せしむる目的で外國婦人を家庭教師として置いてある家庭もある。又單に子女の學課の豫習復習を補助せしむる爲めにギムナジウムの生徒や大學の學生を同居せしむるものもある。是は學生生徒の方から言へば内職で學資に窮するものが之をやる。又學生、生徒に時間を限つて來て

貰ふ家庭もある。或は他の男子の學校教師に來て貰ひ又は其宅に行つて學課の豫習復習の補助をして貰ふ向きもある。此等は孰れも母親又は父親が其子の教育に充分の世話が出来ぬか子の成績が思はしからぬ時で通例は母親が其任に當るのである。

此は生徒の自宅で教授を受くる場合であるけれども反對に生徒が教師の私宅に通うて課外に補習して貰ふこともある。此は日本では能くある例であるけれども獨逸では極めて少いやうである。

母親が教育少く父親が教育に富んで相應の暇があれば出来る限り子の教育を世話するのは當然である殊に子が段々に生長して高尚のことを學ぶやうになれば通例の母親では手が及ばなくなつて來る。其時に父親に不審を聞くのはあたり前である。又生徒が全科又は特別に或る學科に缺點があれば教師に通うて貰ひ又は生徒が教師の私宅に通ふのが通例である。同じ家庭に兄弟姉妹多く同時に學校に行く場合には互ひに學科の豫習復習を助け合つて母親の手を省くことも自然の道理である。

三 子供扱

子供が子供扱を受くるのは如何なる國でも同じことであるから自分が特に茲に一項を設けて云々するのを不思議に感ぜらるゝ方もあらうと思ふ。併しながら獨逸では子供は成熟するまでは凡ての點で子供扱を受くることは日本に比べて見れば著しく違ふ所がある。外形の上から

言へば着物の形が違ひ一見して子供らしくして居る。行動云爲の上から言へばまだ一人前の権利が無いものとして凡ての點で自由を制限せられて居る。成人すれば勿論勝手にやつてよい事でも子供の中は一々母親の許可を得なければならぬ。芝居や寄席などへは子供は行くことは出来ぬ。幼い子供は晚餐の食卓に出さぬ家が多い。之れは多く子供は早く寝かすのに晚餐は時間があそくなるのも一つの原因であらう。子供は食物も大概制限してある。大人に比ぶれば質素なるものを食つて居る。料理屋に連れて行つた場合には子供には通例特別に簡単なものをあてがふ。子供にアルコール類を飲ませぬのは勿論である。

通例の家では子供の室は別にあつて子供同志雜居して居る。大人の室に比ぶれば萬事粗末である。是は日本でもある事て生ひ立ちの子供はあばれ廻り、はね廻り手當り次第の物を毀はすからであらう。上等の客室や大切な物を置いてある所には子供は減多に入れぬ。もし入るれば極めて靜肅にさする。

子供の間は男でも女でも皆名を呼び捨てである。之れは両親や兄弟又は年長の人が呼び捨にする計りては無い。幼い子供が年長の子供に對しても同様である。尤も夫婦兄弟其他親戚の間は年齢の如何に拘らず互に名を呼び捨にするけれども子供は他人からも同じ様に呼び捨にさる。下女からも同様である。此稱呼に對しては貴賤貧富の區別は無い。西洋人は十四五歳になれば日本人の大人より身幹の高いものはいくらもある。自分より大きいものを子供扱にすることは我々には一寸始め

にはきまりが悪いやうな気がする。殊に名を呼ぶ時に名を呼び捨てにするのは言ひ出し悪くい感じがする。名のみならず子供に用ふる二人稱の代名詞が違ふ。夫れによつて動詞の變化も異なつて來る。是れも使ひなれぬ日本人には一寸六ヶ敷い。子供は日本人から大人に談すやうに談し掛けられて得意になつて居ることがある。

西洋では一般に婦人を尊重する。けれども之れは成熟した婦人て其前は矢張り子供あつかひである。日本では年頃と言つて大事にさるゝ時でも獨逸ではまだ子供扱にされて居る時代である。挨拶をするにも片膝を折つて禮をする。獨逸では之をクニクセンと言ふ。着物も裾が短く髪結び方も單純である。汽車電車に乗つても大人に立つて居る人があれば男女に拘らず子供が席を譲るのが禮である。妙齡の少女でも子供に屬して居る間は同じである。

獨逸では右を上席として男同志であれば年長者又は尊敬すべき人を右にやる。道を併んで行く時にも右が尊いことになつて居る。婦人が加はる場合には何時も婦人が右側になる。併し女子も成熟せぬ中には除外例である。即ち子供として取扱はるゝので子供には男女の別を立てない。即ち中性である子供は長上を尊敬するのはあたり前て其爲めに用を達するのと同じ考へてある。

來客があつても其家の子供は矢張り子供扱にさるゝ。來客であるからとて特別に子供の扱方を改めて媚び諂ふやうなことはせぬ。子供は何處々々までも子供扱にさるゝ。

來客の爲めに食卓が狭くなつた時に第一に別席にさるゝのは勿論子供がある。子供は食卓に就い

た時に食物は自分の勝手の分量を皿から取ることを許されぬ。自分の皿を出して母親に分けて貰ふ。西洋人は食卓に就いて居る間は好んで愉快に談話するけれども子供は勝手に口を出すことを許されぬ。多くは問ひに答ふる位である。又内所て耳に囁くとも嚴禁してある。誰が聞いても差支の無い事の外は言つてならぬと言ふ譯であらう。要するに西洋では概して子供の時期が日本より長いやうである。子供も子供らしい間が長く世間の人も其間は子供はあつかひにするのである。日本人が早熟の評を受くるのは此邊の習慣の相違に原づく所もあらうと思はれる。殊に成人に近き子供時代には此相違が甚しいやうである。

四 學校課業の準備

教育の普及は實に獨逸の誇りである。今日獨逸の駭々たる物興の氣運が大に教育の力によつて居ることは何人も疑はぬ所である。是は教育の制度が完備し教育の學と術と併行して發達して居る計りて無く國民の發展は教育に基礎を置かねばならぬと云ふ觀念が深く國民の腦裏にしみこんで居るからであると思はる。教育と言ふ事業が學校計りに行はれて居るのみならず社會國家の各方面の人が其價値を認め家庭に於て兩親が學校教育の意義を理解して相協同して同一の精神を貫徹せんと努むるからであると思ふ。換言すれば國民の義務教育の意義が獨逸程廣く國民の間に普及せられ又能く理解せられ且つ嚴重に勵行されて居る所は無いと思はる程である。

如何に下層の勞働者も其子弟を教育せねばならぬ事を知らぬものは無い。又相當の教育なしに社會上に相當の位地を得らるゝものと僥倖をあてにして居るものも無い。そこで家庭の人は子供が學校の課程を規則正しく履修して行くのに少しの妨害を加へぬのみならず子供が果して能く學校の命ずる通りの宿題をやり又適當に復習をして行くかどうか嚴重に監督して行く。此監督の任に當るものは前にも述べた通り主として母親である。學校の命じた豫習又は宿題は必ず勵行すべきもので家庭は決して妨害す可からざるものと信じて居る。そこで子供を使へば便利の事があつても學課の準備がすまぬ中か又は其妨害となる恐れがあれば決して使はぬ。

他の子供が遊びに誘ひに來ても學課の準備が出来ぬ中には本人も斷はる。又本人が行きたがつても母親が決して許さぬ。來客などがあつて面白いことがあつても學課の準備が出来なければ席を外づしてやらせる。伯林などに日本人が下宿して居つて偶々友人が二三人遊びに來て居るから用があつて其家の子供が室に來た序に少し談して行かぬかと誘うても學課の準備がすんで居なければ必ず斷はる。此事は兩親も本人も其他の家族も等しく大事に思つて敢て冒す可からざるものとして居る。

學校に行く生徒は皆學課簿を持つて居て毎日次の時間に準備して來る事柄が記入してある。それを見れば誰にも準備すべき範圍が分るやうになつて居る。母親はそれを見て監督して行くことが出来る。

宿題や教場の仕事は皆筆記帳に書き込むやうになつて居て教師が目を通したものは誤を訂正し其誤の數や其日の其學課に就いて全級中の成績の席次が書き込んである。それで兩親は毎日其子供の成績を知ることが出来る。

教師は日々教場で生徒の成績を手帳に記入する。兩親や子供が日々教場の成績を氣にかけて居ることは少し極端では無いかと思はるゝ程である。獨逸では晝食が晚いから大概の學校は晝休みなして午後一時か二時にすんでしまひ生徒は家に歸つて家族一所に晝食するのが通例である。子供は通例其の日の成績を兩親に聞かれる。其他學校での出來事は談柄の一つである。

教師は學課の準備を生徒に強制することは職掌上當然の事て日課に甚しき不成績があれば本人の子供が非難さるゝばかりでなく、兩親に通知が來るのみならず、場合によつては家族が學校に呼び出さるゝのである。子供が出來る丈けの事を備準して不成績なのは己を得ぬことであるが、明かに準備をせぬ爲めに不成績なのは本人が教場で耻を曝す計て無く家庭の監督の行届ぬことが同時に分るのである。

獨逸人は萬事に秩序を重んずる國民であるから學校に時間割ある如く子供の家庭に於ける仕事も通例秩序が立つて居る起床の時間、食事の時間、學課準備の時間、遊戯の時間、就寢の時間等皆一定して居て嚴重に勵行して行く。子供のみならず大人も時間にさまりがあるので我々日本人の如く時間に無頓着な習慣を作つたものには獨逸人の家庭に入つて獨逸人と一様に起居して行くには極め

て窮屈に感ずる事が多い。獨逸では此一定の時間を基礎にして他の事を計畫するのであるから少しも動かせば凡ての事にさし障りが生じて來る。一寸人に約束した事でも破らなければならぬとなる。時間の勵行は西洋の複雑な社會には必要にして缺く可からざることである。此習慣は子供の時から堅くしこんで行く。前の學課の豫習復習を勵行するのみならず、就寢の時間が來れば如何に子供が面白がる事があつても無理に割愛させて就寢せしむる。十五六の青年男女までも其通りである。親類の來客があつても子供丈けは必ず先きに、就寢せしむる。是れは翌日の課業に妨害にならぬ爲めて其精神は學校教育を重んずる所に出て、居る。子供を演劇等に連れて行かぬのも同じ精神である。子供の發達に安眠の必要な事は言ふまでも無いけれど獨逸人が子供に對して此事を極端に嚴重に勵行するのは萬事規則づくめの習慣が少からず與つて力があると思ふ。即ち絶對的に法に従ふと言ふ習慣が深く國民の腦裏に浸み込んで居るのである。自分はライブチツヒて或る日曜日二つの家族の兩親子供其他成人した男女十四五人で近郊に遠足に行つた歸りに或る料理屋で晚餐を共にした。色々の談しが出て仲々賑かてあつたが其中に午後九時頃になつた所が就寢の時間が來たと言ふので母親の一人が兩家族の學校に行く子供を引き連れて先きに歸つて残りの成人丈けが其後暫く談して居つた事がある。斯かる場合にも日々の起居の規則が勵行さるゝことは意外に感じた次第である。學校の教師や家庭の兩親が學課の準備の勵行を監督する計ては無い。本人の知人や社會の人一般に之を妨害す可からざるものと考へて居る。同じくライブチツヒの談してあるが自分は部屋を借

りて晝食丈け或る下宿に行くやうになつて居つた。此家には數人下宿して居るものと自分のやうに晝食丈けに来るものとの二種があつて獨逸のドクトルや女流音楽家等大部分大人計りて一人十八歳になる中學校生徒が居た。或夜一同揃つて自然色寫眞の幻燈を見に行つた歸りに名代のラーツケラー(市廳の地下室にある料理店)に立寄つて葡萄酒を傾けたことがある。其中に中學生を長く引留めて置くことは宜しく無いと言ふ説が出て一人が宿まで送り還へすことになつた。之を見ても一般社會の人が如何に學校教育を重んずるかと言ふことが分ると思ふ。

五 學校教育の補助

學課の準備に家庭のみならず社會までが協力して行くのは取りも直さず學校教育の補助をなして居るのであるけれども家庭は此外色々教育を補助して居る。今便宜の爲めに箇條を擧げて述べて見やう。

(甲) 知 育

獨逸では學校の教科書以外の讀物が多く行はれて一方には生徒の讀書力を養ひ又知識を廣むるのである。幼少の子供には繪本、繪入御伽話、其他の少年文學が盛んに行はれて居る。例へばフランクフルトのハインリヒ、ホフマンが自分の子の教訓の爲に書いたスツルツエルベーターの如きは友人の勧めて出版した所が非常の喝采の中に傳播して自分の買つた本は第二百九十七版である。今

の獨逸人で恐らく此書物の名を知らぬものはあるまい。日本で明治二十年頃に羅馬字で翻譯になつたウイヘルム・ブッシュの原著マックス、ウント、モトリツツのいたづら小僧の話も自分の手に入つた本は第五十六版である。グリムの寓話やハイの詩集は小學校の讀本には必ず少しづつ引いてあるが獨逸の子供は大抵其全集を持つて居る。子供は自分の誕生日や耶蘇降誕祭に贈り物として此種類の書物を貰ふので良家の子供は非常に澤山に持つて居る。自分の觀察した範圍では少年文學の割合には少年雜誌は少いやうである。

獨逸の子供は日本の子供に比ぶれば讀書力が進んで居るやうに思はる。自分の居た家の子供に耶蘇降誕祭の時ロビンソン、クルソーの獨逸譯を買つてやつた。此の子供は日本で言へば尋常小學校の第二年生に相當するのであるが此本を安々と毎日暇の時に少しづつ讀んで内容を兩親に話すのが非常の楽しみであつた。日本の小學校では一寸思ひも寄らぬ事である。是れは大に國語の性質と口語と文語との關係が違ふのもよることであるけれども獨逸では幼少の時から學校の教科書以外の本を讀む習慣があること、讀書力が早くから養成されて居ることは争ふ可らざる事實であると思ふ。

家庭で兩親、祖父母又は兄や姉が家族全體に興味のある本を讀んで聞かすことがある。是は午後茶のあとや晚餐の後である。之は子供の知識を増し理解力を促し趣味を養ふ上に大なる功能があると思ふ。

食卓上の談話も大に有益の事がある。是れは何處も同じ事である道理であるけれども日本のやうに食事の時間が短く沈黙が食事中の美德のやうになつて居る國に取つては特に注意する價值があると思ふ。獨逸では一般に家族の知識が進んで居るから子供が學校で得る外に家庭で得る知識が多いことは疑はれぬ。既に學校で學び得た知識も家庭で屢々耳にすれば益確實になる道理である。獨逸の子供が割合に常識に富んだやうに感ずるのは學校教育の上に家庭教育が大に補助して居る所があるからと思はる。

(乙) 德育

如何なる國に於ても子供の道德の基礎が家庭に養はるゝ事は既に前にも一言した通りで疑ふ可らざる事實であると思ふ。殊に獨逸では現世生活に縁故の遠いやうな教會の歴史や舊約全書の事實を記憶せしむる爲めに多大の時間を割り當てた宗教教授を興へ別に修身を教へぬのであるから學校の修身教授の結果は頗る疑ふべきものである。尤も表面に見えた點から計りて學校教育に於ける德育の効果を云々することは出来ぬけれども自分の見る所では獨逸の修身教授は形式に於ても内容に於ても教育學で八ヶ間敷論究せらるる割合には進んで居らぬやうである。此不完全の點を補ふには家庭の躰が大に與つて力あると信ずる。

獨逸人には義務の觀念が強く秩序を尊び法を重んずる精神が發達して居る。是れは國民に通用の性質であるやうに思はる。又大賢カントの教が此觀念を助長するに力あつたとも疑はれぬ。子供

に學課の準備を勵行せしめ子供は飽くまで子供扱をして長上に服従せしめ起居の規律を嚴正に遵奉せしむる所は取も直さず德育上の訓練である。而して孰れもよく獨逸人の特色を發揮して居る。同時に子供は勤勉精勵の徳を養つて行く。毎日毎日の勉學が子供の學識人物を一步一步づゝ積み上げて行くのである。一日一時間の業をも忽にせず着實に基礎を作つて漸次に大成して行くのが獨逸の修學法である。此法は唯學校ばかりで八ヶ間敷言つても家庭で其勵行に協力して行かなければ効果の半ばは減殺されて仕舞ふ。獨逸の家庭は嚴重に之を勵行して行くので本來着實の方法が愈鞏固なる基礎を作る譯である。獨逸人が學問の研究に於ても實業の方面に於ても政治上軍事上の調査に於ても各自分の責任を自覺して孜孜として倦むことを知らず職務に精勵して現今勃興の氣運を作つて居ることは家庭の躰方に淵源して居る所が少く無いと信ずる。

家庭で行儀作法をしつけ臨機の訓誡や注意で處世の知識を授くることは何處も變らぬことである。又賞罰を行ふことも東西同様であるが獨逸人は子供の時から自我の觀念が強いから不當の罰に抵抗する傾向がある。此點に於ては日本に比ぶれば父母が子女を御し惡くい所があると思ふ。言ひ換ふれば父母は一時の情に支配せられず冷靜なる熟慮を要するからして賞罰の數が自から減じて來る道理である。其代りに賞罰を行ふには有効なるやうにすると云ふ跡が見ゆる。家庭に於ける罰の一としては食卓には出ることを禁ぜらるゝことである。之は食事を興へぬのでは無い。別室に獨りて食べさすのである。又食事中に不都合な事があれば別室に引き出すこともある。或は遊歩に出る

自由を禁ぜらるゝこともある。體罰は殆んど消滅しかゝつて居るけれども耳を引くことや耳を軽く撲つことはまだ行はれて居る。

(丙) 美育

獨逸人は清潔を尊ぶ。道路、室内、衣服等を他國のものと比較して見れば誰の目にも著しく分る。此感情、習慣は早くから家庭に養はれて行く。

獨逸の音楽は今日では世界に有名である。又音楽の普及も世界に比類が少なからうと思ふ。夫れと等しく音楽家も多く趣味も一般に高尚である。中流以上の家庭には自分の家に何か樂器を持たぬもの無く相當の年を取つたもので男女の別なく多少音楽の出來ぬものは無いと言つても宜しい。音楽が普及して居る割合には學校では音楽に力を用ひぬと言つて宜しい。例へば普通教育の學校では唱歌を教ふるけれども器樂は授けぬ。夫れて器樂は男も女も學校以外の音楽教師に私宅教授を受くるのであるけれどもまだ幼い中から家庭で絶えず音楽を聞いて居るから趣味の發端を養成して居ることは疑はれぬ。又外の教師に通つて居つても練習は自分の家でやるから家庭の長上に音楽の出來ざる人の居ることは大なる補助となることは争はれぬ。併し此等は中流以上の家庭で下流に此事の無いのは言ふまでもない。

獨逸人の繪畫は音楽に比ぶれば一段劣つて居るやうである、繪畫の趣味の普及から言つても其通である。併し家毎に各畫帖があつて趣味の養成を助け又時々博物館で眼を肥やすことはやつて居る。

新しき美術上の印刷物も家庭で美育の一助となつて居ることも少く無い。

中流以上の男女は必ず師匠に就いて舞踏を稽古する。之は一方より見れば姿勢の優美、運動の輕妙を期するもので他方より見れば社交の禮儀を稽古するものである。そこで舞踏を正式に稽古したものとせぬものとは身體のこなし歩きぶり帽子の取り方、禮の仕方、握手の仕方、婦人ならば裾の持ち方で直ぐに分る。學校の體操も稍類似したことを教ふるけれども舞踏をやつたものには夫れ丈の美點が姿勢の動作の上に備はつて來る。舞踏は父母が自から教ふる譯では無いけれども少くとも女には必ず母親か又は兩親が揃つて稽古のある夜毎に始めから終りまで附き添つて居る。父母の注意が其稽古に大なる影響があることは言ふまでも無い。稽古がすんで後は家庭内で舞踏會が行はるゝのである。

(丁) 體育

子供の身體の養護には父母が直接に其任に當ることは如何なる國も同様であるが獨逸は學術の進歩した國で殊に醫學が發達して居る爲めか父兄が子供の發達を注意し其健康状態を絶えず觀察して居つて適當の處置を取ることが極めて周到であるやうに思ふ。臨時病氣は姑く之を措き身體の發達の異常なや稍不具に近いやうな缺點を矯正する道をも講じて居るやうである。外科的治療で顔面の修正するのは別として身體姿勢の偏つたものや肩の形のゆがんだものも一種の矯正術があるさうである。自分の知つて居る所では或る令嬢が向ふ齒が外に出て見ゆる程上顎が突き出て居たの

を半年間計りを費やして見事に通例の形に直した。元の顎の形が石膏に取つてあるが今見ればとも同じ人の顎とは思はれぬ位に違つて居る。此治療を行ふには一定の年齢（十三歳前後）でなければならぬので此時期を失すれば術が施されぬさうである。丁度よい年齢に此術を施さうとするには父母が少くとも此術のあること、之を施す時期とを知つて居らねばならぬ譯である。

此外日常の衛生に注意することは勿論で日々の冷水浴はどんな事があつても勵行して居る。又學校から生徒の衛生に關する注意があれば其實行に勉めて居る。子供の安眠に注意することは前にも述べた通りである。自分の見る所では獨逸の子供は日本の子供に比ぶれば餘程神經過敏である。殊に大都會に生活するものは著しいやうである。此は歐羅巴の生活状態が神經を過勞することが多い爲めであると思ふ。そこで夏期の休業には成るべく海水浴又は山地に旅行につれて行く。斯かる保養は或る點迄は必要であるのである。貧民子弟の爲めに夏期休業旅行の新事業が起つたのも營養不良や住所不良も原因をなして居るけれども其上に同じ理由も加つて居ると思ふ。

獨逸は年中氣候が悪く日々の天氣もよく無い。そこで偶々青空にうるはしい太陽が照ると言ふ事があれば時間の繰合せのつく人は争うて散歩に出る。之が日躍てあれば人出は驚くべき程である。公園や近郊の森林は人を以て埋むる位である父母は子供の衛生の上から同伴して行くのは自然である。

子供の皮膚を丈夫にする爲に子供に薄着させることは日本から始めて獨逸に行つたものには一寸

眼につく程である。冬寒い時に子供が半ずぼんと靴下の間に脛を出して居るのは折々見かける。又女の兒の着物が膝まで届いて居らぬのは通例である。其下は靴下一重である。一寸見れば如何にも寒さうに見ゆる。けれども習慣となれば何とも無いと見ゆる。

六 勤儉の精神

獨逸は勤儉の國である。孜々として倦まず業務に精勵して生活の費用を節約する。一定の収入の範圍内で生活費を支出して必ず幾分の貯蓄をして行くと言ふのは獨逸の家事經濟の原則として昔から嚴重に行はれて居る。怠惰を惡徳として擯斥することは言ふまでも無く節儉貯蓄を重んずることは金錢を賤しむ習慣があつた爲めに動もすれば勘定を構はず無用の費用を支出して顧みぬ日本人の眼から見れば驚く程度まで達して居る。家事經濟から一人一人の小使錢の使ひ方に至るまで注意の精細周到なる事は想像以外である。家庭の組織行動が凡て此精神で貫徹して居るから子供は早くから此精神を注入さるゝ。父母は取りも直さず生きた模範である。

勤勉の訓練は學課の準備の項で詳述したから茲に再び贅言する必要はあるまい。子供は先づ日々學校に用ふる教科書及び用具を大切に且つ清潔にして置くことを教へらるゝ。夫れて教科書は表紙を厚い紙で包んで居る。是は日本でも往々見る所であるけれども多數とは言はれぬ。又本の中に書き込みをせぬ。自分は中學校や高等女學校の生徒の外國語の讀本を處々で一々見たけれども書き込

みをして居るものは殆んど見なかつた。自分の衣物を汚さぬやうにすることも大に注意する。食事の時に食卓の白布の覆を汚さぬやうにすることも子供にはヤカマシク言つて教ふる。此白布は通例一週間に一回丈げより洗濯せぬから食事の度びに染みを作れば忽にして汚くなるのみならず。しみの種類によつて中々薬で洗つても取れぬものがある。コンナ場合には食事の時に豫め注意する。其他敷物、壁、窓、椅子、机等の家具や裝飾の類を汚し又は毀けぬやうに注意するから何程子供の多い家に行つても日本てよく見るやうに障子や唐紙に孔をあけたり其邊のものがゆがひや毀れて居ると言ふやうな取亂した風が無い。尤も是れは家屋の構造や家具の性質にも關係する事である。中流以上の家では子供の爲めに特別の部屋があつて平常は勝手にどの室にも入ることは出来ぬやうになつて居る。又各の室が戸締りが嚴重になつて居り家具も概して堅固に出来て居るから子供が一寸いたづらをしたからと言つて直ぐに毀れるやうなものはいない。併しながら西洋とても硝子や毀れ易いものが室内にいくらかあるから此等を破損させぬのは平素の躰方によることは疑はれぬ。此等は室内の整頓、清潔と云ふ考に伴ふのであるけれども之を保存の上から考ふれば即ち儉約の一になるのである。

幼い子供には玩具も大切にさせる。子供は同じ玩具で幾年も遊んで居る。大學に通つて居る兄の玩具やら親の代の玩具だとか言ふものが残つて居ることがある。是れは西洋の玩具の構造が丈夫であることが一原因であるけれども保存に注意することも大に關係して居る。西洋の玩具は随分に念が入つて居つて又大仕掛のものがある。價も随分に高直のものがある。子供は誕生日や耶蘇降誕祭に毎年家族や親類から貰ふのであるから中々澤山に持つて居る。我々の考へから言へば少し身分不相應であるやうに思ふ位である。是は本來子供の必要上又は希望によつて両親が買つて遣つたので無い爲であらう。コンナに澤山の玩具をよく保存して行くには子供に特別の躰を要するのである。自分は獨逸で人形病院（ブッペン、クリニク）と言ふ奇抜な看板を度々見た。是は獨逸人の節儉の思想から起つたもので例のいたんだ人形や玩具を直す所である。此病院は耶蘇降誕祭前に大に繁昌するのである。

學校に行く子供には授業料や書籍代の外に毎月小使錢を呉れる。其金額は月ぎめになつて居つて年を取るに従つて増して行く。通例一ヶ月一マーク位から大きくなれば四五マークである。(五十錢乃至二三圓)是は萬事生活費の高い獨逸人に取つては極めて少額である。少し贅澤すれば唯一度の食事に全部を使はるゝ位である。子供は此小使錢で一ヶ月間の雜費を支辨せねばならぬ。金の使ひ方、即ち節儉の仕方は幼少の子供の中から訓練さるゝ譯である。子供に臨時の費用があつて到底月ぎめの小使錢で遣されぬ時には母親又は父親に補助を乞ふのであるけれども両親は中々おいそれと言つて渡さぬ。其勘定の高いことは我々の想像以上である。五文の切手一枚ねだられても容易には承知せぬ。状態一枚にも文句を言はれる。其代りに子供が親に何某に手紙を出したらよからうと言はれた時に小使錢が足らぬからと言つて斷ると言ふやうな場合も生じて來る。是れは唯節儉と言ふ事計

りのみならず西洋の個人主義と言ふものが一大原因となつて居る。夫婦は勿論親子兄弟も凡ての物に對する所有權が別々で金錢の勘定も凡て別々である。子供は早くから此事を稽古するのである。子供は食事の時に特別の扱をされることは前にも述べた通りである。子供は之れをあたり前として少しも不足に思はぬ。散歩や遠足に行くときも菓子果物や辨當を持たせてやつて容易な事では茶屋や料理屋に入らせぬ。ヨシ珈琲店などに入つても子供には極めて單純なものをあてがふ。

音樂會につれて行くことがあつても學校に行く子供は學生席の安い方にやつて両親と同席させぬものが多い。汽車に乗る時も三等か四等で二等などは餘程贅澤の人でなければ乗らぬ。生徒の修學旅行などは殆んど四等ときまつたやうなものである。

七 女兒と家事

獨逸婦人は良妻賢母平たく言へば世話女房主義で女子の高等教育や女子運動の如きは極めて新しい事だ此點は一般に女子教育の上から言へば米國や英國に比ぶれば遙かに後れて居る。女子問題は結婚難生活難が大なる原因となつて社會の經濟問題に伴ふて起つたものである。一昨年に普魯西では時勢の進運と社會の要求に迫られて高等女學校令を改正したけれどもまだ一般の輿論は良妻賢母を作るを女子教育の自然の主義として女子が職業を得る爲めの準備は唯經濟上已むを得ざること考へて居るやうである。女子の職業も日に増して行き女子が大學に入るものも多くなつて行くけれ

ども地方の大學では女學生は誠に少數で伯林大學の女學生は米國其他の外國人が多いことを忘れてはならぬ。現獨逸カイザールの勅語中に獨逸の婦人は第一に子供第二に着物第三に教會第四に臺所に心掛くべしとありしも實は獨逸人の思想を代表したものである。獨逸の女子教育は極めて新しいものであるから現在自分の娘が年頃になつて居る位の母親の考へと娘の考へとは甚しき相違のあることは疑はれぬ。けれども中流の家庭では其令嬢を家事に手傳はするものが通例である。將來主婦となるものは家事は自分の家で練習するのが最も適切であるのみならず學校や塾の家事科では到底學び得ぬことを學び得るのである。母親はとも角も主婦の模範で自分の生長した家庭が將來の家庭の一標準となることは當然のことである。

獨逸でも妙齡の婦人は音樂會、慈善會其他交際社會に出入し美術を語り文學を談して優美に愉快に其日を送つて家事などは少しも構はぬのが理想であるやうである。上流の社會では大部分事實として行はれても中流では事情が之を許さぬ。許さぬに拘らず令嬢達は多少空想に耽つて居るけれども兩親は矢張り獨逸の主婦主義を躰けることに務めて居るやうである。

家事の手傳ひは無論學校に行く令嬢の好む所では無いけれども學課の準備を妨害せぬ限りに於いて家事の手傳をさせて居る。家事は主として料理、室内の整頓、掃除等である。日本の中流の家では下女でなければ遣らせぬ事を令嬢にやらせて居るのを度々見た。又主婦は下女を指揮して家事を整頓し食事の用意には自から臺所に行つて働らく。此が獨逸風のやり方である。日本人の眼から見

れば下女の人数が概して少い。是は下女が忠實に働くのみならず女子があれば手傳はすのも一原因であると思ふ。殊に子供の多い家ではそうである又生活難から來て居る經濟上の原因も加はつて居る。

自分は高等女學校を參觀に行つて日本で見馴れて居たのに比べて概して著るしく勤勉の精神が表はれ甲斐なく立ち働らく様を感じたが家庭に於ける躰が餘程反照されて居ると思ふ。

此外幼少の時から西洋の生活状態の必要から家庭に就いては色々と嚴重にしこむことがある。今一二を擧げて見れば第一に戸締である。自分が出たあとの戸を締むるとである。日本でものろ間の一尺まぬけの三寸馬鹿のあけつ放しと言ふ俚諺がある位で戸障子の開閉て人の智慧の度が計られるのである。併し西洋では戸締が極めて嚴重で晝でも家の入口には錠を下ろし我室をあけて外出する時にも同様で一室一室が城廓の様をなして居るからして日本の様に夜でなければ錠を下さず家の中は何處でも勝手に往來の出來るのとは大に趣が違ふ。其上に建物が堅固であるから錠さへ下ろして行けば何時家を明けて外出しても極めて安全である。其代りに戸締りに手落があれば何時如何なる事が起らぬとも限らぬ。家の入口の戸は通例閉つて居れば外からは鍵が無ければあかぬけれども内からは勝手に開くやうになつて居る。そこで外出するときに充分にしめぬか又は外から内に入る時に充分に締めねば錠がかゝらぬから勝手に外から他人が入つて來ることが出来る。家の中には錠を下ろして無い室がいくらもあるから入口の戸締は非常に大切である。直ぐに歸るからと思つて外出

するときに戸締をせねば僅かのすきに如何なる事が起らぬとも限らぬ。そこで此事は男女に拘らず極めて嚴重にしつける。一寸開け放してあつても誰か先きに氣の附いたものが必ず戸締りをする。又長く明け放してあることが發見されるれば誰が明け放しにしたと言ふことを嚴重に穿鑿して其責任を正す。

次に瓦斯のねぢである。ネヂ方が足らぬ爲めに臺所に寢て居た下女や料理人などが生命を失うたことは時々新聞に見る所である。そこで瓦斯を消したあとの注意が極めて嚴重である。

水道の栓も同じである。或る時子供が入浴したあとに栓のねぢ方が足らなかつた爲めに少しづつ滴つた水が次第に溜まつて浴盤から溢れ出て遂に室外に流れ階下に洩つて大騒ぎをしたことは自分の居た家族の中にあつた實際の出來事である。

西洋の家事には理化學を應用して極めて便利の事が多い。其代りに少しの注意を怠れば重大の事件を惹起することが少く無い。此等の注意は極めて幼少の時から家庭の中で躰けられて行くのである。

八 子供と娛樂

斯様に數へ立て、來れば獨逸の子供は學校でイヂメられ家庭でイヂメられ何方を向いても四角四面で堅苦しい取扱ばかりを受けて結局イヂケたものになりはせぬかと言ふ疑問を起す人もあらうと

思ふ。獨逸人は概して真面目で地味でコッコツと斷えず勉強して花々しく浮き立つことの無いのは事實である。けれども之を以て趣味なく娛樂の道知らぬものと速断してはならぬ。家庭でも両親は子供に學課の準備を勵行し家庭の躰をして行く外に、子供に相當の娛樂を與ふことを忘れては居らぬ。唯娛樂に耽らすことをせぬのである。

好天氣好時節の散歩、遠足、旅行等は衛生上の目的の外に無論娛樂の意味が加はつて居る。冬期や天氣の悪い時には全く娛樂を目的とした遊戯もやらず。けれども此等の爲めに學課の準備や家庭の躰を犠牲に供することは斷じてせぬやうにして居る。

動物園、植物園、博物館等も娛樂の一つであるけれども容易のことでは連れて行かぬ。其代りに連れて行く時には充分の時も費やし子供に充分の満足を與ふるやうに努むるのである。

九 子供と友達

學校の同級生は廣い意味では凡て子供の友達であることは勿論であるけれども本當の友達はその範圍が極めて狭い。此等は遊びに往き來し誕生日には互ひに招き合ふのである。それで雙方の両親も知り合ひになるのである。其數は四五人である。就中親友とも名くべきものは一人か二人でそうなれば両親も極めて親しく交際する。子供同志も兄弟のやうに交際して其友誼が長く續いて一生涯刎頭の友となるのである。要するに友達は數を少くして深く交ると言ふのである。

親友は子供同志氣が合はなければ成立し無いけれども両親も先方の家庭を見て多少干涉することは言ふまでも無い。又先方の両親との交際が圓滿に行なければ子供同志の交際も圓滿に行かぬのは勿論のことである。

十 附記

以上は自分の觀察した中で獨逸の長處であり、又我邦の家庭にも參考すべき價があると信じた諸點を數へ挙げたのである。獨逸の家庭が残らず此通りであると言ふことが出來ぬと同時に此外に我々が贊成することの出來ぬ點があることも明言せねばならぬ。獨逸の家庭教育も學校教育と同じく決して完全なる理想の域に達して居るのでは無い。識者教育家は書を著はし文を公にして兩者の改善を促して居る。獨逸にも犯罪者が絶えぬから警察や監獄を廢する譯には行かぬ。悪い家庭があるから感化院の必要も起つて來る。併し乍ら大勢を通覽して見れば獨逸の現今の國勢は將來恐るべき氣運を示して居ることは多少獨逸の事情に通じた人の等しく認むる所である。此駭々たる氣運が教育に基礎を置いて居ると同時に家庭教育が一大補助を與へて居ることを明かにするのが此通信の趣旨である。自分は我邦の教育家并に學校生徒の家族が一層深く家庭教育の任務を研究せられんことを切望するものである。又家庭に於ける母親の任務の上からも女子教育の價値を考究せられんことを望むものである。(教育學術界第二十一卷第二號乃至五號所載)

英獨佛 訓育に關する報告
三箇國

緒言

英國の教育事業は主として民間に發達し、各級の學校も私設のもの多數を占め、公立の小學校及中等教育の諸學校の外は、中央政府又は地方官衙の直接管理をなすもの少なし、故に各學校の校規の如きも、簡易を旨として條文の整然たらんよりは、寧ろ不文律にして實蹟の擧らんことを尊ぶ。殊に訓育の方法又は風紀取締の規程を一々條文に記し、又は箇條を分ちて明示するものなし、况んや一定の非行に對する一定の罰則をや。是を以て英國學校に於ける風紀取締法を、一目瞭然たる箇條に陳述するは全く不可のことに屬す。

英國の教育は人物養成を標榜し、師弟の關係を重んじ、學生生徒の人格を信じ、其陶冶に力を盡し、學校は處罰の成るべく少なからんことを期す、故に毛を吹いて疵を求め、小過失を指摘するに汲々たるが如きは英人の最も忌む所なり。生徒に過失あれば教師又は校長は父母又は親友の温情を以て忠言を與ふ、其目的とする所は生徒をして自ら良心に省み、廉恥の心を生せしむるにあり。若し罰を行ふとあればそは實に己むを得ざるに出づ、罰は少くして嚴なり。英國の學校には上下を通じて自治の精神充滿し、自治制度發達し、生徒互に制裁を加へ、又戒飾するを以て教師又は校長の

手を煩はすこと少し。故に學校處罰の場合他國に比して、著しく少きことを推測するに足るべし。學校の規律も風紀も其由來を考ふれば、畢竟學校訓育の結果の外部に發表したるものに外ならず、處罰は即ち學校訓育の失敗と謂はざる可らず、果して然らば訓育に意を用ひずして、處罰に腐心するが如きは本末顛倒の謗を免るゝ能はず、英國の教育に於て訓育に全力を注ぎ、處罰を第二位に置くは當を得たるものと謂ふべし。訓育の本旨は品性の陶冶にあり、即ち人物の養成にあり、英國の訓育法は實行を尊び倫理に關する知識の教授を第二位に置く。故に教授要目中に特に修身の科目を設けて系統的に教授するものは極めて少數の場合にして、多くは此方法を厭ひ、修身の教授を以て人物養成に直接の効力なしと信ずるもの少からず。要するに英人は知識上の理解を以て生徒の訓育に充分なるとせず、更に一步を進めて各自の良心に訴へ、日夜不斷の實行によりて良習慣を養ひ人物を鍛錬せんとす、是れ蓋し英人が堅實なる性格を有する國民と稱せらるゝ理由の一なるべし。

國民の性格は國民道德の理想に基き、國民道德の理想は國民性に淵源す。而して此等は孰れも其國の地理歴史及社會の狀態と密接なる關係を有せざるはなし。故に英國學校に於ける訓育を理解せんとするには、先づ充分に此等の關係を闡明するを要す。然も今詳細に之を論究するは本報告の目的にあらざるを以て、茲に之を省略すべしと雖、小官は一國の學校訓育法は其國の國民性乃至國民性格の反響なる立脚地より本報告書を草したることを明記す。

第一章 訓育上より見たる英國教育の特徴

一 人物養成主義

人物養成主義は小學より大學に至るまで、英國教育の大方針たることは常に英人の深く自覺する所なるのみならず、又外人の等しく公認する所なり。若し夫れ教育學の理論より之を言へば如何なる國に於ても徳育を以て教育の目的とせざるなく、如何なる教育家も徳器の成就を輕視するものなし。之を以て小官は英國の教育學が、特に人物養成を目的とする點に於て、他國に異なれりと言はず、唯英國は事實上最よく此主義を實行したるを以て、英國教育の特色となさんとす。若し夫れ英國大學と獨佛大學と比較せば、此特色は極めて明瞭なりとす。

英國教育の人物養成主義は其淵源極めて遠し、十七世紀に於ける英國の大學者ロックスの如きも、其教育論に於て徳性を以て紳士の資格の第一位に數へ、學識を智慮及作法の下に置き、而して此思想は現代尙ほ多數の英人の頭腦を支配するが如し。

英國教育の目的たる人物の内容は空漠たるものにあらずして、一定の性格を具へたる人物なり。約言すれば何人も一見して公認すべき英國人に作るにあり、オックスフォード、ケムブリッジの兩大學は英國紳士の模範を出すを以て其教育の誇りとす。

英國紳士の理想を分解し、一々其資格を列擧するは、恰も我邦の武士道を解剖するの困難なるが

如し。各國民の性格は言語に盡し難きものあり、而も其特色嚴として動す可らず、僅かに二三の資格を失ふも紳士の間に伍せられざるに至る。英人の特に尊重する徳義は誠實、正義、公平の三にあるが如し、此三者は學校訓育に於て大に力を盡し、又社會生活、國民生活の上に於て英國にては極めて顯著なるを覺ゆ。其他自重自信を尊び、堅實沈着情誼を重んじ、博識多辯を喜ばず主義一貫の人物を要求するは、英國人の特色と見るを得べし。英人は獨立獨行の精神に富み、他人に依頼せずして一身を處理するを當然のとす。英人は實用を尊び學究の迂遠を好まず、故に學校教育に於ても倫理の學説を云々し、抽象的の議論を上下するを欲せず、人物の訓練に全力を盡し、訓育の實を擧げんことを期す。英國の人物は偏狹なるを許さず、如何なる方面の人も多方面の趣味を有し、健全なる常識を具へ、又實際の禮節に通じ優雅なる儀容を整へざる可らず。英國特有の人物養成は常に學校教育の主義なるのみならず、家庭之を要求し社會之を要求す、故に其事業は學校家庭社會の共同事業なりと言ふべし。

二 宗教的精神

高尚なる道義の精神は敬虔なる宗教上の信念に基くべきことは、英人の一般に信ずる所にして、宗教を離れたる道徳教育は大に忌む所なり。故に本邦及佛國の如く、全然學校より宗教を排斥したる教育法は、英人の理解する能はざる所なりとす。古來英國の大教育家は同時に宗教家なること多く、現時尙此傾向を存す、即ち上流社會の子弟を養成する學校に於て見る所なり。歐米各國の學校

は、本と基督教の教會に附帶して興り、最初の教師は同時に僧侶なりしことは歴史の證明する所にし
て、教育の發達に従ひ宗教と教育、學校と教會とは次第に分離したるも、英國に於ては保守の精神最
も強く、現今に於ては教會と直接に何等の關係を有せざる學校に於ても、尙宗教的精神を保存するも
の、如し。殊に幾百年間の歴史を有する大學豫備校 (Public schools) の如きは、最も著しく宗教教
育の遺風を存するものと見るべし。

英國の學校に於ては毎日校内に於て宗教上の儀式を行ひ、祈禱をなし讚美歌を唱す。大學豫備校
及大學にては堂々たる教會堂を有し、孰れも日々學業に鞅掌する傍ら、敬虔莊嚴の念を生じ良心を喚
起する機會を作らんとするなり。大學の教授學生相伴ふて宗教上の儀式に列するが如きは、他國に
於て容易に見難き現象なりとす。英國に於ては教育の有無に拘らず、一家相伴ふて日曜日に教會に
行くを例とし、教會に出席者多きは歐洲中にては英國を推して第一とす。故に學校に於ける宗教的
精神は、家庭と社會との協力に待つもの甚だ多きを知るに足るべし。

教會に附屬したる日曜學校の數は、歐洲中に英國其首位を占む。其教師は多く有志者にして、幼
年の兒童に宗教上の觀念を與ふるを目的とするも、成長して後尙教會に出席する習慣を作るには大
に効力あるが如し。又學校教育に於ける宗教的精神を助長すること言を俟たず、去る千九百七年羅
馬に開會したる萬國日曜學校會議の報告によりて、英獨佛三箇國の日曜學校數、教員及生徒數を比
較すれば左の如し。

	日曜學校數	教員數	生徒數
英	四六、三九九	六八四、三四二	七、四五〇、三七四
獨	八、〇七三	二八、三五六	八五五、一一四
佛	一、二〇〇	七、〇〇〇	六七、〇〇〇

即ち英國日曜學校の生徒數は獨逸の約八倍、佛國の約百十一倍餘に達す、以て英國に於ける宗教
的精神の盛なるを推知するに足るべし。又同時に日曜學校の生徒の多數は、同時に學校生徒なるこ
とを忘る可べからず。

今や世界各國を通じ宗教的精神次第に衰退せんとするに拘らず、英國は最もよく之を保存せるは
大に注意を要する現象と言ふべし。殊に學校教育に於て宗教的精神を維持し來れるは國家の干渉少
かりしこと其一原因たるべしと雖、現時英國の教育行政は他國と同じく教會より獨立せるに拘らず、
宗教的精神今尙依然として生命を有するは、學校、家庭、社會、教會皆歩調を整へ共同助力するに
因るものと謂ふべし。

三 舊慣の勢力

英國人が保守的國民なることは世界各國の公認する所にして、各般の先例を重んじ舊慣を保存す
ることは、時として理解に苦しむことあるほどなり。前項に述べたる宗教的精神の如きも、其一例

と見ることを得べし。其他家庭社會の慣習乃至國民道德に於ても、同じく舊慣の勢力極めて偉大なることを認むるを得べし。彼の紳士の理想が英國の上流社會に嚴然たる勢力を有し、犯す可らざる制裁力を有するが如きも、舊慣の勢力を示すものに外ならず、教育に於ても亦然り。學校の歴史、學校古來傳來の慣習の如き孰れも生徒に生きたる感化を與ふ、學校にて先輩の行ひたる所を行ふは家庭にて父祖の行ひたる所を行ふに同じく、殊に上流の社會に在りては子孫は代々父祖の學びたる大學豫備校に學び、又同じ大學に入り一層舊慣の勢力を強からしむる傾向あり、故に英國學校の訓育を理解するには舊慣の勢力偉大なることを知らざる可かず。

四 校風の勢力

英國の教育にありては生徒訓育の上に於て、校風の勢力を重んずること他國に比して特に顯著なりとす。生徒訓育の方法固より一にして足らずと雖、健全高尚なる校風によりて不知不識の間に生徒の人物を陶冶し、不言の間に日常生活の道德標準を尊嚴ならしめんことを期す。英國教育の理想より言へば、一校の校風とは校長教師職員生徒を通じ、全校に充滿する德義の空氣にして、其一校の生命たるは恰も個人の人格に於けるが如し、故に健全なる校風なき學校は人格なき人に類す。斯の如く校風を以て道義精神の統一と見るときは、學校は、此同一精神を以て團結したる一社會にして、其輿論制裁皆此校風によりて裁決せらるゝは當然の結果なりとす。英國の學校にては各校に繁雜なる成文律を設けざるも、多年因襲の結果一種の動かす可らざる校風あり、同一の學校に教育せら

れたるものは、起居動作の末に至るまで、特有なる氣風を帶ぶるに至る。故に大學豫備校に學ぶものは一見して何校の生徒たるを知るを得べく、又大學に學ぶものは其オックスフォード大學なるか、ケムブリッジ大學なるかを識別し得べきのみならず、所屬の「カレッジ」をも判定し得べき程なりと言ふ、是れ不文律の校風が學校の訓育上に一大勢力を有する證左たらざるばあらず。

校風は全校の生命の宿る所、其面目聲譽の存する所、風紀規律の關はる所にして、其行はるゝは恰も大河を流るゝが如く、一二の人力によりて之を如何ともする能はず、又一二の規則によりて大勢を左右するを得ず。故に其振作は全校精神の統一に基き、不言の實行、無形の感化によらざる可らず。而して英人の保守的精神と堅實持久の國民性とは、共によく健全高尚なる校風を維持し、以て訓育の一大勢力たらしむるに與りて力あるものゝ如し。

五 教師の感化

英人は教場に於ける倫理の講義より、教師の人格の感化を以て一層重大なりと信ずるもの多し。故に直接の教授よりは、間接の薰陶に重きを置く。蓋し人物の感化は教師も生徒も不用意の際に起りたるもの、却つて大に勢力あることあり、又幾多の格言も唯一の生きたる模範に及ばざることは、吾人の屢々經驗する所なり。故に英國の學校にては大に教師の人物を選び、殊に校長の人選に重きを置く、中等以上の學校に於て特に然りとす。

吾人が英國の學校を參觀して最も羨望に堪へざる一事は、師弟の關係極めて親密にして、級内和

氣靄然たるにあり。教師は形に威儀を装はず言に圭角を立てず、温然として生徒に接す。生徒は毫も教師を恐怖することなくして之を敬慕し、天真爛漫、温情流露し其關係父子の如く親友の如し。

教師は容易に怒氣を示さず、威嚇脅喝を以て人間の美性を害ふものとして之を惡み、威壓強制を避け、生徒の同情を失ふを以て却つて教師の恥辱とするが如きは、英人の國民性に基く所多きが如し。而して直接の教授以外に、教師の人格の感化に重きを置くは、英國教育の一特色と見るを得べし。

六 寄宿制

寄宿制の普及は、英國教育の一特色なるは輿論の承認する所なり。普通の小學校に寄宿舎なきは勿論にして、最近に勃興したる中等程度の學校にては通例之を缺くと雖、古き歴史を有する學校は概ね之を備ふ。上流社會の子弟の入學する大學豫備校は皆寄宿制にして、又其豫備校は小學校に相當するも同じく寄宿制を採る。ケムブリッジ及オックスフォード兩大學の寄宿制度、併に各女子大學の寄宿制度の如きは英國教育の特色とするに足る。

英國人が寄宿制を重んずるは、之によりて理想的の英國教育を施し、理想的の英國紳士を養成する唯一の制度なるを信ずるに因るなり。通學制度によれば、生徒は其生活の一半を家庭に費やし、又學校の監視する能はざる社會に出入す、而して兩者の主義感化必ずしも學校の訓育の方針と一致せざることあり。然るに若し寄宿制を採用するときは、學校は生徒の全生活を支配し、最も理想に

近き訓育を行ふことを得るなり。吾人が英國教育の特色として上來述べたる(一)人物養成主義、

(二)宗教的精神(三)舊慣の勢力(四)校風の勢力(五)教師の感化等、孰れも通學制度よりは、寄宿制度によりて實行し易きは、何人も首肯すべき所なり。

英國の寄宿制は生徒に住居の便宜を與ふる爲めに起れるものにあらず、其本領は理想的の訓育を施すにあり。故に人物の養成は唯一の目的にして、諸般の施設皆此趣旨に出でざるはなし。

英國の寄宿制は一種の理想的共同生活にして、家庭よりも一層嚴肅なる規律を勵行し、團體的精神を養ひ、輿論に服従するの習慣を作る。又生徒互に意見を闘はして思想を練り、切磋琢磨して人物を鍛ふの便あり、是れ通學制の遙かに及ばざる所とす。

然れども教育は本來家庭の任務にして、學校は之に代りて其事業を擴張したるものに外ならず、德育に於て殊に然りとす。故に生徒全く家庭生活を離るれば、其徳性上に何等か缺陷を生ずるは已むを得ざる所なり。故に英國の寄宿舎は峻嚴なる兵營的の規律を避け、和氣靄然たる家庭的團樂を以て其生活の理想とす。故に校長は其家族と共に校内に住し、他の教師も一舎の長となりて生徒と起居飲食を共にす。舎長は親しむべく敬愛すべく決して恐るべき人ならず、又無趣味單調を避け、不自由窮窟を感じざらしむる爲めに、日常の生活に變化あり娛樂あり、衣食住共に努めて家庭生活に近からしむ。故に英國の寄宿舎は一大家庭の如く一小社會の如く、又一小國家の如き觀あり。

七 自治制

英國學校に於ける生徒の自治制は、英國教育の長處にして獨佛人の羨望する所、又近年に至り各國競ふて模倣せんとする所なり。而して深く其由來を考究すれば英人の國民性に淵源するは言を俟たず、生徒の學校生活は國民生活の反射に外ならず、英國の社會制度、國家行政の組織等、皆同一の精神に基くものとす。

學校生活は國民生活の準備たらんことを期するは、各國其軌を一にす。英國は學校生活に於て自治制を實地に訓練するなり。故に寄宿舎、競技、會合其の他の事業皆主として生徒に經營せしむ。自治の精神は指導者なき場合に適當に一身を處理し、監督者の有無に拘らず忠實に自己の責任を盡す人物を作るにあり。故に管理上より之を見れば、自治制の基礎は生徒の人格を信用し、規律風紀を外より強制せずして生徒をして自から之を維持せしめんとするにあり。之を以て校長及教師は指導の位置に立ち、過度の干渉を避け、外部の檢束を出來得る限り少なからしめ、敢て生徒に奴隸的服従を求めず、師弟相信じて意志の疏通を圖る。又生徒には其分に應じて特權と自由とを與へ、之に對する責任を感じ、自重自信の念を起さしむ。故に此制度によるときは、生徒は學校の面目を保ち、校風を振作するものは生徒自身なることを自覺するに至るなり。

英人が一般に誠實に能く信用を守り約束を履行し、如何なる場合にも忠實に自己の職責を盡すは此制度に負ふ所大なるが如し。英國學校の生徒の自治制に於ては、特に左の諸點に注目するを要す。

- 一、學校は生徒の人格を信用して其自重自信の念を鼓舞すること。
- 二、生徒に特權と自由とを與へて其責任を自覺せしむること。
- 三、生徒個人の長處短處によりて適材を適所に用ふることに。
- 四、輿論を尊重すること。
- 五、代表者の意見を尊重すること。
- 六、所屬團體の面目を重んずること。
- 七、生徒相互間の良感化を獎勵し惡感化を撲滅すること。
- 八、生徒相互間の制裁を獎勵すること。

八 運動競技

英人は概して戸外の運動を好み、一生競技なくして生活する能はず、老後に至るも之を捨てず、植民地に於ても尙之を廢せず、是れ蓋し國民性の然らしむる所なり。故に小學校より大學に至るまで運動競技を行はざるはなし、男子のみならず女子も亦然り。寄宿舎の有無に拘らず之を行ふも、寄宿舎制の學校に於ては殊に盛なりとす。故に外國の學校に比すれば、生徒の運動競技の爲に時間を費やすこと多く、教育者或は其過多なるを評するものあれども、英人は依然として之を墨守するのみならず、益々盛ならんとする傾向あるは、常に體育を重んずる精神の然らしむるのみならず、教育家は之を以て學校教育の一方便と看做すによるなり。

運動競技は個人としては進取勇敢の氣象を養ひ、面目を重んじ。卑劣、卑怯、未練の行爲を惡む習慣を作り、又忍耐克己に馴れ、臨機果斷の處置をなすの能力を養ひ、公人としては共同心、公共心、公平無私の判斷、自己の職責を重んずる精神、團體の利益の爲めに犠牲となる精神等を涵養す。競技は凡て團體的組織により、嚴然たる規律の下に共同生活の練習をなすものと謂ふべし。

九 賞 及 罰

學校の規律を維持し風紀を振作する上に於て、罰の一方便たるを疑ふ可らず。英人が罰を好まざるに拘らず、之を全廢する能はざるは實に己むを得ざるに出づ。然れども英國の學校に於て、罰を最少にせんとするは前に述べたる所の如し、殊に女學校に於ては事實上殆んど全廢に近し。英人が罰を惡むは訓育上に効果少きのみならず、生徒の自尊心と自信とを害ひ、卑劣となり卑屈となり、爽氣絶望の極、動もすれば自暴自棄の念を起し、或は罰を以て罪を償ひ得たるが如く誤解し、罰を豫期して罪を犯すものあるに至るに由るなり。是に於て處罰愈々多くして校規愈々亂れんとする傾向あり。故に英國の學校に於ては、生徒に不良の行爲ありたりとするも、直ちに罰の苦痛を以て之を威嚇することなく、先づ擔當の教師懇切に之を説諭し、生徒の良心に訴へて其の反省を促し、徐に之を感化せんことを圖る。事稍々重大なれば校長自ら同一の方法を試み、公の處分の如きは其の最後已を得ざるの手段に過ぎず。

英國の學校にては生徒の自治制大に發達し、生徒自から校風を維持せんとする念強く、隨て不良の生徒を出すを以て學校の體面を汚すのみならず、同時に生徒全體の恥辱となす。故に生徒互に戒めて此事なからんことを期す。學校より生徒間に相制裁するを許すものあるは、本と自治の精神に出でたるものなりと雖、又之を生徒の人格を尊重し、些細の過失を教師又は校長の前に曝露して、生徒の自尊心を傷くることを避けんとするものと見るを得べし。

英國の學校に在りては處罰を惡み、之を最少にせんとせるに反し、賞を以て訓育の一方便とするは英國教育の一特色と見るを得べし。即ち積極的の勸善に力を注ぎ、消極的の懲惡を避けんとするなり。

賞の法種々あり、賞を行ふ理由亦種々あり、學術優等者を獎勵するものあり、運動競技の優等者を獎勵するものあり、特に勤勉の徳を賞するものあり、模範的生徒なることを表彰するものあり、生徒に一定の役を與へ、特權を許すが如きも亦賞の一法と見るべし、賞には賞狀、賞牌、記章、賞品、獎學金等種々あり。

一〇 餘暇の指導

英國の學校に於ては、概して獨佛の學校に比すれば授業時間稍々少く、在校時間内に於ても生徒の自由に處理し得べき時間を設け、學校は其使用法を指導す。正課外の餘暇を如何に利用するかは、生徒の人物養成の上に於ては一大關係あり。餘暇は多く教師の監視せざる所にて、其利用の法を誤れば弊害多きは言を俟たず。小人閑居して不善をなすと言ふは此弊を道破したるものに外ならず、

青年の危機に際して殊に其然るを見る。故に英國の學校に於ては、生徒に諸般の事業を經營せしめ無爲に時間を徒費するを許さず、閑居不善をなすの餘暇なからしめんとするなり。

餘暇の指導は寄宿制の學校に於て最も必要にして、且つ訓育上にも一層重大の關係あり。何となれば人物の養成は教場内に於けるのみならず、寧ろ教場以外に於て行はるゝこと多ければなり。運動競技、生徒の自治制の如きも、此の點より觀察すれば餘暇の指導法に屬するものと言ふべし。其他生徒の經營する圖書館、自己特殊の研究の如き、或は諸種の會合の如きも亦然り。

學校の教育若し學科の一方を重じ、専門教育又は職業教育に偏するときは、動もすれば偏狹無趣味の人物を作り出し、生徒卒業の後獨立の生活を營むに至りて、始めて痛く其短處を感ずること多し。故に英國の學校に於ては、單に餘暇を訓育に利用するのみならず、生徒をして其の餘暇を樂しましめんことを計る。即ち善く學び善く遊ばしめんとす。故に學科に關係の有無に係らず、生徒各自の嗜好に従ひ文學、美術、音樂、寫眞等の如き一技を修むる餘裕を與ふ。此等は單に生徒在校中に於て高尚なる娛樂たるのみならず、生徒卒業の後、尙自己の職業以外に一種の娛樂を作るものなり。

生徒の學科の餘暇に行ふ所、或は身體の鍛鍊を主とするものあり、或は共同生活の訓練を主とするあり、或は社交を主とするあり、或は娛樂を主とするありと雖も、學校訓育の目的上より見れば、此等の方法の孰れも結局の目的は、模範的の英人を作り出さんとするにあり。即ち高尚の人格を骨

髓とし、身體堅固に常識に富み、人に接して禮あり情あり能く多方面の趣味を解し、自ら人生を樂しみ、又能く人と樂しみを分たんとする英國紳士を養成せんとするにあるなり。

第二章 諸種の學校に於ける訓育の概況

一 寄宿制の大學豫備校 (Public schools)

英國教育の特徴を最もよく發揮するものを、バプリック、スクール (Public school) とす。今假に之を譯して大學豫備校と呼びたるは、主として大學の豫備教育を施すに由る。此の種の學校は孰れも數百年の歴史を有し、孰れも宗教と密接の關係を有し、其校長亦多くは宗教家たり。今假りに其著名なる學校を擧ぐればイートン (Eton) ハロー (Harrow) ラグビー (Rugby) ウィンチェスター (Winchester) チャーターハウス (Charterhouse) マールボロー (Marlborough) シェフツェスバリー (Shrewsbury) 等の如し。

歴史的の大學豫備校は著しく貴族的にして、其生徒は皆上流社會の子弟にして英國の首腦となり、國民の指揮者となり、統御の地位に立ちて堪能なる治者たらんことを期するものなり。故に訓育に於ても此の點に意を注ぎ、此目的に適合する人物を養成せんとす。大學豫備校にては約十二歳前後に入學し、十八九歳前後にて卒業す。是れ青年發達の最も盛なる時期にして、人物の訓練の最も効力あるべき時なり。英人が特に寄宿制を採り、師弟寢食を共にし、理想の訓練を施さんとするは特

に此點に見る所ありたるを察するに足るべし。故に大學豫備校にありては教場と寄宿舎との別なく、又校舎の内外を問はず、課業時間たるを論ぜず、放課時間と言はず、教師の監視の有無に拘らず、生徒の生活は渾て是れ學校生活にして、學校生活は一として人物の養成を目的とせざるなし。故に敬虔なる宗教的精神に基き、傳來の舊慣を重んじ、嚴然たる校風と規律とを維持し、自治制によりて責任を重ずる精神を養ひ、運動競技によりて意志と筋骨とを鍛鍊し、寄宿舎生活に於て及社交の一端を學ぶ。故に大學豫備校は一家の如く、一小社會の如く、又一小國家の如く、健全なる共同生活を訓練する所なり。

現今英國の大學豫備校に行はるゝ教育法は、十九世紀の前半に於て、ドクトル、アーノルド(Dr. Arnold)のラグビーにて試みたる所なり。アーノルドは英國第一流の教育家、而も道心堅固なる宗教家にして、因襲の流弊に憤慨し、ナポレオン戦争後時勢の要求に鑑み、滿腔の熱血を盡ぎ、嚴乎たる鐵腕を揮ひ、十四年の年月を費やして、理想を實現したるもの即ちラグビーの教育法とす。

ラグビーの教育法は他の大學豫備校の模範となり、捲席の勢を以て英國内に傳播し、十九世紀の教育に一生命を開けり。現時の大學豫備校はアーノルドの死後、時勢の進歩に伴ひ多少の修正を加へ、又漸次複雑となりたりと雖、要するに大同小異とす。現今の教育家或は此教育法を以て既に時勢に後れたるものとし、又二三の缺點を指摘し、其革新を促すものありと雖、此等の大學豫備校は一種の人物を作り出し、英國の國家及社會の需要を充しつゝあることは、世人の等しく公認する所にして、吾人は其の一定の目的の貫徹に成功せることを認容せざる能はず。

最上級生

最上級生は既に十八九歳の年齢に達し、思慮分別の上に於て殆んど成人に近きは言を俟たず。故に最上級生は一定の特権を有し、生徒自治制の中樞となり、事實上全校の規律風紀の管理者たるなり。アーノルドは出來得る限り最上級を信じ、紳士を以て待遇し、其良心に訴へ信任に酬ふるに足るべき責任を盡さしむ。即ち外部より檢束又は強制を用ひず、生徒自ら進んで嚴然たる規律を守り、肅然たる校風を振作せしめんとするなり。

最上級生は課業時間以外、教師の在らざる場所、例へば教室外、寄宿舎内、豫習時間に於て全校生徒の舉動を監視し、規律風紀を守り、秩序を維持する責任を有す。故に小事は生徒の間にて之處分す。最上級生は之が爲めに一定の範圍内に於て、體罰を加ふることを許さる。唯大事件に限りて校長に提出して裁決を仰ぐのみ。之が爲めに最上級生は直接に校長又は教師と、諸般の事件に就きて交渉商議すること多し。

寄宿舎

各校數棟の寄宿寮あり、各寮一人の寮長(House-master)ありて之を指導す、又副寮長(House Tutor)之を助くるあり、孰れも教師より其の任に當る。校長も亦一寮を擔當す、孰れも家族あるものは家族を擧つて生徒と共に同寮内に起居飲食を共にす、之れ英國の寄宿制が家庭に近き所以なり。

一寮の寄宿生の数は概して少数とす、今其概数を擧ぐれば左の如し。

校名	寮数	一寮寄宿生平均数
イートン	二十六	四十人
ハロロ	十二	四十人
ラグビー	九	六十三人
ウインチェスター	十一	三十八人
チャーターハウス	十一	五十八人
マールボロ	八	四十六人
シユリエースペリ	七	三十四人

各寮多少獨立の體裁をなし、一寮は全校の共同生活の單位をなすこと、恰も一家族が社會生活の單位を形成するが如し。各寮内に於ては寮長は生徒と最も密接なる關係を有す。一家族の父に代りて全塾生を指導誘掖するのみならず、又人員を檢査し外出票を交付する職責を有す。通例最上二級の生徒は各自の室にて自修し、又食事する特權を有す、下級生は自修も食事も共通の食堂にて之を行ふ。最上級生は慣例によりて下級生を使役することを得、例へば掃除給仕小使等の如し、此事新入生に取りては一種の訓練となると言ふ。

日本の寄宿舎の標準より英國大學豫備校の設備を見れば、其設備極めて贅澤なるを覺ゆ、其食事も

亦然り。然れども其生活は英國第一流の良家の子弟なることを忘る可らず、今單に寄宿舎に於ける食費を擧ぐれば、一年間に要する金額大凡左の如し。

イートン	千百五十五圓
ハロロ	九百圓
ラグビー	七百四十圓
ウインチェスター	千二百七十圓
チャーターハウス	千百五十五圓
マールボロ	八百五十圓
シユリエースペリ	六百三十圓

以て其一般を推測するに足るべし。

運動競技

運動競技は大學豫備校に於て最も重要な事件とす。故に大學豫備校の生活中より、運動競技を除けば其の生命の大半を奪ひ去るに同じ。大學豫備校は之を以て自治の機會を與へ、人物を養成するの機關となす。運動競技が體育の外、公私の生活に適切なる諸徳を涵養することは前に述べたる所にして、英國の學校に於て其効果の顯著なるは、生徒眞に之を以て生命とし、最上の樂みとするによるなり。英人は學校にあると否とを問はず、一般に運動競技を重んじ、之によりて英國人の國

民性格を陶冶せることは言を俟たずと雖、大學豫備校に於ては他の着眼點より之を観察するを要す、大學豫備校の生徒は皆貴族の子弟なり、貴族の子弟は其教育法を誤まれば、動もすれば柔弱に流れ奢侈に耽り薄志弱行の徒とならんとす。英國紳士の理想より言へば、身社會の上流に位するも、身體虛弱なるを許さず、盤根錯節に遭遇して避易するを好まず、心身の鍛鍊は英國紳士に缺く可らざる資格にして、櫛風沐雨能く寒暑に堪ふるの點に於ては、貴族も亦田夫野人に一步を譲ることなからんことを期す。大學豫備校の運動競技は、此心身鍛鍊の主義を上流社會の子弟に勵行し、幼時より其習慣を作るものに外ならず。英人が風土寒暑の如何を問はず、世界至る所に植民し、人跡未到の地に探檢し、能く其の功を奏するは、此大學豫備校の運動競技に負ふ所少からざる可きを信ず。

校内に於ける運動競技は皆生徒の手によりて經營せらる而して其重なるものは「フットボール」(Foot ball)、「クリケット」(Cricket)とす。

生徒全部運動競技に従事すと雖、十一人の選手は其部員を指揮し、其間に偉大の勢力を有す。選手は單に技能に優るのみならず、人を御するの威嚴を有し、又一段の尊敬を價するの人物なるを要す、換言すれば英國紳士の模範たらざる可らず。

寄宿舎の一寮は、運動競技の一團を作る。二寮の間の競技あり、數寮間の競技あり、又他寮間の競技あり。

「フットボール」と「クリケット」の外、尙二三の競技遊戲あれども前者の如く廣く行はれざるを常とす、競走、水泳、漕艇の如きは是なり。體操、兵式教練、劍術、「ボクシング」等は寧ろ第二位に置かれ、多くは生徒の隨意となれるが如きは、日本の學校に比すれ聊か奇異の感なき能はず。

生徒の經營する諸團體

此外生徒各自の趣味に應じて諸種の團體を組織す。此等は皆生徒の手に成るものにして、自治の精神を發揮し、常識と多方面の趣味を養ひ、各個特別の嗜好を獎勵し、間接に訓育の機關となり、前に述べたる餘暇利用の方法となるものなり。今其重なるものを擧ぐれば左の如し。

一、討論會

二、文學會

三、學校新聞及學校雜誌

週刊又は隔週刊月刊等種々あり、定期の物あり、臨時の物あり、例へば、イートンには毎週「イートン、コレツジ、クロニクル」(Eton College Chronicle)の外「クリケット」の機關雜誌「イートン、ラムプラーズ」(Eton Ramblers) 漕艇の機關雜誌「ヴァイキングス」(Vikings) あり、卒業生の雜誌には「オールド、イートニアン、アッソシエーション」(Old Etonian Association) あり、ラグビーには三週毎に「ジ、ミチオール」(The Meteor)を刊行し、一學期に一回「ジ、クオードラングル」(The Quadrangle)を發行す。卒業生は「オールド、ラグビアン、

「Old Rugbeian Society」を有するが如し。

四、博物學會

郊外に出て、動植物の採集を行ひ、又校内にて講演を行ふ。又列品室を經營し動物の飼養をなす。

五、地質會

六、氣象會

氣壓、氣温、雨量、風力等を觀測す。

七、寫真協會

八、自轉車團

九、樂隊及音樂會

十、消防隊

二 半寄宿制の學校

大學豫備校にして寄宿生を中心とし、少數の通學生を許すものあり。寄宿制は歴史的の大學豫備校と異なることなく、通學生に對しては出來得る限り寄宿生と同様の方法を適用す。今ブリストル市に近きクリフトン、クラフジ(Clifton College)に行ふ所の要領を擧ぐれば
通學生は寄宿生と同一の規律に従ふ。

通學生は寄宿生と同じく諸種の會の役員となる權利を有す。

通學生は全校生徒の三分の一を占め、之を二組に分ち、各之を寄宿寮に倣ひて市寮(Town House)と名け、特に寮内に一室を與ふ。各組に一人の監督教師あり、寄宿制の寮長に相當する位置を占む。管理は主として最上級生の手にあり、通學生の校外に於ける規律及風紀に對して責任を有す。通學生は校内に與へられたる室を以て寄宿寮と見做し、寄宿生と同様なる會合を行ひ又學科の豫習をなす。

運動競技も出來得る限り寄宿生と同様に之を行ふ。

三 豫備學校 (Preparatory School)

英國には大學豫備校に入學する準備をなす爲めに、七八歳乃至十四歳の生徒を教育する豫備學校あり。兒童の年齢幼きに拘らず寄宿制なるは、英國教育制度の特色と稱するを得べし。

豫備學校の生徒は大學豫備校に入らんとするものなるを以て、皆上流社會の子弟なることは論を俟たず。又其教育の方法も大學豫備校を模範とし、宗教的精神に基き人物養成を目的とし、自治制を尊び運動競技並に遊戯を重んずと雖、未だ充分に事理を解する年齢に達せざるを以て、學校の管理に待つこと多きは言ふを俟たず。故に其訓育の要は身體の健全なる發達を圖ると同時に、起居動作禮儀作法に於て夙に善良なる習慣を養成するにあり。故に豫備學校は健康上、風儀上より校地の選擇に留意し、多くは市外又は海岸靜肅の所にあり。又校内に於ける生活は成るべく家庭の生活に

近からしめんとするを以て、生徒数は通例四十人前後にして、少きは十五六人を定員とするものあり。

教育の程度より言へば小學校に類似すと雖、設備の上より言ふも生活の上より言ふも甚しく貴族的なるは、大學豫備校に異ならず、然れども其一層家族的なると、人員少數なるが爲めに個人教育に近く、生徒一人一人に對する注意の周到なるは特に注意を要する點とす。

豫備學校寄宿費用は通例一人年額六七百圓内外とす、以て其一般を推すに足るべし。

四 通學制の中等學校

英國に於ける中等學校は、其種類多様にして之を明瞭に分類記述すること極めて困難の事業に屬す。第一種に屬する中等程度の學校は即ちバブリック、スクールと稱するものにして、上に大學豫備校と譯したる所なり。其數九十七、生徒數約三萬に達す、就中寄宿制を採れるもの四十八校とす。此種に屬する學校の生徒は貴族及中流以上の社會の子弟にして、將來高等の教育を受け國民を率ゐんとするものなり。而も全然理想の寄宿制を實行する能はざるは、經濟の事情と、最近に於ける都會生活の結果の然らしむる所なるが如し。

第二種の中等學校は主として中流社會の子弟を收容するものにして、其數五百五十校に及び、生徒數七萬五千人に達す。而して寄宿制を採用するものは僅かに十分の一に過ぎず。換言すれば中等學校の多數は此種に屬するものとす。

第三種の學校は最近に發達したる市立又は公立の中等學校にして、中流及下流社會の一部を收容す。其數約百五十校にして生徒數二萬五千人に達す、下流社會の子弟にして此種の中等學校に入學するものは、貸費の補助に依るもの多し。而して此種の中等學校は殆んど皆通學制にして寄宿制のもの稀なり。

最初二種の學校は共に多額の資金を有し、第三種の學校は公費を以て之を維持す。

此外第四種の學校として私人の經營する中等學校を數ふべきも、孰れも規模小にして其勢力亦隨て微々たるもの多し。

通學制の學校は皆寄宿制の大學豫備校を模範とし、自治制、運動競技を奨勵し、最上級に規律風紀の管理權を與ふるが如き、出來得る限り大學豫備校に倣はんとするも、生徒は正課以外に學校に留まる時間少きを以て、訓育の効力は寄宿制又は半寄宿制の學校に及ぶこと能はず。又歴史、舊慣の勢力も亦然り、然れども一方に於ては寄宿制に於て得可らざる家庭教育の感化あり、又直接に社會生活に接觸する機會多きを以て此缺點を補ふと雖、學校教育の立脚地より言ふときは、其訓育の主義を理想的に勵行すること能はざるは蓋し已むを得ざる所なり。故に通學制の學校に在りては其訓育の方法は、寄宿制の學校に於けるが如く、英國教育の特色を充分に發揮すること能はず、且つ社會の進歩と都會生活の發達に伴ひ、此特色を維持すること次第に困難に赴くが如し。然れども英國の家庭生活と社會生活とに一定の特色を維持する限りは、通學制によるも尙訓育上に一定の特色を

保存するは疑ふ可らず。

英國の社會に於ては階級の念尙極めて強く、各階級によりて道德上の理想稍々異なり。思想感情より禮儀作法言語の末に至るまで、多少の階級の特色を有す。而して最近に發達しつつある公立の中等學校にありては、最下層の社會より出てたる生徒にして、學力優秀なる爲めに貸費の力によりて、大學に進まんとする者漸く増加する氣運を示せり。而して此等の場合に於ては家庭教育の差異、階級より生ずる特徴によりて、學校訓育の上に特別の注意を要すること多きが如し。換言すれば新設の中等學校に於ては、形式殆んど固定したる歴史的の大學豫備校に於けるよりは、訓育の方法一層困難なるが如し、況んや其通學制なるに於てをや。是を以て最近の中等教育に於ける訓育の結果に就きて、非難を加ふるもの往々之あり。現時の趨勢を以て之を推せば、此非難は將來特に革新の法を採らざる限りは益々多かるべきなり。

歴史的の大學豫備校の訓育法に就きても、種々の見地より現今の時勢に適せずと非難する教育家少なからず。然れども此教育法によりて、英人の理想とする一種の人物を作り出すに成功せることは、何人も疑はざる所にして、英國の今日ある所以も亦此教育法に負ふこと少なからざるは、英人の一般に信ずる所なり。果して然らば英國の人物教育は中流以上に成功して、中流以下の社會に對して不十分なる所ありと言ふべきか。歴史的の大學豫備校の訓育法固より改革の餘地あるべしと雖、通學制の學校、特に新設に係るものは、訓育法に於て一層考究の餘地を存するが如し。然れども寄宿制た

ると通學制たるを問はず、概して第一章に列舉したるが如き特色を有することは、何人も首肯すべき所なり、差異は唯程度の問題にあるのみ。

五 高等女學校

高等女學校の發達は最近數十年間の事に屬す。故に最近の新設に係る男子の中等學校が多く通學制なるが如く、現在の英國の高等女學校は通學制を採るもの多し。又公立の中等學校には時として高等女學校を併置し、稀に男女共學のものあり。而して孰れも通學制なるは、獨立の高等女學校に同じ。男子の中等學校、殊に大學豫備校に在りては、寄宿制を以て英國の理想的人物を教育するに、最も適當なる方法とすれども、女子の教育にありては必ずしも然らざるが如し。何となれば女子の教育は家庭の協力を要するを以て、妙齡の女子を全く家庭より離隔して、寄宿舎生活をなさしむるは、女子の徳性を涵養する上に、多少の缺陷を生ずる恐なき能はざるを以てなり。故に女子の訓育の十全を望むには、學校と家庭と相提携するを以て理想とす。是れ高等女學校の多數が、通學制を採る一理なるが如し。

然れども地方の事情、父母の住處、又は家庭の事情のによりて女生徒の自宅より通學し難き場合尠からず。斯かる場合に於て公認下宿を設けることあり。此等の公認下宿は監督財政殆んど全く學校と關係なく、生徒の健康と風紀とに對しては公認下宿の主婦、全く其責任を有す。故に其主婦たる人は教育に經驗あり、能く其責任を盡すに充分なる人物たるを常とす。又公認下宿に宿泊する生徒

も極めて少数にして二十人前後を通例とす。

富家の子女の爲めに、大學豫備校に倣ひて寄宿制の高等女學校を新設するものありと雖、生徒の居止、稍粗野に傾くとの非難を加ふるものあり。

高等女學校に於ける訓育の方針は、大體に於て男子の學校に倣ふ。唯女子の將來を顧慮し、社會的及慈善事業の練習をなさしむるは、女子教育に特有なる所と言ふべし。

今訓育の方便の特に注意すべきものを擧ぐれば左の如し。

一、級長

各級生徒中より一人又は二人の級長を選び級を代表し、又教師不在の時は其代りとなりて規律秩序維持の責任を有す。任期は一學期又は之より短きことあり。選舉（又は指名）の方法、并に職責等は學校によりて大に異なれり。

二、最上級生

最上級生の全部當然全校の規律風紀を監督する地位に立ち、凡そ生徒の經營する事業に關しては、常に其活動の主腦となる。成は最上級生の一部に特別の任務を帯びしむるものあり。

三、運動競技

女子の運動競技の盛に行はるゝは、英國教育の一特徴と稱するに足るべし。其種類は多少男子と趣を異にすと雖、一見して甚しき差異を見ず。是れ英人の運動競技を愛する國民性に基

くものなるべし。

高等女學校に行はるゝ運動競技は、通例「ホッキー」、「クリケット」、「ラグロフ」、「バスケットボール」等とす。

四、戶外作業

動植物採集

園藝

五、學校内の諸會合

六、社會事業

教會の補助

慈善事業の補助

給與品の製造

慈善音樂會

第三章 英國大學に於ける訓育の特徴

英國の大學は歴史のもの、新設のものとは大に其趣を異にす。オックスフォード及ケムブリッジ兩大學は歴史的の英國大學の標本と言ふべく、倫敦大學は新設大學の好例とすべし。倫敦大學

の如きは學生の訓育の上に就きて、直接に大學より手を下し、又は學生間に於ても特に此點に就きてなす所なきを以て、獨佛の大學制度に比して、著しく英國の特色を見ること能はず。故に今主としてオックスフォード及ケムブリッジ兩大學に就きて述ぶる所あらんとす。

オックスフォード及ケムブリッジの兩大學は歴史的大學豫備校の卒業生を收容する所にして、其學生は言ふまでもなく英國上流の子弟にして、國家の首腦を作らんとするものなり。故に社會の上流に立たんとする人は、此兩大學を出てざる可らず。此兩大學に學びたる人は同時に良家の子弟たることを證す。年々衆議院議員の過半数は、此兩大學の出身者なりと言ふ。以て其國家社會に於ける勢力の如何を察するに足るべし。

該兩大學は英國教育の特色を最もよく發揮するものにして、吾人が第一章に於て述べたる所は、皆之を大學に適用することを得べし。

一 人物養成主義

英國大學は模範的英國紳士を養成するを目的とす。博學多識は必ずしも希望する所にあらず、圓轉自在の才と辯とは必ずしも之を愛せず、英國の紳士は理論の人にあらずして實行の人、策略の士にあらずして堅固着實なる人格の人なるを要す。如何なる境遇にありても正義正道を守り、孜孜として我本分を盡し、百折不撓變に處して狼狽せず、誘惑に遇ふて心を動かさず、勇往直邁の士ならざる可らず。世に處して常識に富み、人に接して禮あり情あり、而も能く其筋骨を鍛錬し、能く寒

暑に堪えざる可らず。此等は蓋し英國人が世界に優勢を占め、能く其屬國を統御する理由の存在する所なり。

故に英國大學の教育は學問の教授の外に、人物養成に全力を盡せることは、歴史的の大學豫備校と異なることなし。換言すれば高等普通教育を一層擴張したるものなり。此點に於ては獨佛二國の大學が専門家、技術家を養成するを以て、第一の目的とするに比して雲泥の差ありと言ふべし。之を以て多數の學生は、將來自己の職業となるべき専門の學術技藝を修めんとするよりは、寧ろ英國の模範的紳士として社會に立つべき品位を養はんとし、瑣々たる學究たらんよりは、實力ある活人物たらんことを期す。之を以て大學の學生々活は英國紳士たるの準備生活にして、此方面より觀察すれば、獨佛の大學生活に比して、甚しく實社會に接近するものと言ふべし。

二 寄宿制

オックスフォード及ケムブリッジ兩大學に於ける人物養成は、全く寄宿制によりて之を實行す。オックスフォードは二十二、ケムブリッジは十九の「コレッジ」(College)より成る。各「コレッジ」は皆獨立の基本資金を有する自治團體にして、同時に寄宿寮たり。學生教師卒業生研究生等、出来る限り起居寢食を共にす。「コレッジ」は寢食の外尚課業をなすを以て、之を學寮と譯すべきか。

學寮は本來宗教的團體の遺風なるを以て、起居寢食に至るまで一定の規律ありて之を勵行す、學生は其所屬の學寮の規律に従ふと同時に、又大學全體の規律に服従せざる可らず。

各學寮は其基本資金より年々の收入あり、其額の少きは我日本貨幣六七萬圓、多きは八十萬圓に及ぶ、故に其設備の貴族的なるは言ふを俟たず。

學生は一人にて二室乃至三室を占領し、全く一人獨立の生活をなす。室は大小と個數とによりて其料金を異にし、室内に要する家具は凡て學生の自辨とす、是れ實に個人の實際生活に近きものなり。

英人は自治を尊び個人の自由を重んず。而して大學生は入學の際に於て既に成年に近し、故に大學は之を待つに紳士の禮を以てし、大學生は大學豫備校時代に比して、一層自由を享有することは勿論なれども、寄宿生活によりて一種嚴然たる規律あるは、獨佛大學生の下宿屋生活に於て、見る可らざる所なり。又英國大學生の占領する學寮内の室は、獨佛學生の下宿に比すれば、室の廣狹設備の優劣固より同日の論にあらず。獨佛の識者大に英國大學の學生生活を羨望すと雖、之れ畢竟、歴史的發達の結果にして、一朝一夕に模倣し得べき所にあらず。

各學寮には共同の食堂あり、教授學生皆食事を共にす。各學生は其親戚知己を招くことを得、教授も亦然り。食堂には創立以來同學寮を出てたる知名の人物の肖像を掲ぐ。堂に入れば無言の間に一種の感を禁ずる能はず、師弟相親み又社交の一端となるは勿論なり。

英國人は午後五時前後に茶を喫し、多く知己を招きて談話を共にす。學生は自室に友人を招き、此習慣に遵ふことを得、學生は他の學生又は教授に招待せらる。

學寮は此他あらゆる點に於て、學生生活の中心となるものとす。

三 宗教的精神

各學寮に教會堂を有し、學生教授共に禮拜の式に出席するを以て之を知るべし。英國大學は、本來教會に伴ひて發達したるものなることを忘る可らず。又英國大學は最もよく中世紀の古風を維持するものなり、唯此宗教的精神は、漸次衰へんとするが如き傾向あるは蔽ふ可らざるが如し。

四 舊慣の勢力

五 校風の勢力

共に第一章に於て述べたる所の如し。

六 教師の感化

學寮内に同居するものは勿論、同居せざる教授も出來得る限り、寮内の食堂に來りて食事を共にするが如きは、師弟の關係の一端を察するに足る。獨佛の大學に於て、師弟殆んど相接することなきに比すれば固より同日の論にあらず。

七 自治制

學寮の自治制は大學の自治制なると同じく、管理の上にては政府より何等の干渉を受くることなし。大學生の生活各種の團體、又は事業の組織等凡て自治制を本旨とす。大學生は自治制を實行するに充分の年齢に達し、之によりて將來社會に立ちて爲すべき事業の練習をなすなり。

八 運動競技

運動競技は大學生の人格を養成し、筋骨を鍛錬する重要な方便にして、英國人一般に戶外運動を以て重大の事件と思考するが如く、大學生も亦之を以て學生々活上缺く可らざるものとし、學生皆眞に之を楽しみ且つ之を尊ぶが如し。

オックスフォード及ケムブリッジ兩大學の短艇競漕は世人の普く知る所なり。其選手の如きは漕艇の技術に長ずるのみならず、人物着實にして學業を怠らざる人なるを要す。故に其漕ぐや個人の名譽の爲めならず、學寮の爲大學の爲めを圖る。

漕艇の外には「フットボール」、「クリケット」、「ローンテニス」等最盛なり。各學寮各々廣大なる運動場を有す。學生の運動競技に時を費やすこと多きは、獨佛大學生に比すれば實に驚くべき程なり。

九 賞 及 罰

大學の規律は學生の責任に訴ふる所多し、故に罰を最少にせんとするは言ふを俟たず。

一〇 餘 暇

大學に於ては強制的學科少きを以て、個人の自由に處理すべき餘暇多し。故に各自の嗜好によりて之を利用する方法を講ず、運動競技は其一なり。辯論、文學の會合、又は俱樂部に特別の趣味を有するものあり、或は讀書を楽しみ散步を以て満足するものあり。多數の大學生は英國紳士の準備

を目的とするも、少數有爲の士は學術の研究に一身を捧げんとするものあり、此等は他の學生の如く、運動又は娛樂の爲めに、餘暇を充分に費し難きは勿論なり。

今英國各大學に於ける規律の一般を次章に述べべし。

第四章 英國各大學に於ける規律の一般

一 オックスフォード大學 住 居

「バチエラー、オブ、アーツ」(B, A)の學位を得んとするものは、十二學期間(一年四學期)大學區域内即ちオックスフォードの中心カーファックス(Carfax)より一哩半以内の地に定住するを要す。學期は連續するを要せず。

定住所は大學内の「コレッジ」即ち學寮を以て本則とす。尙除外例として左の二種の住所を許可す、然れども此は最も少數とす。

一、公認下宿。

衛生其他の設備は大學宿所委員の監督を受く。

二、特別の事情あるものは大學宿所委員の許可を得て、公認下宿にあらざる家に下宿するを得。

大學一般の規律

一、初年學生は總長又は學生監の承認なくして、旅館又は酒店に立入るを得ず。

二、午後一時前又は午後十時後には玉突をなすを得ず。

學生は競馬に行くを得ず。

初年學生は學生監の許可なくして自動車に私有するを得ず。

三、學生は學期間に於て自ら舞踏會を催し、又は公設舞踏會に出席するを得ず。又學生監の許可なくして公開の場所に於ける、私催の舞踏會に出席するを得ず。

此等の規則に違反したるものは左の罰則に處す。

- 1、罰金。
- 2、一定の時刻後の禁足。
- 3、一時停學追放。
- 4、放校。

各學寮の規律

各學寮多少規律を異にすれども、今共通の點を擧ぐれば左の如し。

一、各學期とも一定の住所を定め、一定の期間之に住居すべし。

一日一夜たりとも許可なくしてオックスフォードを去る可らず。

二、學生は強制せられざるも、教會室に出席するものと豫期せらる。

三、各學寮の門限は午後九時十分とす。

特別の許可なきものは門限後に外出するを得ず。

門限に後れて歸寮するものは少額の罰金を課せらる。

公認下宿の主人は午後十時に戸を閉ぢ、其時間後に入出する學生の姓名を記録するを要す。

學生は特別の許可なくして、夜半後に學寮又は公認下宿の外にあるを得ず、之を犯するものは嚴罰に處す。

制服

學生は左記の場合に於て制帽及制服(ガウン)を着用するを要す。

一、公用にて指導教師(Tutor)又は大學又は學寮の職員を訪問する場合。

二、教會堂、食堂、評議室、説教及會合。

三、校内にては何時にても、市街にては午後一時前又は晚餐後に制服制帽を着用せざるものは罰金に處す。

二 ケムブリッジ大學

住居

「バチエラー、オブ、アーツ」(B、A)の學位を得んとするものは九學期間(一年三學期)大學區域内に定住するを要す。

定住の場所はケムブリッジの中央(グレート、セイント、メーリース、チャーチ)より直徑二哩半以内の地たるべし。

- 一、學生は學寮内に寄宿するを本則とす。
- 二、公認下宿。
一年一回大學より檢閲を行ふ。其他學寮の規律に従ふを要す。學生は犬を飼ふを得ず。
- 三、兩親と同居。
兩親は毎週住居證明書を學寮に差出すを要す。
- 四、自宅又は其親戚と同居。
- 五、除外例として親戚にあらざる他人の家に下宿。
學寮長を経由して大學宿所委員より許可を得るを要す。

大學一般の規律

- 一、學生は總長及學生監を尊敬し、之に服従するを要す。若し之に姓名を問はれたるときは、學生は何時にても自己の姓名及所屬の學寮名を告白するを要す。此他大學評議員に其不行狀を認められ姓名を問はれたる場合も必ず明言するを要す。
- 二、規定の時に制服を着用せざるときは罰金を課す。
- 三、制服着用の儘喫煙するを得ず。
- 四、學生監は何時にても生徒の室に入る權利を有し、不行狀の場合には之を鎮靜する職責を有す。
- 五、學生監の命に従はざる學生は嚴罰に處す。

六、不行狀は其輕重によりて學寮長又は總長に訴ふ。

禁條

- 一、賭金勝負の契約。
金貸業との交渉。
指導教師に無斷にて負債の契約をなすこと。
- 二、競馬に加はるを得ず。
- 三、發砲するを得ず。
- 四、日曜日に乗馬するを得ず。
- 五、指導教師の許可なくして酒店に入るを得ず。
- 六、特別の許可なくしてニユーナク以上の河に短艇を浮ぶるを得ず。
以上の禁條を犯したるものは、總長及六人の學寮長を以て組織する風紀署に招喚せられ學位褫奪
退學又は一時追放の罰を受く。

各學寮の規律

- 一、各寮の門限は午後十時とす。
其後には學寮又は公認下宿を出づるを得ず。
- 二、教會堂にては毎日朝夕二回禮拜式を行ふ。

日曜には一回以上其他は一定の度数之に出席するを要す。
三、毎週五日以上學寮内の共通食堂にて會食するを要す。

制服

制服を着用すべき場各左の如し。

- 一、講義及試験。
- 二、大學教會堂、評議會堂、圖會館。
- 三、日曜日市街外出の際。
市街を通過せざる散歩には他の服にても差支なし。
- 四、毎日日没後。
- 五、公用にて大學職員を訪問するとき。
- 六、日曜日に大學の庭内又は運動場にあるとき。

三 倫敦大學

寄宿の設備なきが故に學生は隨意の場所に下宿すること、獨佛の大學に於けるが如し。故に大學は人物養成の爲めに、留意する所なしと謂て可なり。是を以て指導教師なく又學生監なし。學生は大學より直徑三十哩以内の地に住するを要す。毎週三日以上大學に出席するを要す。

研究材料あるときは一學期以外倫敦を去ることを得。

四 女子大學寮

英國各大學に於ては女子學生の爲めに、特に寄宿制の學寮を設くるを通例とす。オックスフォード大學には四個、ケムブリッジ大學には二個の女子學寮あり、凡て女子の經營に成る。學寮内に講義あり。又大學の一般講義又は他の男子の學寮の講義に出席するを得。而して女子學寮内に於ける寄宿生活、及訓育の方法、大凡男子に倣ふ。運動競技の如きも殆んど男子に同じ、唯男女技を共にせざるのみ。

他の大學にて男子通學制なる所にも、女子の爲めには特に學寮又は寄宿舎、又は公認下宿を設くるを通例とす。高等女學校の多數は通學制なるに反し、女子大學の寄宿制なるは特に注意を要する所とす。

第五章 學校訓育に關する設備上の用意

英國の學校に於ては其第一流に位するものは、特に訓育上より着眼して設備上に意を用ふるものゝ如し。今其二三の點を擧げん。

一 校地の選擇

英國最良の學校は必ずしも帝都にあらず、オックスウオードもケムブリッジも都會としては極め

て微々たるものなり。又其土地の大部分は大學に占領せらるゝを以て、大學あるが故に此小都會ありと言ふも不可なし。イートン、ハロー等の歴史的大學豫備校も孰れも大都會を離れたる閑靜の地にありて、社會の惡影響に遠かれり、是れ健康上道德上健全の地を選ばんとすること明白なり。近年の新設に係る大都會の學校に於ては、此事容易に實行し難し。然れども英人が大に此點に留意するは、倫敦附近の學校に於ても尙之を見るを得べし。

二 校舎

英國學校の校舎は、單に實用と經濟上のみより着眼す可らず、訓育上に重大の關係あればなり。オックスフォード及ケムブリッジの兩大學其他歴史的大學豫備校は、孰れも古色蒼然たる建築を有す。足一たび其内に入れば世界に令名を轟したる偉人、學者、詩人の記念遺物到る所にあり、此等歴史的の教訓は、言語に盡し難きものあり。一時遊覽の旅客も、徘徊願望去る能はざる感あり。校舎莊麗なれば心自ら嚴肅となるは、吾人が寺院に於て經驗する所なり。校舎、器具、粗野なれば生徒の舉止亦粗野ならんとする傾向を免るゝ能はず。故に學校の面目を保たんとするには相當の建築を有し、各部の設備を整へ、整頓清潔に注意するを要す。又生徒の心を端嚴ならしむる一法なり。英國の校舎動もすれば贅澤と思はるゝものあり、然れども此點より考ふれば一理ありと言はざる可らず。

三 運動競技上の設備

各學校に於て廣大なる運動場を有することは、英國學校の誇りにして、又其特色と言ふを得べし。又特別の競技に對して、各特別の運動場を有す。又屋内體操場、屋内遊泳場あり、校外に漕艇の設備又は海水浴の設備をなすものあり。

四 娛樂上の設備

寄宿制の學校にありては、生徒をして其生活を樂しからしめんが爲めに諸種の設備をなす。又各自の占有する室に於ても、出來得る限り不自由なからしめんことを期す。會合を催す爲めには特別の室あり、又前に述べたる餘暇利用の爲めには學校にて夫々適當の設備をなすものとす。

五 生徒圖書館

中等の學校にては各級共に教場内に小圖書館を有するものあり、或は全校内共通の生徒圖書館を有するものあり、皆生徒の經營整理に係るものにして、各學級にて釀金又は寄附したるものあり、或は卒業生の寄附したるものあり、孰れも生徒各自自宅に持ち歸ることを得。各學級共に課外隨意に讀むべき書目を作りて授くるあり、又は既に讀みたる本の目錄を作らしむるものあり。

生徒圖書館の必要は、生徒が竊かに訓育上有害の書を読むを防ぎて、而かも有益の書を読ましめ、且つ卒業後の讀書の習慣を養はんとするにあり。

此等の設備は相當の費用を要するは勿論なり。而して英國の學校は多く私設にして、巨額の資金を有し、又公共心より其爲に特に資金を寄附するもの多きを以て、獨佛の官公立の學校に比すれば此等の設備をなすに一層容易なりとす。

第六章 訓育に及ぼす學校以外の勢力

學校の訓育を助長し、又は妨害するものは大別して家庭、教會及社會の三とすべし。吾人は今此三者に關し、英國に於て見る所を記すべし。

一 家庭

英國人の家庭は其城廓なりと稱し、何人にも其平和を妨害するを許さず。英人は眞に家庭の平和と一家團樂の生活を樂しみ、之を以て神聖なる安息所となさんとす。故に英國の家庭は英國社會の一小縮圖に異ならず。

家庭教育の方針は、第一章に於て英國教育の特徴として述べたる所と大差あることなし、以て其大體を推知するに足るべし。英國の家庭に於ては子女の起居動作に、外形の上にて嚴格なる檢束を加へず、自然の感化に一任するが如し。故に外國人は之を見て規律寬に過ぐと評するものあり、然れども父母は生きたる模範を示し、家風は無言の教訓を施すを以て、英國の子女は概して天真爛漫にして腹藏する所なく、虚飾する所なく、率直眞摯にして人を恐れず、人に怯せず、早熟者執拗

者少く、大人に至るも尙赤兒の心を失はざるが如し。

然れども英人は子女を全然放任するものにあらず、要は無用の干渉を避けて指導宜しきを得んとするにあり。

身體の健全と性格の堅實とは、英人の特に要求する所なるを以て、幼時より子女の柔弱に陥らざらんことを圖る。又獨立心を養成する爲めに、早くより自ら一身を處理する習慣を作らしむ。早くより經費を節する法を學ばしめんが爲めに、毎月一定の金額を與へ嚴重に其出入を記録せしむ。

二 教會

學校教育に於て宗教的精神を重んじ、宗教を授けて別に修身科を置かざるは前に述べたる所の如し、而して學校の宗教々授は全く教會の勢力に従ふ、之を以て教會と學校とは相提携するものと言ふべし。學校生徒は其年齢に應じて日曜學校又は教會に出席す、故に其教育上の影響は決して輕々に看過すべきにあらず。

又宗教上の團體は社會道德の爲めに諸種の事業を經營す。此等も間接に學生の風紀に勢力を及ぼすは論なし。

三 社會

學校、家庭、教會、如何に相提携して、訓育に力を盡すも、社會の風紀廢頹し、道德地を掃ふに至れば、其効果は絶えず一面に於て、社會の爲に破壊せらるゝを免れざるも、英國は幸にして國民一

般に人格を尊び、道心堅固にして社會の風儀亦着實なるを以て、社會は學校の教育を妨害せざるのみならず、之と歩調を整へ、之を助長するが如し。多くの場合に於て社會に於ける他人の行動は、青年に對し模範を示すに足るなり。若し夫れ英國の暗黒面を捉へ來り、下等社會の行動を暴露せば、學校生徒の訓育上に悪影響を及ぼすは論を俟たず、然れども此は以て英國社會の大體を動かすに足らず。

獨佛等の諸國を見て英國に來るものは、國民一般につきて左の諸點に注意せざるものなし。

- 一、身體壯健、風俗溫和にして態度に餘裕あること。
- 二、沈着にして疾言遽色せず、眞面目にして輕躁浮薄の舉動なきこと、
- 三、正直公平を旨とし、毫も虚偽卑劣の言行を用ひず、信用を重んじ約束を履行し、毫も狡猾詭計等の嫌疑を抱かしめざること。(言行に表裏なきこと)
- 四、人皆丁寧親切にして何人にも禮儀を失はざること。
- 五、人皆法を重んじ秩序を尊び、暴行をなし又は争論をなすを好まざること。
- 六、警官の帶劍せざること。
- 七、他人の行動に注目せざること、並に他人の意志を重んずること。
- 八、上流社會は勿論、労働者と雖自重心を有し、人を恐れず人に媚びず、堂々たる體面を保ち、自屈自卑の態度を示さざること。

九、運動競技をなす人多きこと。

十、教會に行く人多きこと。

十一、婦人の服装地味なること。

十二、家屋器物等凡て堅牢を主とすること。

社會の風儀は社會的訓練の結果にして、歴史の産物なり。英國民の保守的精神が、之を維持するに偉大の勢力あることは言を俟たず。今社會風紀に關する現象二三を擧げて之を述べべし。

輿論の制裁

英國の社會は徳義を重んじ、相互の信用を基礎とす。故に狡猾の徒若し人を欺きて不徳義を行ひ、又は詭計を以て私利を圖らんとすれば、何時にても其術を施す餘地あり。然れども一旦此信用を濫用し不徳義を行へば、其人は一生再び社會に立つ能はず。國民道德に一定の標準あり、之に違反したる行爲を許さず、以て社會の輿論の制裁の勢力を知るべし。

新聞紙

新聞紙は輿論を代表す。而して英國の新聞紙は主義着實にして記事確實、論說眞面目にして正々堂々の態度を採り、卑怯陋劣の手段を取らず、又濫りに人の私事を摘發し、不面目又は不名譽の事件を紹介せず。然れども新聞に論ずる所は世人之を信ずるを以て、新聞紙は恰も輿論の法廷の觀あり

運動競技と長幼上下の接近

英國の運動競技は、英人の一生を通じて各個人の筋骨を鍛錬し、又其性格を陶冶するのみならず、又長幼上下を接近せしめ、其間の感情を融和するのみならず、又人物の感化を不用意の裡に容易ならしむ。

大學豫備校にては教師生徒相交りて運動競技に従來す。是れ學校内に於て長幼上下相接近するものにして、之が爲めに教師の感化一層大なりとす。又生徒休暇にて我家に歸れば、父子兄弟親戚相交りて運動をなす。社會に於ても亦然り。年齢地位境遇甚しく異なりたるもの相交りて、同一の運動競技に従事することを得。是等は青年の訓育上に、好結果を生ずるが如し。

男女の關係

英國に於ける男女の關係は獨佛に比して遙かに自由にして、又同時に最も純潔なるが如し。英國にて外部より種々の拘束を用ひざるは、一方に於ては男子の人格を尊重し、又一方に於ては女子の貞操を信ずるに由るが如し。

男女の間には一定の禮儀ありて、嚴として之を犯す可らず。殊に英國婦人は獨佛二國の婦人に比すれば、一層品位高くして一種の威嚴を有す。故に敢て青年男子の侮辱無禮を許さず。又獨立の識見を有するを以て容易に誘惑に陥らず、又無分別の行動に出づるもの稀なり。彼の女權主張者の如きは、男子をして避易せしむるに足るものあり。

英國には女子を尊重する習慣あり。皆家庭より之に馴るゝを以て兄弟姉妹の間に於ても禮を失は

ず、況んや他人をや。是を以て放縱に流れ、又は淫靡の醜態を暴露するが如きは、下等社會にあらずば容易に之を見ること能はず。

英國社會の風紀は婦人の品位を汚し、又は淫靡の跡あるを許さず。故に海水浴にて男女の混浴を禁ずれば、夫と雖も其妻に同行するを得ず。汽車汽船等に於て婦人室と定めたるものには、如何なる男子も同席することを得ざるなり。

社會事業の諸團體

都會生活又は大工業の發達に伴ふ諸種の社會的害毒を防ぎ、又は弊風を矯正せんが爲めに、諸種の社會事業の團體あり此等は間接に學生の風紀を矯正するに効あり。

「ボーイ、スカウツ」(青年斥候)

英國には今より三年以前に成立を公表したる「ボーイ、スカウツ」なる運動あり、南亞戰爭に功ありしパーデンバウエル中將の計畫に成り、其指揮する事業とす。今や此事業は英國全般に普及せるのみならず、植民地にも及び、亦歐洲各國にも之を採用するものすらあり、將來の發展は未だ豫測し難きものあり。而して此團體に屬するものは滿十一歳以上十八歳以下なるを以て、此等青年は「ボーイ、スカウツ」たると同時に、又學校生徒なるもの多數を占む、故に其訓育に及ぼす影響少からず。

「スカウツ」なる語は言ふてもなく軍隊上の用語にして、斥候の義なり、故に「ボーイ、スカウツ」

は青年斥候と言ふに同じ。然れども創立者は之を以て戦時斥候にあらずして、平時の斥候なりと謂ふ。又軍隊の斥候にあらずして國民の斥候なりとす。又之に斥候なる名を冠したるは、南亞戦争にて青年を斥候に用ひ、大に軍功ありたる故なるが如し。又一方に於ては青年に適當の訓練を與へなば、戦時のみならず平時にも國家社會に功をなすとあるべしとの思想も、此事業の一動機なるが如し。然れども現時の文明國の青年は、人爲的の社會に生息し、自然の生活に遠り、稍柔弱に流るゝを以て、風土氣候及文明程度の異りたる地に赴きては、甚しく生活の困難を感ずること、南亞戦争に於て最も著しかりし爲めに、英人をして少年時代より簡易素朴の生活に馴れしめ、能く天然に親しみ、天然の事物を理解せしめんとするも、亦其動機の一なりと傳へらる。

創立者が軍人なると、其團體の組織軍隊に類するを以て、世人稍々もすれば之を以て軍事思想を養成し、戦時の準備をなすものなりと評するものあれども、創立者は極力其然らざるを辯護す。「ボーイ、スカウツ」の目的は將來の軍人を訓練するにあらずして、將來有用の國民となるべき青年の訓練をなすものにして、戦争とは直接に何等の關係なしと聲言す。然れども公平に之を評すれば、其性質に於て軍隊的意義を帶ぶることは疑ふ可らず。

「スカウツ」とは滿十一歳以上十八歳以下の少年に限り、之を率ゐる指揮者は滿二十歳以上とす。六人乃至八人の「スカウツ」を以て一組を作り、之に組長あり、三組又は三組以上を以て一隊を作り、數隊を聯合して地方團を作り、一都會又は一町村の團體をなす。次に郡縣州等大第に行政区劃

に應じて團體の範圍を廣め、凡て倫敦の本部に於て之を統轄す、其組織恰も軍隊の如し。「スカウツ」も勿論有志者にして、指揮者も亦有志者とす。故に全然私設の團體なりと雖、全國に涉りて當局者の贊助を得、公共の會合、又は儀式に「スカウツ」の資格を以て隊伍を整へて列席することあり。「スカウツ」は青年に規律的訓練を與へ、世に立うて能く我一身を處し、變に遇ふて度を失はず、勇邁剛毅君國に忠に、社會に有用なる國民を作るを目的とす。其格言に曰く「寸時も覺悟を失ふ勿れ」と之れ變に備へよ、油斷する勿れと言ふのみならず、何時も我爲すべきことを爲し得る準備せよと言ふ義にして、溺死せんとする人を見れば直ちに助けよ、注意を要するものあれば輕々に觀過する勿れ、爲すに躊躇する勿れ、と言ふに同じ。少年の「スカウツ」たらんとするものは先づ左の三事を宣誓す。

- 一、神と君とに忠誠なること。
 - 二、如何なる場合にも他人を助くること。
 - 三、スカウツの法を遵守すること。
- 是れ「スカウツ」の三綱領と言ふを得べし。

敬神は道德の基礎、忠君は愛國の根柢、進んで他人を助くるは社會生活の鑰鍵と謂ふべし。此等の綱領を貫徹する爲めに、種々の精神的訓練を行ふ。第一には英國古來の武士道を鼓吹し、覺悟、無私、自己犠牲、親切、寛大、禮節、婦人の尊敬等を教ふ。自己の規律としては面目(廉恥心)を重ん

ずること、公平、正直、忠君愛國、規律、服従、謙遜、勇氣、堅忍不拔、虚心平氣、快活の諸徳を涵養せんことを努め、又自己の修養としては神の道を守り、人の責務を先きにし、禁酒節儉を履行せしむ。スカウツ」の法九箇條あり左の如し。

- 一、「スカウツ」の廉恥心は信頼するに足るべし。
- 二、「スカウツ」は其君主其上官、其國、其主人、に忠誠なるべし。
- 三、「スカウツ」の責務は有用なると他人を助くるにあり。
- 四、「スカウツ」は身分の高下を論せず如何なる人にも友たるべし。(好意を有すべし)
- 五、「スカウツ」は禮儀を重んずべし。
- 六、「スカウツ」は動物の友たるべし。(之を虐待す可らず)
- 七、「スカウツ」は命令に服従すべし。
- 八、「スカウツ」は如何なる境遇にあるも嬉々たるべし。
- 九、「スカウツ」は節儉すべし。

「スカウツ」の訓練には室内にて行ふものと、戸外にて行ふものとあり。少年訓練に最も有効なるは戸外及野外の演習の如し、殊に野外生活は都會生活をなすものに取りては、日常生活又は學校生活と甚しく異なる爲めに、大に其熱心と興味とを喚起するが如し。戸外并に野外の訓練は主として心身の鍛鍊にして自然を知り、自然生活に近かしむるにあり。野營の準備、炊事。距離、及天文の

觀測、動植物の知識、追躡、偵察等を行ふ。體育の爲には體操、運動、競技、遊戲等を行ふ。人を助くる道としては應急救助の諸法を練習す。

青年男子の外、女子にも適當の法あるべしと發意するものあり。創立者は之に對して特別の立案をなせり。精神修養としては宗教、武士道、愛國心、勇氣等を鼓吹し、作業には病院看護法、料理、自家看護法、應急療法を授く。女子の極めて少數なるは言ふまでもなし。

「スカウツ」の訓練は學校又は職業の餘暇、又は休業休暇を利用して之を行ふ。故に學校生徒たるものは、其正課を履修する上に於て毫も妨害となることなし。英國に於ては普通の學校にて毎週土曜、日曜二日連續して休業す。吾人は此兩日の夕刻一隊の「スカウツ」樂隊の奏樂に鼓舞せられ、堂々歩調を整へて野外より歸來するに遭遇すること多し。又群集の間單獨「スカウツ」の制服を着用して徘徊するものを見ることあり。

「スカウツ」が溺死せんとする人を助け、火災に助力をなし、盜賊の追躡に警官を助けたりと言ふが如き、屢々新聞紙上に見る所なり、而して此等の功績者には其功に應じて賞牌を授與す。昨年末までに他人の生命を救助したる爲めに授與したる賞牌の數左の如し。

青銅牌(最上)	四
銀牌	七八
功牌	八〇

賞状

「スカウツ」中特別の技能あるものは、熟達牌と稱する記章を授く其種類左の如し、孰れも之を適所に用ふ。

應急手當	鍛冶	小笛手	木工
書記	料理人	自轉車	搾乳手
電氣技師	機械技師	消防夫	動物應急手當
園丁	手利き	乗馬	通譯
製革	射擊	兵器匠	傳道師
樂手	博物家	道探り	寫真師
工兵	大笛手	左官	印刷師
探索者	水夫	信號夫	微行者
天文家	測量手	游泳及救命	樵夫

昨年中に熟達牌を交付したるもの九萬四千人に及ぶ。

昨年九月末現在の「スカウツ」及指揮者の數左の如し。

英 蘭

八七、五〇四人

蘇格蘭

一四、八一五人

愛 蘭

一、七六九人

威耳斯

三、八九八人

計

一〇七、九八六人

即ち大英國全體約十一萬人植民地、約一萬五千人、米國十二萬人、智利七千人、アルゼンチン二千人、歐洲二萬人、通計三十五萬餘人となる。(英國以外の數は概數なるを以て精密にあらざり) 現在に於ては其後既に約一年を経過せるを以て、遂に其數を増加したるは言を俟たざるも、未だ確實の統計を得ざるを遺憾とす。

「スカウツ」の團體は各地方に於て全く新に組織せられたるものあり、或は既存の青年團體、又は俱樂部に於て、其主義を賛成して之に加はりたるものあり、或は寄宿制の學校にて學校内に「スカウツ」の一隊を設け、其地方團に連絡するものあり、室内の訓練は學校を利用するあり、俱樂部を利用するあり、公共建築物を利用するありて其方法一定せず。

「スカウツ」訓練の方法は多少軍隊的性質を帯びたりと雖、要は青年の性格を鍛鍊して、國家有用の材となさんとするにあり。よく其身心を練磨して男子らしき男子を作らんとするにあり。故に其理想とする所は英國人を作るにあり。是を以て教育の主義より言ふときは、英國の學校に行はるゝ訓育の方針と一致するも、敢て之と矛盾することなし。斯の如く觀察するときは「スカウツ」の事業は學校訓育を助長し、青年の風紀を振作するものと謂ふべし。

第七章 訓育上英獨佛の比較

以上英國の訓育に關して其概況を述べたるを以て、今同様の着眼點より、獨佛兩國に行はるゝ訓育との比較を試みんとす。是れ固より容易の業にあらずと雖、極めて興味あることなれば茲に其一斑を窺ひ見んとす。

一 訓育の主義

各國の教育等しく人物養成を標榜し、各國の教育學同じく品性の陶冶を以て教育の極致となすべきを論述すと雖、教育の實際に就きて之を見れば、知育に偏するもの多きが如し。是蓋し文明進歩と社會生活の組織次第に複雑に赴くに從ひ、知育に要求する所益々多大なるによるものにして、已むを得ざる理由の存在するあるは、何人も認容する所なり。然れども教育の事業上に於て訓育を重んじ、之に力を盡す程度に於ては、其國によりて多少其趣を異にす。今英獨二國の間に就きて之を見るに、英は比較的人物訓練の實行に努め、堅實の性格を養成するに全力を注ぐ。獨は理論上は人物養成主義なるも、事實上に於ては知育の爲めに、其精力の大部分を殺がるゝものゝ如し。英獨に於ける中等學校の授業時間數を比較し、獨逸の學生が、學科の研修に汲々として殆んど餘暇なきを考ふれば、何人も此點に想ひ至らざる能はず。

英國の人物養成主義は生徒の良心に訴へ、其自治の精神に基き、出來得る限り外部の檢束を少く

し、監督の有無に拘らずして能く自己の責任を盡し、隨處隨時其爲す所道を失はざる人格を陶冶せんとす。然るに獨逸に於ては外部の束縛稍々多く、常に嚴格なる規律の勵行によりて、夙に一定の習慣を作り、以て獨逸國民の性格を訓練せんとするなり。其方法組織の劃一主義なる上に於て、又規律を勵行する權威の嚴肅なる上に於て、軍隊式の觀あるを免れず。英國の志願兵制度にして、獨逸の徵兵制度なるを思へば、教育上に此差異を來すも亦敢て怪しむに足らず、獨逸にありては國民の大部分は、軍隊生活を送り來りたるを以て、其生活の規律は家庭并に社會に於ける、日常生活の上にて著しく之を認むるを得べし。

規律的生活は軍隊の生命とすべし、而して獨逸の學校生活も亦然り。規律の監督權は全然教師の手にあり、生徒は全然被監督者の地位に立つものとす。又獨逸にありては、教育は國家の事業にして學校の大多數は官立、若くは公立なるを以て、教師は生徒に臨むに當りて、其背後に國家の權威を有す、是又規律を勵行する一大勢力となるなり。

獨逸の國民は古來服從の精神に富み、義務の感觸強し。故に能く長上の命に従ひ、自己の責務を盡すに忠實なり。又勤儉にして秩序を愛するが如きも獨逸國民の美性と稱すべし。

英と獨とは人物養成の上にて外部の檢束に多少の差ありと雖、共に實行によりて良習慣を養ひ、性格を訓練せんとするは同じ、故に之を力行主義又は訓練主義と稱するを得べし。

佛國に於ては全然此兩國と異なりたる方法によりて訓育を行ふ。佛人が人物養成を以て教育の極

致とするは、他國と異なることなし。然れども其訓育の方法は主として生徒の理性に訴へ、道德上の修養は道理上より理解せしむるを以て充分なりとするが如し。故に教師は教場に於て修身教授を施す外、訓育に留意する所少く、生徒に道德に關する知識を授くるを以て満足するが如し。故に之を知育主義又は啓發主義と名づくるを得べし。英獨の訓育は實行を先きにし理論を後にし、佛は理論を先きにし實行を後にするものと言ふべし。

佛國の共和政治は自由平等友愛を以て三綱領とす。而して此主義は最も服從の念に反對す、故に佛人は政治のみならず、社會生活宗教教育に於ても寸毫も獨斷的に強制せらるゝを好まず、又自己の外に何等の權威、權勢を認むることなし。故に規律を勵行するには最も困難なる國民なり、而して國民を束縛し得るものは國法あり、生徒を拘束し得るものは校規あり、國民は國法なるが故に已むを得ずして之に従ふ、生徒は校規なるが故に已を得ずして之を守る、故に訓育に於ても校規にあらざることは生徒の意志に反して之を強制するを得ず、教師は唯生徒の理性に訴へて懇々雜説論し、能く道理を理解せしめ、其實行を促さんとす。故に校内の秩序を維持せんするには、已を得ずして峻嚴なる校規を設けざる能ざるに至れるものあり。

二 宗教的精神

英獨兩國に於ては、學校にて特に修身科を設けず宗教を以て之に代ふ。宗教の外に訓育の爲めに教ふる所多しと雖、皆宗教的精神を以て道德の基礎とす。故に宗教と教育、學校と教會とは相提携協

方せり。然れども學校に於ける宗教的精神は獨に於ては遙かに英に劣る所あるが如し。大學生にして教會に行くが如きは、獨逸にては極めて少數なりとす。社會全體に就きて言ふも、教會に出席するものは、英は獨に比して遙かに多數なりとす。又獨に於ては學校教員の立脚地より言へば、訓育上にて教會の勢力を脱せんとする傾向を免るゝ能はず。

佛國の學校に於ては全く宗教を課せず、専ら修身教授によりて生徒を訓育せんとす。而して修身教授は單に理性に訴ふるを以て主として知育となる。是れ佛人が頭腦明晰にして獨斷權威に堪ふる能はざるによるべしと雖、宗教の如く儀式によりて敬虔の念を生ずる機會なく、信仰によりて熱誠の情を喚起する能はざるは其缺點と稱すべきか。又佛國の政府は宗教を敵視す、故に教會と學校とは生徒の訓育上に於て何等の協力を望む能はず。

佛國の教育家は自己の任務を以て教會に劣るものにあらずとし、修身教授を以て宗教教授に優るものなりとすれども、佛國の學校にて教ふる修身は、稍々平凡單調にして嵩高なる人格を養ひ、嚴肅なる道德の權威を認めしめ、熱誠なる動機を喚起するに、其力尙ほ及ばざる所あるが如し。故に佛國の修身教授は未だ成功せりと言ふ可らず、佛人の間に於て既に此缺點を認識するものあり。

修身教授は専ら人の理性に訴へ、道理の理解を主とするときは、未成人に取りては不適當の點あるを免るゝ能はず。又單に理論上より倫理道德を論ずる時は、學者によりて其意見必ずしも一致せざるを以て、青年の間に懷疑者を出すも已むを得ざるなり。今や佛國の社會に無宗教無信仰懷疑の

暗流あり、又青年の犯罪者を増加する傾向ありて、社會の風教將さに危からんとす。是れ必ずしも學校にて宗教を授けざる弊害にあらざる可きも、之を英獨の社會に比較して考ふれば、宗教的精神の衰退に起因すること少なからざるが如し。故に佛國內に於て、教育に於ける無宗教の缺陷を補はんとする諸種の運動あれども、未だ大勢を挽回するの力なきが如し。

三 舊慣の勢力

獨は多少舊慣に重きを置くも英の保守的なるには若かず。獨人が自國を出て他國に定住すれば、稍々久しくして漸く其國情に同化し、其本來の國民性を失ひ、自國に歸るを忘ると稱せるは、其保守の精神に乏しき所以を證明するが如し。

佛國に至りては全く舊慣を無視し歴史を顧みず、極端の自由平等主義を標榜して、革命の國民たるを以て得意とするは、茲に詳述するを要せず。

四 校風の勢力

獨逸の學校にて教育上校風の重大なるは、理論上何人も認定する所なり。併しながら獨佛の如く官公立の學校大多數にして、孰れも劃一の法令に従ひて行動するものは、或る一校にのみ就きて特別なる校風の發達せるを見ること難し。又學校全體の道德的空氣を以て、生徒の人物養成の一大勢力となさんとする思想も、英に比すれば獨佛に於て一層薄きを覺ゆ。

五 教師の感化

獨の學校教師は威嚴を保ち生徒亦之を尊敬す。然れども師弟の關係稍々形式に流れ、英國に於けるが如き溫情に乏しく、又教場以外の感化も之より少きが如し。

佛國にありては教師稍々威嚴に乏しく、教師自ら人格の感化を及ぼさんとする熱誠に乏しく、教場内の教授を以て自己の職責を盡したりと考ふるが如し。然れども佛國にありては一般に教職を尊重する風あり、教師亦自信強きを以て、教師の人格及熱心の如何によりて、教育上人物の感化見べきものなきにあらず。

佛國の學校にて訓育の效果最も好成绩を得たるものは小學校にして、中等學校に至りて最も困難を感ぜり。更に進んで大學に至りては全く之を放棄するが如し。之に反して女子は從順なるを以て高等女學校の訓育は、男子の中等學校に比して其結果良好なりと言ふ、孰れも教師の人物の感化の多少によること大なるが如し。

佛國の女學校は規律嚴格にして氣風も亦質素着實なり。佛國婦人に關する世評によりて想像すれば意外なること多し。

六 寄宿制

獨佛の中等學校は英に比すれば寄宿制のもの少し、就中獨は佛よりも少し、大學に至りては獨佛孰れも寄宿制を採るものなし。獨の寄宿舎は其規律兵營の如く、教師は士官たるの觀あり。規律整然たるは長處なれども、稍々個人の特性の發達を妨げ、家庭的の溫情なきは其短處とすべし。

佛國の寄宿舎は一官衙の如く、教師は官吏の如し、或は之を酷評して寄宿舎は監獄の如く、舎監は警官に似たりと言ふものあり。毫も年齢によりて待遇を異にせず、犯則處罰少なからずと言ふ。

七 自治制

獨逸は規律勵行主義を取り、敢て檢束強制を辭せざるを以て、服従の徳を養ふに長することは勿論なりと雖、生徒に自治の精神に乏しきことは免る可らざる結果にて、獨人自ら認むる所なり。英人の批評する所によれば、獨逸の學生生徒は命令に従ひて器械の如く行動するも、責任の觀念に乏しく、指揮者なきときも自ら進んで事を處理計畫し、又は人を御する才能に乏しと言ふ。又外國に赴きて容易く其風習に同化し、祖國を忘れ國民性を失ふも、服従に馴れたるに淵源すと論ずるものあり。

佛國にては個人の自由の觀念強く、教師は生徒の同意せざることを強制する能はざるを以て、外部より檢束して規律を維持すること極めて困難なりとす。而も自治の精神に乏しく、監督者なき所に秩序を守り、人の見ざる所に自己の責任を盡すの美風なきが如し。又個人主義稍々極端に走り、團體に對する公共心に乏しく、生徒の風紀稍々弛く、或は放縱に流るゝ傾向あり。

獨佛人は夙に英國教育に於ける自治制の長處を認め、此兩國内に於て、特に英國式の教育を標榜して學校を經營し、大に訓育上に自治主義を鼓吹するものあり、又普通の學校に於て英國の制度に倣ひて生徒の互選したる級長を置き、之に特權と責任とを有せしむるものあり。

八 運動競技

獨は運動競技に於て英に劣るは世界の輿論にして、獨の學校にて其爲めに費やす時間の英より少きことも事實の證明する所なり。然れども獨は體操を以て體育の外、又訓育の一方便として之を全生徒に強制す。體操は主として徒手體操及器械體操にして、各生徒をして均一に之を行はしむ。獨逸學校の運動は殆んど皆劃一必修なるに反し、英國にては運動の種類に自由を與ふる事は、特に注意を要する點なりとす。

獨逸の學校には近年に至り從來の體操の外、大に運動競技を獎勵し、次第に勢力を得來る傾向あり。而して此氣運は現皇帝の叡慮に基きたるものにして、其英國教育法の影響なることは蔽ふ可らず。體育は佛國に於て最も等閑に附せられ、學校の體操并に運動競技最も劣れり。佛國の學校生徒の體格一見して虛弱なるが如く見ゆるは故なきにあらず。

九 賞及罰

英佛獨三國共に罰を最少ならしめんとする主義は一致すと雖、罰が規律を維持する方便の一なる以上は、外部の規律を嚴格に勵行する獨逸の學校に於て、英國に比して罰多きは自然の勢なり。然れども罰は極めて輕きものにして不行狀も重大なるものを聞くこと少し。英は寧ろ賞多くして、罰少なしと言ふべく、之に反して獨は賞を行ふこと極めて稀なり。獨逸の學校に於て賞と罰との數を比較せば、勿論賞少くして罰多しと言はざる可らず。之れ英國は優者獎勵の方針を採り、獨逸は罰

一主義平均主義を取るに由るものとすべきか。

佛人は賞讃又は非難を露骨に發表すること、英獨に比すれば極めて多きが如し、是れ蓋し國民性に基くものにして、佛人は概して感情的にして名譽心に富むを以てなり。佛國共和政治に於て、政府又は社會に地位を得るには、其優秀なることを公認せられざる可らず、而して學校の賞は實に生徒の優秀なることを保證するものなり。故に學校は賞を重大にし、之を與ふるに盛典を用ひ、之を受くるもの、榮譽を大にす。故に高等の賞にありては、生徒の將來の運命を定むるものあり。されば優等の生徒は此等の賞を得んが爲めに奮勵し、又競争をなすこと多し。

又一方に於ては平等自由の思想の弊害として、生徒に規律に服従する精神に乏しき爲、學校殊に寄宿舎制の學校に於ては、輕少の罰を蒙むること甚だ多し。例へば寄宿舎にて日曜に外出禁止の如きは極めて通例のことにして、同一人にして數週連續して此罰を受くるものあり、而も其効力少きが如し、故に佛國にては賞罰共に多しと言ふを得べし。

英國は優等者獎勵の意義に於て賞を行ふこと多きも、生徒の名譽心を刺戟し、又は生徒間の競争過度なるが如き弊少し、是れ英佛の國民性の相違に基くが如し。英人は他人を品評し、又は賞讃又は非難を公々然と發表することを好まず、殊に運動競技に於て正々堂々公明正大に力を争ふて禮を失はず、又怨まず妬まざる美風を養成せるに由るべし。

一〇 餘暇の指導

獨佛の學校は餘暇指導に於て著しく英國に劣る。之れ兩國に於て寄宿舎制の學校少きは一原因なるべしと雖も、英國の餘暇指導は本來生徒の自治の精神を養ふに出てたるを以て、此精神に深く注意せざる國に於て、此方法に用意なきは怪しむに足らず。

獨逸の諸學校にありては、英國の學校より授業時間多きのみならず、生徒亦學課の良成績を得るに汲々として、餘暇娛樂のことを願慮する餘裕なきが如し。若し少數に就きて之を言へば、英國の條に述べたる如き方法の行はるゝものなきにあらず、今は獨逸學校の大體に就きて言ひたるのみ。

法令に規定したる學課の履修に忙はしきは、劃一主義を執れる獨佛大差なきが如し。佛國の教師は規定の課業の外は殆んど生徒に干渉せず、此點より觀察すれば佛國の教師は獨逸の教師に比し生徒に對して一層冷淡にして、師弟の關係稍疎なるが如し。又佛國の家庭は、英獨より一層多く子女の家庭に在らんことを要求するを以て、放課後生徒を學校に留まらしむること困難なり。故に生徒は學課終れば直ちに走りて家に歸る、適當の餘暇指導をなさんと欲するも能はざるなり。

獨佛の學校に於ては、英國の學校に比すれば社交的生活極めて少し。是れ生徒の常識を養ひ、又將來世に處するに於て大に關係あるを忘る可らず。

英國の教師は規定の學科を授け、忠良の國民を養成するに力を盡すのみならず、更に生徒各個に就きて其將來を慮りて餘暇を指導し、其人格を完成せんとするに苦心するは其長處とするに足るべし。之に反し獨逸の教師が學識に於て教授法に於て、通例英國に長ずるとは英人亦是認する所なり。然れ

どもそは主として知育に關するものとす、英獨の教師各一長一失あり、一言にして其優劣を論じ難きも、然れども單に訓育の上より言ふときは、英國の教師には大に學ぶべき所ありと言はざる可らず。

一一 大學生の訓育

獨佛兩國の大學に於けるが如き學寮、又は寄宿舎の制なく、學生は自宅又は下宿より通學す、獨佛孰れに就きて之を言ふも大學豫備校は各都市に普及するを以て、通常自宅より通學す。故に大學生にして、始めて故郷を出て、父母の監督を離るゝもの多し。獨佛人は大學豫備校を卒業する時を以て成熟の期となし、全く之を放任す。而も其年齢は滿十八歳前後にして、俄かに自由の身となり、自ら處する道を誤るもの少なからず。而も其訓育に就きては、大學は殆んど直接に何等の手段を取ることなく、英國ケムブリッジ及オックスフォードに於けるが如き、規律は殆んど大陸に於て見る可らざる所なり。

獨佛の大學は學生の規律に關する規則を設け、又犯則に對する罰を定むと雖、學生日常の行狀を監督する機關殆んど備はらざるを以て、之を勵行すること困難なり。故に若し處罰を勵行するとあれば、そは偶然當局者の注意を惹きたるか、或は非行の甚しくして之を放棄する能はざるものなり。

獨逸の生徒は大學豫備校の中等學校に於て、嚴格なる規律によりて訓練せられ、大學に入るに及んで、俄かに年來の束縛を脱して自由の身となる。故に生活狀態の劇變によりて、時として一身の方針を失ひ放縱に流ることあり。然れども獨逸人の見地より言へば、年來豫備教育に於ける訓練

によりて、大學にて充分に自由生活をなすべき性格を作り得たりとす。殊に學生より言へば大學生時代は人生の華にして、其自由は神聖にして何人も之を犯す可らずとす。

獨逸大學生の訓育に就きて、英國大學の學寮生活に代るべきものは學生間に成立せる諸種の團體とす。

獨逸の大學生の團體は、元は學生の志氣を鼓舞し、膽力を練り面目廉恥心を重んじ、愛國奉公の精神を養成する目的を以て起りたるものなれども、現今にありては此精神的訓練の趣旨漸く衰へ、其行動は外形の末に走り、現今は飲酒と決闘の外何等の特色なく、甚しきに至りては、牛飲馬食放歌高言を以て得意とするものあり。

此等の團體は各制服制帽を有し、又根據地を有するを通例とす。數百年の歴史を有する大學に於ては、團體は資金を有し特別の家屋を有するものあり、是れ英國の俱樂部に類す、小都會の大學に於て殊に然りとす。然れども大都會にありては、財政上相當の家屋を占有するを許さず。故に料理店又は酒店の一室を借るものあり、或は一室を特約するものあり、孰れも制服制帽を着用し隊をなして出入す、又一種の奇觀とす。

此等の團體に加入して飲酒決闘に夜の更くるを知らず、以て學生の本領を得たるが如く思惟するものは、多くは富家の子弟にして財政餘裕あり、又卒業後生活難に逐はれざるものとす。加之此種の學生は舊慣を墨守するものにして、最近に至り漸く其本旨を失はんとす。

獨逸大學生の多數は學資豊ならず、下宿屋の一小室を借り、粗衣粗食刻苦勉勵し、社會に出て相當の位置を得んとするに汲々たり。其生活は學術の外に何等の趣味なく、社交なく、運動競技なく、師弟相接すること少し。約言すれば大學生の人物を修養し、人品を琢磨する機會甚だ少し。獨逸の大學は専門學術の研究に於て世界に冠たり、然れども人物養成の一點に於ては、英國大學に數歩を譲らざる能はざるなり。

一二 家庭

獨逸人の規律的生活は家庭に始まる。家庭教育の規律訓練主義なることは、學校の主義に異ならず。換言すれば獨逸人の生活は一生を通じて規律的なり。外人或は之を稱して天性なりとするものあり。學校生徒は學校に於て訓練せらるゝのみならず、又家庭に於て起居動作禮儀作法をも訓練せらる。家庭は其子女の學課の豫習復習宿題等を嚴重に監督し、少しも假借する所なく、決して子の愛に溺れて其怠慢を觀過することなし。換言すれば家庭の訓練は、大に學校の訓育を補助するものと言はざる可らず。

佛人は家庭生活を愛して之を楽しむ。佛人の家庭は家族の獨占にして、朋友と雖、交際は家庭外に於て之を行ひ、其家族團樂の中に招待すること少なし。故に佛人の家庭は外人に知られずして、多くは誤解せらる。

佛國は人口減少を以て世に知らる。而して其原因は避妊法を行ひ、子女の數を制限するに因ると

稱す。其原因種々あるべし、或は父母安易逸樂を圖らんが爲なりと言ふあり、或は遺産分配法によりて資産を等分するときは、一人の額過少となるが爲なりと稱するあり、或は生活難の爲なりとするものあり、或は國民元氣衰退の結果なりとするものあり、吾人は未だ其孰れか是なるを知らず。然れどもこは佛人が子を愛する情に乏しき爲にあらざることは極めて明瞭なり。

佛人は親子の情強く、親は子の爲めに全力を盡し、子は又親に孝なり。親は子女をして出來得る限り家庭に留まらしめんとし、或は子女を鍾愛して其度に過ぎ、其性を害ひたるもの少なからず。子女は其家庭に時を費すこと多きを以て、其性格も家庭に於て養はるゝもの多し。然れども嚴格なる規律の訓練は、佛國の家庭に於て見るに能はず。父母は危險を恐れて子女の戶外、又は野外に出で運動競技等に從事するを好まず。是を以て佛國の子女は、多く早熟にして伶俐なるも着實の性を缺くことあり、舉止優美體節正しきも男子にして女性的のものあり、佛國が國家として將た國民として元氣銷沈の世評を受け、又植民事業の成功せざるも、此家庭閉戸主義に起因する所少なからざるべし。

一三 社會

甲 獨逸

獨逸の社會は學校の規律訓練主義を助長するに適す。獨逸に行きて第一に旅行者の目を惹くものは、一事一物周密なる注意によりて計畫組織せられ、上下左右秩序整然たることなり。衣食往其他社

會の制度一として一定の主義に基かざるものなし。特に注意を要することは注意書を揭示し、敢て爲すまじきことは禁條を掲ぐ。故に獨逸語を解するものは、一たび獨逸國境内に入れば、案内者を要せずして旅行するを得べし。軍隊生活の影響は軍人の制服、警官の武裝鐵道役員の動作に於て最も顯著なるのみならず、廣く國民一般の規律的生活に於て之を見るべし。官吏教員皆忠實に其職責を盡し、國民皆其職責を勵み、社會の如何なる方面に於ても甚だしき不用意なく、全國歩調を整へ以て新進國の元氣を示せる所は、何人も獨逸國運發展の故あるに首肯せざる能はず。此社會に生息する學生生徒は、其良感化を被るは當然のこととす。

獨逸は教育の普及を以て其名萬國に高し。之れ國民眞に教育の價値を理解し、國家發展の基礎は教育の外、他に之を求む可らざるを知らばなり。獨逸は輒近、國民教育に全力を盡し、現時は其効果を收穫しつつあり。普佛戰爭の勝利は國民教育の普及によりたることは既に定論のある所、最近獨逸商工業の勃興も亦人皆之を教育の結果に歸せざるものなし。之を以て教育の思想は社會の上下一般に普及し、教育學者並に教育家の意見は社會に重きをなす。是亦學校教育に有利の事情とす。

男女の關係

獨逸の女子は婚約成るまで父母の監督極めて嚴重にして、家庭内の規律に服従するを要す。故に其間は青年男子、又は大人に會合する機會すら少し。演劇の如きも容易に之を見ず、故に男女の關係は英國に於けるよりも外部の束縛多し。されば青年男女自由交際の様子は、固より中流以上の

社會に有り得べからず。

獨逸に於ては女子の數、男子の數に超え、輒近經濟生活の發展に伴ひ結婚愈々困難となり、結婚し得べき年齢に達して結婚する資力なく、又將來結婚し得べき望なきもの約半數に達す。之を以て妙齡の女子にして獨立自活の途を求め、一定の職業に従事し、父母の家を出て、單身獨立の生計を營み、往々にして尋常の軌道を脱し自由行動を採るものあり。此種の女子大都會に於て次第に其數を増加し、所謂巴里生活の影響を蒙るもの、如し。此等は將來に於て獨逸社會の風教を危くする原因となるべしと思惟せざる能はず。

「ワンダー、フォーゲル」(學生生徒巡歷團)

獨逸の各地に於て其地に住居する學生生徒一團を作り、大學生先達となり、中等學校の生徒を率ゐ、粗衣粗食質素と節儉とを旨とし、休業休暇を利用し、一日乃至數日の遠足又は旅行をなすあり、名けて「ワンダー、フォーゲル」と稱す。遊鳥の義なり。全國の諸團體連絡を通じ、同名の機關雜誌を發行して各團體の事業を報告す。夏時は田舎の納屋に藁を褥として宿泊することあり、自ら食料品を携帶することあり、或は野營をなして自炊することあり、其性質稍々英國の「ボーイ、スカウツ」に類す。然れども本來の「ワンダー、フォーゲル」は英國の「スカウツ」の如く組織的のものにあらず、又外形上軍隊的の性質著しからず。然れども最近に至りて英國の「ボーイ、スカウツ」の制を採用するものありと言ふ。

乙 佛 國

佛國の共和國は自由平等友愛を以て立國の主義とす。故に佛國の社會に遊ぶものは、諸種の方面に於て之を目撃すべきも而も同時に社會の規律稍々弛み、風紀廢頽せんとするにあらざるなきかの疑を起すべし。されども巴里は佛國の全部にあらず、一斑を以て必ずしも全豹を窺ふに足らず、佛國の中等社會は尙健全にして國家の中堅を作れり、地方に於て殊に然り。唯之を英獨の社會に比すれば輿論の勢力社會の制裁に於て少しく遜色あるは蔽ふ可らず。佛人は蓋し智と情との國民なり。發明美術文藝に長ずれども、動もすれば小事に激昂し易く、又冷却し易く、堅實持久の性に乏し。辯論述作に長ずるも眞摯の赤誠を缺き剛毅の勇なし。勸儉貯蓄に専心なるも老後の逸樂を安全に求めんとするに急なり。又概して個人的利害の念に強く、奉公の精神強からず。動もすれば政治黨派の争に熱中して、國家の大事を誤らんとすることなきにあらず。

佛國は發明國、美術國、文藝國の名を以て世界に誇るべきも、君子の國、人物の國を以て標榜す可らず、男子らしき男子の國を以て立つ可らず。又國民統一の鞏固なるを以て本色とす可らず。吾人は斯の如き社會が、全生徒の訓育に多大の貢獻をなせるものと思惟すること能はず。佛國の青年動もすれば瀟洒たり才子たるも、剛健なる男性的の氣骨と元氣とを缺くは、學校教育上に於て規律的鍛鍊を缺きたるのみならず、社會の影響も亦一原因をなせるものと言ふべし。

男女關係

佛國の男女關係は外國に行はるゝ評言を聞きて想像したると、實際佛國の中等社會に見る所とは雲泥の差にして、吾人は先づ其關係の意外に嚴格なるに驚かされたり。巴里の花柳社會又は小説家の描出したる暗黒面は、佛國の中堅を作れる社會の實際にあらず。吾人は佛國の高等女學校を參觀し、其衣服の質素にして風紀の嚴肅なるに驚けり、是れ蓋し中等社會の女子を代表するものなり。佛國の女子は結婚前には單獨に外出を許さず、父母の監督甚だ嚴なり。然らざれば身分に相當する品位を保つこと能はず。故に婚約既に成りたる後と雖も、結婚前なれば縁女縁男自由に交際し、又は二人相携へて外出することを許されず。縁男縁女を訪問する場合にも父母之に列席し、形式を嚴にし自由の談話をすを得ず。之れを獨英の風習に比すれば著しく嚴格なるものとす。是れ蓋し社會一般の風紀淫靡なるが故に、良家の面目を保たんが爲めに自ら斯の如き現象を呈するにあらざるなきか。

附 言

各國の學校訓育法は其國民性と國情とに基くを以て、單に一國の立脚地より其優劣功過を論斷す可らず。然れども一國の盛衰は訓育法の如何に關すると多く、各國現行の訓育法は其國運を左右し、又將來の運命を豫告する所なきにあらず。獨逸は現時新進の銳氣を以て、進歩發展止まる所を知らざるが如きに反し、英佛は既に全盛時代を通過し、稍々衰運に傾かんとする老大國なりと論ずるも

のあり。英佛共に老衰せんとするが如くにして、俄かに國運に變調を呈し來らざるは、各々自國存立の基礎未だ動搖せず、學校訓育法亦其國情に適する所あるに因ることを思はざる可らず。若し夫れ一國の訓育法を其儘に他國に移したりとするも、其成否如何は豫測すること能はざなり。

英が過去百年間に於て全盛を極め、今尙世界に優勢を占むるはイートン、ハロー、ラグビー等の歴史的大學豫備校并にオックスフォード及ケンブリッジ大學の教育に負ふ所極めて大なり。故に英國の國運を維持するには英國固有の教育法を保存せざる可らずとは、多數の英人の信ずる所なるが如し。

獨逸最近の發展は其規律訓練主義の教育法に基くこと論を俟たずと雖、學術研究の進歩、并に知育の普及か其成功の一半を占むることは亦掩ふ可らざるが如し。獨逸の教育が英國に比して一頭地を抜ける所は學術の研究にあり、殊に教育學並に教授法の研究の如きは遙かに英の上であり、英は此點に於て獨に學びつゝありと雖、訓育に於ては依然として傳來の方法を守れり。

英は獨佛に比して知育に於て一步を譲る所あるに拘らず、今尙世界に優勢を占むるは學識技藝に劣る所あるも、人物に於て長ずる所あるに因るなり、即ち其訓育上に長處あるに因るなり。

獨佛の青年は書籍より得たる知識に富むと雖、英の青年に比すれば常識に乏しく人格に於て遜色あり。英國の勞働者は獨佛の勞働者に比し、概して知識の程度低きも一層着實にして信用を置くに足る。

近年に至り獨逸にては良家の子弟を英國に送り、歴史的の大學豫備校に入れ、英國風の教育を受けしめんとするものあり。曰く獨逸の學校は知育に餘りあるも訓育に於て足らざる所ありと。又獨佛の學校に於て、英國訓育の長處を認め之を輸入せんとするものあるは、上に述べたる所の如し。果して然らば英は訓育の上に於て、獨佛を反省せしめ又之を教へつゝありと言ふべきか。

(明治四十五年三月文部省發行外國教育の狀況所載)

國運の將來に對する青年の覺悟

自分は明治四十一年十月に本邦を出發して歐米留學の途に上り三箇年餘獨佛英米等に滞在して今年二月下旬に歸朝した。自分の專攻の學科は教育學であるけれども専門の研學の外留學中は出来るだけ實際の方面を觀察し及ばずながら各國の國民生活の實際と教育の實際との關係を理解し度いと努めた。是は畢竟純粹の學理上の事は態々外國迄出掛けずとも書籍の上で日本でも可なりに研究が出来るとも生きた社會の事になると自分に實地を目撃せねば合點行かぬ事が多いからである。さて觀察者の眼に映ずる實情は同じ方面で同じ事項である限り實際に於て勿論變りがある筈は無いけれども特に觀察者の注意を惹く點並に其の事實の解釋の仕方や夫れに就ての感想になれば殆んど人毎に多少違ふ。人によつて色々違ふからして多くの人が違つた眼で見て異つた意見を述ぶることも必要である。自分は固より豫言者の如き眼を持つて居る譯でもなければ日本の先覺者を以て自任して居るのでもない。唯平々凡々の一老書生として歐米の先進諸國に行き熟々各國の國運と其由つて來れる事情を察し殊に各國の國民性によつて教育法の異なる所などを研究するにつけて嘗て子供の時に讀んだ故福澤諭吉翁が「世界國盡」の中に「本なき枝に花はなし」と言はれた一語を思ひ起さざるを得なかつた。羅馬の成るは一日に成るにあらず。歐米の現代文明の根本も偶然のもては無い。今日の我日本は歐米の學問技藝其他幾多の物質的文明を輸入して我等祖先が夢にだに想像

し得ざりし恩澤を蒙つて居る。然らば此等の學問技藝乃至幾多の物質的文明は如何にして其本國たる西洋に生じ又如何にして現今の進歩の状態に到達したものであるか。我が日本は果して此文明の輸入に報ゆるだけの貢獻を世界になしつゝあるか。歐米の文明は駸々として進歩して寸時も停止せぬ。日本は果して歐米各國と歩調を描へて進歩しつゝあるか。自分は留學中に屢此疑問を提出して自問自答を試みたが何時も満足の解答を得た事はない。彼の地に滞在せる幾多の同胞に同じ疑問を提出して見ても答へは大同小異に歸着する。少々大袈裟の言ひ様であるけれども多少世界の氣勢を呑み込んで三年半の後祖國に歸り靜かに社會の事情を觀察したあとで再び前の疑問を提出すれば同じく満足の答を得ぬ。日本現代の文明は其基礎が果して鞏固であるか。日本の文明は果して鞏固の地盤の上に立つて世界の一等國の名に耻ぢざる進歩をなしつゝあるか。此疑問は恰も強迫觀念のやうになつて腦裡を去らぬ。日本の地を一步踏み出せば誰しも自分は日本人であると言ふ自覺が本國に居るより一層痛切に感ぜらるる。外國の文物を見れば直ぐにそれを自國のものと比較せずには居られぬ。外國の燦爛たる文明を見て座ろに自國の前途を慮るのは決して憂國の士を氣取るからでは無い。日本國民として誰しも感ぜざるを得ぬ至情であると思ふ。明治維新以來僅々四十餘年間に世界の奇跡とまで驚嘆せらるゝ程長足の進歩をなしたる今日に於てさへ彼我の状態を比して自分は此感を抱く程であるから維新前に幕府から歐米に使節に行つた人や明治の初年に歐米觀察に差遣された元老の方々は日本の文明と彼地の文明との差異を何程に感ぜられたであらうと自分は想像に餘

りがある。彼我の間には少くとも物質的文明の上に雲泥の差を認めなければこそ維新以來の大變革も生じたのであるから、自分は我邦の先覺者の明察に敬服し我邦進歩の爲めに努力されし功績を感謝すると共に我大和民族が短期の間に此急劇の進歩をなし得たる優秀の國民性に誇らざるを得ぬ。行燈蠟燭よりランプ瓦斯燈電燈に進み徒歩又は騎馬より汽車電車、自動車、飛行機。飛脚より郵便電信乃至無線電信。帆前船より汽船、手細工より機械工業、其他學問技藝、教育、政治、經濟、陸海軍等徳川時代と現時と比較すれば實に霄壤の差と言はねばならぬ。日本は實に過去四十餘年間に長足の進歩をなした。是は實に日本の誇りである。併し更らに一步を進めて考へて見れば日本は今日是れて充分の進歩をして居るかどうか。日本は東洋第一の先進國を氣取つて意氣揚々得意の鼻を高くして安心して居られるかどうか。是は吾人が極めて眞面目に反省研究を要する問題である。

日本は日露戦捷の後世界の一等國の列に加はつた。從來公使を送つて居つた國には大使を送るやうになつた。日本以外の一等國は英米獨佛露奧伊の七箇國である。日本は果して此等の列強と比肩して耻ぢざる實力を備へて居るか。現今の社會は劇甚なる實力競争の社會である。政治經濟風俗道徳學問技藝の點に於て一々項目を分ちて以上の諸國を比較して見れば如何。吾人は眞面目の意義に於て世界の一等國と競争し得ると、廣言する抱負を持つて居るか。駭々として一日も已まざる社會の進歩に伴ひ日本は世界の先んじて文化を發展しつゝあるか。自分は固より日本が最近五十年間になしたる驚く可き進歩を疑はぬ。又此驚く可き進歩は大和民族の優秀なる國民性に出づるこ

とを誇りとする。併し問題は現今の日本の文明の状態及其基礎が此一等國の名に副ふて居るかどうかである。

自分は日本最優等説の樂天觀を屢々耳にする。日本は世界無比の國體を有し我陸海軍は世界の強敵たる露軍に勝ち三千年來の文明に加ふるに更に泰西の新文物を以てし渾圓地上如何なる國も企て及ぶ可らざる優秀無儔の文明國であると言ふのである。殊に思想界に於ては本來の日本思想に支那印度思想を融合したる上に更に泰西の思想を以てし是も他國の眞似し得ざる所であると言ふのである。自分は假りに之を日本萬能主義と名くる。又國粹保存説の名は少し古いけれども日本固有の長處を稱揚し之を保持發展せんとするは同じ精神で現今廣く行はれて居る。自分は固より我大和民族に此自信と抱負とを必要とし大に之を鼓吹せんとするものである。又明治の新文明も此自信と抱負とを以て進みつつ來たものであると信ずる。併し自分が茲に衷心より我國民の反省を促さんとするのには現今の日本の文明は此自信と抱負とに充分に一致して居るかどうかと言ふことである。徳川時代の如く銷國主義を採つて居る間には自分天狗をきめ込んで獨り長夜の夢を貪つて居つても直ぐに眼に見えて國民の面目如何と言ふことを感ぜぬのであるけれども現今の日本の如く世界の一等國として列國環視の間に立てる日本は斯く安閑として孤島鎖國の時代を夢みることを許さぬ。一體國家の觀念も自覺も外國と接觸して明瞭となつて來るものである。殊に國家の獨立安危に關する時機に遭遇するときは國民統一の自覺が最も明かになる。吾人は日清日露兩戰役に於て此事を最も

痛切に経験した。我國民は此兩戰役によつて大和民族の優秀なる國民たる自覺を固め又大國民たる品位を自覺し世界も亦我を遇するに一等國の禮を以てする様になつたのである。斯の如く我が邦が他國に接して國民の自覺を明かにし國家の位置を高めたやうに現在の日本國が世界の一等國として耻かしからざる文明と國力とを具へて居るかどうかと言ふことは我邦の現状と他の一等國とを比較して始めて斷定することが出来る。今日は最早や支那又は暹羅印度等と日本とを比べて優秀なる國民であると思つて居る時代ではない。又露國の陸海軍と我陸海軍との優劣を論じて得意がるべき時代も最早や過ぎ去つて仕舞つた。今日は更に眼界を廣くして我見識を一段高めて露國外の一等國就中英米獨佛の如き強國と比較して我國の文明如何、國力如何を考究して見た後で我果して彼れより凡ての點に於て優勢を示して居れば始めて枕を高うして安眠も出來鼻を高うして日本萬能最優等説を振り廻はすことが出来るのである。然るに支那暹羅の如く世界から劣等國と公認して居る國に對しても先進國と威張り居る理由を移して直ちに他の列強に對しても同様であるとは論ずることとは出來ぬ。内心眞に如何なる強國に對しても世界最優等國と誇る自信なくして只日本國內丈けて鳥なき里の蝙蝠然として樂天觀を唱ふるのは卑屈の極である。若し又列國の形勢を知らず只舊日本に比して新日本の進歩を見て意氣揚々として安心油斷するものは井底の蛙の痴愚を學ぶものである。

自分は先年日露戰役後に滿洲の戰地を訪ひ深く腦裡に印象を残したものが二箇條ある。一箇條は

言ふまでも無く我日本國軍の忠勇の精神で第二の箇條は我邦が財力の點に於て露國に比して著しく貧弱の様を呈して居ることであつた。大連旅順其他南滿鐵道の經營の様は若し彼我地位を更へて其任に當つて居たと假定したならば日本の財力で果してあれ丈けの事が出來て居たらうかと疑はざるを得なかつた。如何に戰後間も無しとは言へ戰爭前の露國の經營と占領後日本の經營とが其規模の差に於て對照が餘り甚しく感ぜられた。殊に大連の市街に堂々たる露人の建てたる煉瓦造の家の傍に假り小屋同様の木造の日本家屋に何々病院何々旅館と表札を掲げて居るのは時として滑稽の感を生ぜしめた。自分が留學中に外人との談話中に屢々日露戰役談が出た。初會見の人は日本が強敵を倒したことを賞揚して日本人を喜ばせる。殊に猶太人や平素露國を面白く思はぬ人種は日本人に對して感謝の意を表する。此は一遍の御世辭としても充分に根據ある御世辭で我々日本人はまともに之を受けて而も揚々として充分に世界に誇る權利を持つて居るものと言つて宜からうと思ふ。併し少々懇意になつて何事も遠慮なく語り合ふ様な友達になれば少々日本人に耳の痛い批評を試みる。日本は此戰役には随分に重い犠牲を供した。講和前には日本は財力兵力共に窮乏を告げて事實上戰役の繼續は餘程困難に見えたては無かつたかなど、我々日本人さへ一般には能く知らぬ細かな事情を知つて居る西洋人が居る。自分は其道の事を心得ぬから何とも答へ様は無いけれども日本通の外人に此通りに見透かされるには相當の理由があるに相違ない。又此戰役が日本の財政經濟に及ぼした打撃及び日本は如何にして此傷手を醫して財政の基礎を確實にするかと眞實に日本の前途の爲め

に憂へて自分に談した人もあつた。自分は固より國家財政の基礎如何を論ずる資格を持たぬ。又茲に喋々として財政を論じたからとて日本の財政に何程の影響を與へやうとも信ぜぬ。又吾人は我邦の當局者は戦後の經營に違算無き事を信ずるものである。併し乍ら眞に日本の將來の爲めに考ふる友邦の識者は多少我邦の財政を危ぶむ傾向がある。よし危ぶむまでに至らずとも日本の財政は赫々たる戦捷の威光に伴つて居らぬ事は歐米人の等しく認めて居る所である。戦役後觀光の爲め又は實業視察の爲めに我邦に渡來した幾多の外人は日本の物質的文明並に國力財力に關して如何なる印象を得たであらうか。自分が熟々考ふるに外人が日本を見て得る印象は自分が露人の滿洲經營を見又歐米を見て得た所と大差はあるまいと思ふ。否露骨に言へば日本人は日本を餘程最負眼に見るものと考へねばならぬから此等外國人は日本人が外國を見て感ずるよりは一層強く日本の弱點を見抜くと言はねばならぬ。日露戦役の事ばかりを知つて日本に來たものには種々の點で案外に感じたものも少く無いらしい。自分は日本漫遊から歸りたての人に外國で會うたことが度々あるが日本の山水の美や日本人の丁寧な事などを賞讃して已まぬものは多いけれども眞に日本の文明を嘆美するものは少い。勿論外人の日本に關する評論も人によつて一樣で無い。自分は假りに大別して日本を賞め過ぎる方と日本を惡く見過ぎる方との二つに分類するが適當であると思ふ。眞に正鵠を得たのは殆んど數ふるに足らぬ。賞め過ぎる方も惡く見過ぎる方も當を失して居る點から言へば同様であるけれども日本を惡く見過ぎる方は日本の弱點を忌憚なく酷評したので誤解も随分多いけれども又

大に日本人たる我々が傾聽して將來の誠めとするに足るべき點が少く無い。此等は多少の惡意を含んで居つても我々は之を意に介せず虚心平氣で我缺點を反省すべきである。日本はまだ決して溢美の賞讃に安心油斷すべき時機に到達して居らぬ。とも角外人の批評は如何であつても我等同胞は日本の國運の將來の爲めに此等の點につきて大に猛省すべきものであると思ふ。

自分は今茲に彼我の制度文物を一々精密に比較して優劣を論ずる餘裕を持たず又之をするに充分の資格も持たぬからして唯思ひついた二三の點を捉へて自分の感想の一端を明にし度いと思ふ。

一昨年英國倫敦で日英博覽會があつたことは讀者の記憶にまだ新しい所である。此博覽會は其前に開かれた佛英博覽會場を其儘に利用したので日英と言へば兩國協同の様に聞ゆるけれども其實は英國の出品は誠に寥々て誰の目にも倫敦に於ける日本品共進會と言ふ體裁であつたことや、一體此博覽會の成功如何については當時既に報道されて居るから茲に詳しく述ぶる必要はあるまい。我友邦の英人は之に因つて如何なる印象を得たであらうか。前年の佛英博覽會の印象と對比して如何であらうか。日本は之によつて果して日本人の優秀なる所以を遺憾なく紹介し得たであらうか。例によつて日本を賞める人は絹物類や刺繡類の精巧美麗なこと又は盆栽や日本庭園などの珍らしい事位を談柄にするので外國人の眼につくものは言ふまでも無く西洋に出來ぬ日本の固有品である。日本の維新以來汲々として輸入した泰西の工藝品に就いてはまだ外人を驚かさず程の出品を見ることは出來ぬと言ふことは何人も首肯する所であらう。此種類の出品や油繪のやうなものがあつても殆ん

ど外人の注意を惹いて居らぬ位であつた。日英博覽會は日本の實業界及文物制度の有様を遺憾なく發揮して居らぬことは誰しも豫期し得べきことで日本國の長處日本人の優秀なる所以は博覽會に出品の出來ぬ所に多々存することは何人も認むべき所である。又政府の經營した出品はとも角日本人が見て等しく不愉快を感じたのは臺灣生蕃とアイヌ土人の生活状態は勿論日本の村落と市街の様を表はした見せ物である。苟しくも世界の一等國の國民たるものが藝人ならばとも角通例の農工業に従事するものを衆人の前に見せ物に出すと言ふのは大に耻づ可きことである。是れは日本の實狀の一部を紹介したには相違無いけれども日本人の模範とも言はれぬものを見せて日本は皆此通りであると思はせた傾向がある。自分は之によつて英國の同盟國として日本の地位を高くしたと思ふことは出來ぬ。他の興業物の中でも男子の裸體を厭ふ國で相撲をやつたやうな事も假令國技の一とは言へ少年婦女子の如きは皆輕侮の念を以て見たことは事實であると思ふ。要するに日英博覽會は英國の出品が少なかつた爲めに日英出品の對照の差が著しく見へなかつたのであるけれども若し假りに英國政府が日本政府と同一の程度で盡力し英國の實業家が日本の實業家と同一の意氣込で出品したならば其競争の結果は如何であつたらうか此は讀者の推測に任かするより外は無い。

日英博覽會と同様に白耳義ブリュッセル府で萬國大博覽會があつた。日本政府は一方に日英博覽會に全力を盡して居つた時であるから同會へは加盟しなかつたが少數の日本商人は一個人として出品して片隅に小さく雜貨店様のものを開いて居た。白耳義は今日では固より世界の一等國には加は

つて居らぬ。此點から言へば世界に於ける國家としての位置が日本より遙かに低いのである。讀者諸君も白耳義は歐羅巴中の渺たる一小國として齒牙にかくるに足らぬと思はるゝであらう。自分は日英博覽會を見た後で英國から態々大博覽會を見に行つたのであるが今迄小國と輕侮して居つた豫想に反して非常に盛大であつた。殊に日英博覽會と比較して雲泥の差を感じた。萬國大博覽會は列國工業進歩の競争會で出品の如何によつて國運の一斑を卜知することが出来る。白耳義が渺たる一小國を以て世界の一等國と對立して遜色を示さぬやうな出品をした元氣は實に驚嘆の餘りがあつた。自分は此時につくづくと考へた。日本は此博覽會と同等の世界大博覽會を開き得る時期は何時に到着するであらうか。歐洲の小國は小國として決して輕侮することは出來ぬ。自分は留學中に明治四十五年に開かるべき日本大博覽會が五年間延期さるべきことを聞き又間もなく無期延期となつたのを聞いて慤然として歎息した。自分が白耳義に滞在中に博覽會場の一部分が火災にかゝつて英國の全部白耳義の大部及佛國の一小部が灰燼に歸したが日本の出品は安全であつた。損害は當時約一億圓と言はれた。自分は知り合の日本出品人に無事の祝を言つた所が其人の曰く。日本の出品は全部焼失しても損害は十萬圓を越へぬ位であるから外國の焼失品の高價なもの、一品の價にも及ばぬ位であると。一寸此點から丈け見ても彼我の富の程度の差の一斑を窺ふことが出来る。又博覽會は火災に拘らず又自國の出品の重要部分を失つたに拘らず一日も閉場せず翌日から依然として繼續した。白耳義人の此處置には皆々敬服の意を表した。

昨年即ち明治四十四年には獨逸ドレスデン市で萬國衛生大博覽會が開催され日本も之に加盟して立派な日本館が一棟出來た。内務省。陸海軍。臺灣總督府。南滿鐵道會社等夫れ／＼立派な出品があつて日本館は外國館の内では中々評判のよい方であつた。殊に日本の衣服を示した人形や旅順攻撃當時の衛生隊の人形や日本料理の膳立ての出品は大に人の注目を惹いたやうである。此度の日本館は規模の上では固より日英博覽會と比べ物にはならぬけれども日英博覽會以上の成功であつたことは雙方を見た人は何人も同意するであらう。併し學術上の出品も相應にあつたが之は主催國たる獨逸の敵となることが出來ぬのは當然であるが隣國の塊國の出品に對して如何なる程度まで達したか自分は寧ろ讀者の想像に任せて置きたい。日本出品については色々専門家の批評も公表されたやうであるが概して好評であつたさうであるけれども間には日本には何んて下水や便所の出品が無いだらうと皮肉の苦言を呈したのもあつたさうである。さて獨逸本國の出品は流石醫學の本場だけあつて全體の組織が學術的研究の進歩の有様を示し専門的知識を通俗化する方法が遺憾なく發揮されて醫學の専門家にも素人にも等しく有益であつたのは敬服の外無い。就中世界各國の衣食住の狀態を人種別國別として陳列してある部分があつた。其中に獨逸の委員が態々日本に出張して來て蒐集して歸つた物品が各方面に分類されて各國の中に挿まつて陳列してあつた。自分は日本館に行つて見て大に意を強うしたのであるが獨逸館の中で日本の衛生に關する物品が各國のものとは比べてある處に來れば其度毎に日本の品位が下落するやうに感じた。何ぜなれば日本館の方には日本の最

も良い物及び獨逸から輸入した醫學上の研究が出て居るけれども獨逸館の方では古來純粹の日本品が陳列してある。例へば臺所の道具の所では土鍋、七厘、竈、磨鉢、搦木、たわし、雜巾の類が西洋の臺所道具と併んで居る。日本のものは多分勸工場のやうな所て買ひ集めたものと見えて極めてありふれた粗品であるから一見すれば外國品と日本品とは殿様の持物と貧民の物との差がある。日本の事を全く知らぬものが見たならば野蠻人の用具と間違ふるかも知れぬ。殊に草鞋と便所の所には貼札に原始的の靴及原始的の便所と記してあつたのには聊か赤面せざるを得なかつた。日本の便所の構造が極めて單純なのに引更へて獨逸の出品は改良に改良を加へたものが夥しいものであつた。又日本の家屋も模型を作り市街の様を人形て示してあるものであつた。殊に露店の周圍に子守や子供がたかつて居る所もあつた。又或る一室には日本全國の神社の守札が蒐集してあつた。此等を見るときに丁度諸國の人種博物館で野蠻人の出品の續きに日本品の陳列を見ると同じ心持がした。日本人たる自分の印象が此通りであるからして獨逸人の感想は推して知るべしである。

自分は留學中に屢々活動寫眞を見たが此頃は日本のものが一つ位番組に加はることがある。就中日本の風俗などを主にしたものは日本に居つてこそ毎日見慣れて居るからあたり前であるが西洋のもの計りの中に日本の物が突然一つ加つて見れば如何にも異様の感がする。例へば保津川の船下りの如き山水の美は我ながら懐かしく外人に誇るべきであるが舟中の人々の體たらくや船頭の風采は餘り感心せぬ。又或る時東京隅田川の洪水の光景を撮影したのを見たことがあるが深川本所あたり

のあばら屋が軒まで浸水して救助の小舟が其間を往来して居る様が日本に斯んな所があつたらうかと思ふ程見すばらしく感ぜられた。少し向ふに住み馴れて見れば日本の活動寫眞が異様に感ぜらるる計りて無く久し振りに日本人に出會へば日本人までが時々異様な感じがする様になる。つまり體格の立派な人計り見つけて居る爲に日本人が不思議な程小さく見へる事である。日本に居るときにはまだ未だ堂々であつた様に思はるゝ。兎も角多數の外人の中に極めて少數の日本人が交はつて居れば如何に洋服を着てハイカラ風を氣取ても一見して目立つ。而も其印象は我等日本人にさへ満足と言ふことは出来ぬ。日本人が往々支那人と間違はされても必ずしも憤慨するに及ばぬ。

三年半の後に横濱に着き東京に来て見た時の感想は自分ながら信ぜられぬ位である。横濱の港の規模は言はずもがな旅館の體裁道路家屋停車場汽車其他往來並に汽車中の様孰れも多少三年間に進歩して居るに相違無いが皆驚く可き程豫期に反した。殊に西洋の市街に比して少しも遜色なしと度々彼地で新來の同胞に聞いて居つた銀座の大通りも和洋二分子の不調和と家屋の小さいのとは孰れも架空の想像を破壊して仕舞つた。市内を縦横に走ると聞き傳へて居た自動車も搜しても容易に見當らぬ位である。此時自分は再び日本に來遊する外國人の感想に思到らざるを得なかつた。自分は僅に三箇年餘てさへ西洋の事物を見馴れた眼で日本に歸つて見れば西洋が通例で日本が異様で大に見劣りせらるる心持になつて來る位であるから彼等一等國に生れ一等國に成長した人が一寸日本漫遊に來たならば其の眼に日本が如何に映ずるだらうか自分は之を想像するに難く無いと思ふ。日本

人が外國から歸り立ての異様の感想は固より全く一時的のものである。少くとも自分一人の経験では全然一時的のもので僅に四五日の中に消え去つて出發前の昔に還り日本のものを通例と思ひ出す様になつて來る。併し外國人の日本來遊は一時的であるからして日本に同化せぬ中に歸つて仕舞ふ畢竟日本を異様の國として得た印象を其儘に持つて歸り且つ之を其儘に記憶に存し或は之を著述して世に公にするのである。自分はまだ西洋を見ぬ中に西洋人の日本漫遊記や觀察録を讀んで何うも合點の行かぬことが澤山にあつたが自分が暫時でも西洋の生活に馴れて祖國に歸つて見れば外國人の日本の觀察に異様な事があるのは尤であると言ふべきである。兎も角も日本の社會の生活状態は西洋人にあまり感心した印象を與へて居らぬ。

自分が以上述べた所を約言して見れば日本の物質的文明は歐米の一等國に比して著しく劣つて居ると言ふとに歸着する。日本は外交上世界の一等國の資格を得たが私外交又は商工業の上に於てはまだまだ一等國と對等の競争をするのが出来ぬ。併し自分は之が爲めに日本の前途を悲觀するものではない。又日本は人種の上からも智力の上からも技能の上からも西洋人に劣つて居つて日本人が何程奮發努力しても西洋人には追付かぬと落膽するものには無い。又西洋の文物を一から十まで日本に優れて居るとして西洋心酔西洋崇拜の舊説を繰り返すものには無い。自分は茲に旗色を鮮明にすれば彼の日本萬能主義國粹保存主義を奉ぜんと欲するものである。自分は大和民族の優秀の性を自覺し日本は將來尙大發展をなすべきことを確信して居る。併しながら自分は漠然として無條件で

之を信ずるのでは無い。日本の過去四十餘年間の長足の進歩は事實である。併し是は決して偶然の結果では無い。維新當時の事情と明治の進歩の原因結果を精細に考究して見たならば上下に貫通したる一大國民精神の活動に本づいて居ることが分る。明治の歴史を觀察して見れば如何なる方面に於ても百折不撓の國民の元氣が活躍して居るのを見る。此國民精神と國民の元氣があつたればこそ今日までは發展を見たのである。併し今後國民精神と國民の元氣とに多少でも弛みが來たとすれば我國運の將來は大に憂ふべきものである。假令現状の状態は如何であつても又現在に實際に長足の進歩をなすつゝあつても社會の裏面に不吉の兆候を醸しつゝあるのである。

如何なる國民でも國民精神と國民の元氣とが旺盛である間は發展して行く。詳言すれば國民が協同一致して誠意誠心自信自覺を以て一定の理想に向つて努力奮進する間は國民生活は健全である。併し國民の一部に惰氣を生じ倦怠を起し理想なく目的なく將た協同の志なく團結の精神なく懷疑的破壊的思想に囚はれたものが生じたとすれば其國民は既に衰微の前兆を示して居るものである。少し古くさい例であるけれども昔の羅馬の興亡は日本に取つては此上も無い教訓である。古代羅馬の風俗習慣や道徳を調べて見れば驚くべく日本に似て居る。質朴堅實武勇を尙ぶ彼の羅馬精神は著しく我大和魂に類似して居る所がある。是は羅馬の昔は農本國で家庭教育が極めて嚴格で此羅馬精神の涵養に努めた所が一大原因であらうと思はれる。羅馬がタイバー河畔の一小都から起つて連戦連勝遂に當時の世界統一の大業をなし得たのは全く此羅馬精神の發揚に外ならぬのである。

羅馬が世界を統一して世人が羅馬全盛に謳歌して居た時には既に羅馬滅亡の兆候が表はれて居た。領土の擴張、財産の増殖の爲めに生活は次第に贅澤となり昔の質素剛健なる羅馬精神は羅馬の繁榮に赴くと共に衰退し遂に道徳地を拂ひ士氣消耗して帝國の滅亡を來したのである。

現代の國家で最近數十年の間に著しく進歩發展をなしたものを舉ぐれば獨逸米國及び日本の三箇國であることは世界の十指の指す所である。獨米二國の近年の發展は實にすさまじいもので久しく世界に最大優勢を占めつゝある英國の壘を摩せんとする形勢である。此三國の勢力は將來如何なる比例に到達するか今日より計り知ることは固より困難である。自分は親しく兩國に遊んで國民の精神國民の元氣の旺盛なることを深く印象に留めた。獨逸は教育の普及學術の研究を以て有名な國である。又人各自忠實に職務を盡し孜孜として勉めて倦むことを知らず質素節儉の生活に甘んじて各其分を超えぬことを以て廣く知られて居る。又米人は獨立獨行の精神に富み自己の伎倆によりて自己の運命を開拓し又高潔なる道義の精神に富んで居る。米國人は嚴然たる米國氣質を備へて居る。何人も此兩國の精神を考察すれば其駭々たる進歩が決して偶然で無いことを覺らぬ者はあるまいと思ふ。又英國が老大國とか既に衰運に傾いて居るとか何とか彼是と批評を下すものがあるに拘らず依然として強國中に優勢を占め世界の氣勢に伴ふて進歩して行くのは其國民性に争ふべからざる美點があり其國民生活が大體に於て尙健全であるからと思ふ。佛人ド・モランの著「アングロサクソン人種は何故に優勢を占むるか」の書はよく此邊の消息を傳へて居る。次ぎに最近の發展を以て

獨米に併び稱せられて居る日本人は如何。日本の進歩は果して獨米又は英と同様の根據を有して居るか。日本の將來の進歩は過去四十餘年の進歩と同様の根據を有して居るか。語を換ふれば現代日本の後繼者は過去の苦心經營によつて得たる日本の一等國たる位置に耻ぢざる進歩をなし得る覺悟自信ありやと言ふ問題が起つて来る。吾人は我國運の前途の爲め大に考究を要するのである。簡短に言へば將來の日本を双肩に擔へる現在の青年は現在の日本を作り出した先輩の青年時代と同一の國民精神と元氣とを有して居るか。又之を他の一等國殊に獨米の青年に比して遜色なき精神と元氣とを有するか。是れ自分が現代青年諸君の猛省を促さんと欲する所である。

國家社會の進歩發展は一人の力では如何ともすることは出来ぬ。國家社會を構成する各個人個人の奮勵努力の結果が全體の國家社會の進歩として表はれて来るものであることは殊に今事新らしく説明する必要も無くて明瞭な事である。然るに國家を構成する個人は一定の壽命を有し天壽を完了するものと夭折するものと別を問はず絶えず新陳交代して居るのである。大きく通覽すれば絶えず代替りをして居る。現代の日本を作る爲めに盡瘁した先輩はやがて此世を辭し去つて現代の青年が其代りとなつて日本の將來の國運を擔ふやうになる。それで若し青年生活に不健全なる分子が生じて來ればとりも直さず日本の將來の國民生活に不健全の分子を加ふるやうになる。一人に取つて言へば瑣細の問題の様であるけれども大にして言へば國家の大問題である。個人主義の立場から考ふれば一人の思想や行爲は自分の勝手に自分の理想が如何であらうが自然主義を抱かうが快樂主義

を唱へやうが又勉強しやうが怠惰であらうが何も自分勝手と言ふやうに思はれるかも知れぬが人間の社會は不思議な程個人個人の關係が入り組んで先きから先きへと縁故があり連絡があつて一寸見ても何でも無いやうな事が國家社會の運命を作り出すのである。只一人でも不健全な分子があればそれだけ國家が不健全である。其數が多ければ多いほど國家の運命が危ふくなつて来る。是れは丁度人體の一部が病氣にかゝつた様なもので一部分と言つて侮つて居れば遂に一命を危ふくすることは決して珍らしい談では無いと同様である。夫れて現代の青年の覺悟如何は國運の將來を卜知する標準と言つても宜しい。斯く見れば現代青年の責任は實に重大なものと言はねばならぬ。若し現代青年の精神と元氣とが現代の先輩の青年時代に劣つたならば折角に相續した國家の運命を完うすることは出来ない。假りに是れまでと同一速度の進歩をなすことが出来ず無能無爲にして居すはりの體を維持して見ても世界の他の國は我邦を構はず駁々として進んで行くから我國は到底一等國の位置を維持して行くことは勿論困難となるに相違ない。否一步を進めて國民が若し進歩發展をなす原動力を失つた時には現在の國家は如何であつても國運の將來は累卵の危きに等しきものと言はねばならぬ。日本國運の將來は大々の發展をすべき未來を有して居る。單に物質的文明の上から言つた丈でも過去四十餘年間になした進歩に劣らぬ進歩をせねば折角に得た一等國の名に副ふべき實力を作り出すことは出来ぬ。將來の國家の進歩は一に現代青年諸君の双肩に懸つて奮勵努力を待つて居るのである。

同じく國家の發展進歩と言ふけれども其實際の有様に就いて見れば國々によりて皆趣が違ふ、社會が變れば文化が違ふ。詳しく言へば言語風俗習慣道德宗教政治經濟學問文學美術等が皆多少違ふ。随つて之れを産出した過去の歴史と社會の事情が違ふ。此等を顧みずして世界の文化を同一にして仕舞ふと言ふのは現在の國家の區別を破壊して世界を統一した一國家を作らうと企つると一般で古來多數の英雄の試みた所て未だ何人も真正に成功した者は無い。世界中の文化が全然同一になつて仕舞ふことは全く實現することの出来ぬ空想である。夫れが空想である以上は國民生活は國々に因つて特色がなければならぬ。國民生活に特色があれば國民の理想の内容は同一で無い。従つて國民發展の様は國民によつて皆夫れ／＼異なるべきものである。我日本國民が特有の文化を有し特有の理想を有し其進歩發展の様が外國と同じからざるものあるは自然の勢である。

日本の社會は日本の社會として發展して行かねばならぬ。正しく言へば日本の社會は建國以來綿々と連續したもので其古來連續した社會が首尾一貫して發展せねばならぬ。若し過去の歴史を顧みず日本の社會を根柢から轉覆して新社會を作るならば夫れは日本の社會の連續とは言へぬ。即ち生長發展で無くして革命である。自分は飽くまで日本國の文明は日本國の地に生長發展すべきもので其の根柢は建國以來同一なる日本のもので無ければならぬと思ふ。日本は過去に於て既に支那印度の二種の文明を輸入したけれども毫も國民精神の發展を害せず却つて之れを助長した。即ち國民の生長發展の資料となつて能く國民生活に同化せられたのである。現代に輸入せられてまだ多少混亂

の状態にある西洋の文明も我國民生活と同化すべきもので我國民精神は之れが爲めに犠牲に供せらるべきものではない。日本の國民生活は建國以來の進歩發展の針路を曲げずして直進せねばならぬ。外來の文明や思想は之を助長する資料に供せらるべきものである。

日本は永遠に日本でなければならぬ。日本人は永遠に日本人でなければならぬ。日本國も日本人も飽くまで其本來の特色を失つてはならぬ。日本は國體の精華を無窮に發揮し日本人は日本人の大精神を永劫無限に發展して行かねばならぬ。自分は日本及日本人の發展は恰も大木の成長するが如くしなければならぬと思ふ。幾千年を経るも同一の地盤上に立ちて同一の根本から成長するが如くしなければならぬと思ふ。其生長は首尾一貫せねばならぬ。其生命は間斷なく同一のものでなければならぬ。日本が其發展の爲めに海外の思想文明を吸收するのは恰も大木が生長する爲めに色々の養分を根から吸入するやうのもので此等の養分は能く自體に同化して始めて生長を助けることが出来るのである。若し猥りに外國の思想に囚はれて日本精神と接觸を失ひ之と矛盾するやうの事があるのは丁度竹を切り來つて木に接がうとするやうなものである。又他の美を羨んで直ちに之れを模倣し毫も深く其根本を研究せず又之を培養する途を講ぜねばならぬのは丁度截り花を買つて來て花瓶に挿すやうなもので花が散つて仕舞へば何も跡に残す所は無い。又日本の過去の歴史を顧みず又在來の風俗習慣思想を放擲して外來の思想によつて個人思ひ思ひに勝手の主義を立てやうとするのは國家の上より見れば恰も苗木を根から引き抜いて絶えず新しい植木を植ゑ更へるやうなものである。

到底大成の見込みは立たぬのみならず夫れは日本のものと言ふことは出来ぬ。日本の現代の社會は過渡時代に屬して居るから新舊思想の衝突は到る所にある。日本精神に同化して居らぬ外來思想の存在も免れぬ。懷疑主義もあれば破壊主義もある。思想界は稍混亂の様を呈して適從する所に迷へるものも少くあるまいと思はる。併し日本は永遠に存續發展を要する。日本の國運の將來を擔へるものは日本人である。嚴密に言へば現代の青年である。日本の問題を解決するのは日本人でなければならぬ。將來の日本の思想界を統一するものも亦現代の青年でなければならぬ。自分は現在の多少混亂の思想、不調和の文明は徹頭徹尾日本本來の大精神に同化して統一すべきものであると信ずる。自分は此點に於ては堅く國粹保存主義即ち保守主義を執るものである。併し日本の發展の爲めに外來の思想文明を得て之を我國民精神に同化せしめんとする點に於ては決して進歩主義に一步も譲らぬ。自分は日本人が苟も足を日本の地上に踏んで居る間に國民精神を失つてはならぬことと日本の發展は凡て此國民精神から發現して來ねばならぬことを主張するのである。

されば若し日本の青年に此國民精神に調和せぬ分子があれば國民の發展を阻害するものと言つて差支へない。此等の分子は現在に害をなさぬても將來には色々の形となつて國運の前途に障礙を來すのである。我大和民族は永遠に發展向上すべき使命を擔つて居る。此使命を完了する方法を講ずるものは大和民族夫れ自身でなければならぬ。此重大の責務を有する民族は其精神に矛盾する分子の存在を許すことは出来ぬ。

國家の發展には國民の行動の一致を要する。國民行動の一致には國民精神の統一を要する。即ち國民團結の意識である。即ち國民精神の自覺である。即ち日本にあつては大和魂である。忠君愛國の文字は其要領を提示したものである。又其由つて來る所を尋ねれば古來の祖先尊崇の美風家族制度等我國固有の道德に基くことは今更茲に詳述の必要を見ぬ。日本は此大精神によつて上下三千年の歴史を作り又明治の大發展をなしたのである。日本將來の國運が一に此大精神の消長に因ることは火を見るよりも明かである。

吾人は今大聲疾呼して現代青年が此國民精神に對して如何なる態度を執つて居るか又國運の將來に對する青年の責任に就いて如何なる覺悟を持つて居るか大に國民の猛省を促し度す。

歐米の青年を見馴れて日本の青年を見れば體格弱く元氣乏しく早熟早老て青年の中から老人の性質が多くて自分の運命は進んで自分が開拓すると言ふ獨立自營の氣象に乏しく將來國家を引き受けんとする任務が眼の前にぶら下つて居るに拘らず國家の利害に冷淡であることや常に社會の事情に疎く常識を缺き社會の慣習慣例などに平然として遠かつて居ることなどは殊に國運の前途に對する杞憂を抱かざるを得ぬ。

此稿を草し終らんとする時 聖上の大喪に接して恐懼措く所を知らぬ。苟も我が國運の前途を思ふ我國の青年は此際一段の覺悟を要するのである。赫々たる明治の時代は既に過去に屬した。世界の新聞は筆を揃へて先帝の聖徳と世界古今に比なき明治の大業とを賞讃して居る。明治時代は日本

歴史中の偉觀である計りて無く又實に世界史上の奇蹟である。將來の日本は明治時代に得たる一等國の地位と其實力とを大に世界に示すべき時期に到達したのである。現代の文明は駭々として進んで一日も止まぬ。世界の各國は奮勵努力して世界に覇たらんことを期して居る。故に今日の優者も少し油斷をすれば忽にして明日の劣者となる。是は世界の大勢である。時勢の進運である。つまり現代は生存競争の時代である。實力競争の時代である。此間に立つて優者たらんとするには奮闘苦戦を要する。奮闘苦戦には進取の氣象勇邁剛健の精神、百折不撓の根氣が必要である。懷疑冥想の時代は既に過去となつた。卑屈逡巡狐疑等の如き女性的の形容詞は將來の青年から除去さるべきものである。世界の大勢時勢の進運に對する日本國民の任務は既に定まつて居る。吾人は此任務をばたさんとする現代青年の覺悟を促して已まぬのである。(大正元年八月稿 浦谷熊吉渡部坦治共編國家青年所載)

附 錄 終

大正二年十月廿六日印刷
大正二年十月廿九日發行

定價金參圓貳拾錢



歐米列強國民性の訓練附録

著者 野田 義夫

發行者 株式會社 同文館

代表者 森山 章之丞

印刷者 中田 福三郎

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發 兌 東京市神田區表神保町貳番地 株式會社 同文館

振替貯金口座東京一三五電話本局四七・三六七

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 株式會社 同文館 第一工場印刷

東京高等師範學校訓導 相島龜三郎先生編

新 版 國民講堂訓話

布裝全一冊 定價金壹圓五拾錢 郵税金 八 錢

著者曩に「祝祭日及び國民記念日講堂訓話」を發行し大に世の歡迎を受けたりしが同書紙型は過般弊館類焼の際不幸にして烏有に歸し且つ内容に於ても改竄するの必要に迫れるを以て今回全く梓を新にし題名を改めて再び諸君の要求に應ずるに至れり明治天皇並に今上の天長節及び乃木將軍の講話資料に至つては懇切丁寧にして用意の周到を極めたり。

エレン・ケイ女史原著 大村仁太郎先生解説

新 刊 二十世紀は兒童の世界

布裝全一冊 定價金七拾錢 郵税金 八 錢

原著者は瑞典の一小學教師エレン・ケイ女史にして歐洲の思想界と教育界とを震撼せしめたる名著なり本書は家庭學校社會の三方面に蟠る弊害を指摘して之が救済の策を講じたるもの形式を打破し修養を鼓吹し男女關係の改良結婚の新形式を提唱し學校の均等主義を排撃し學校の精神的殺人罪を絶呼せる邊は思はず讀者をして痛快案を拍たしむるものあり。

東京 株式會社 同文館 神田

大村仁太郎先生著

刷縮

我子の美德

布装全一冊 定價金五拾錢
郵税金八錢

本書は現代家庭の惡風と教育の弊竇とを抉剔して諷刺痛快骨を刺し肉を抉り人をして一讀冷汗背に決らしむ記載の事項に就き兒童性格の障害に關する知識を蓄へ之を家庭に實驗し學校に應用せんか子女は初めて善良なる性格を得るに至らん。

大村仁太郎先生著

刷縮

我子の惡德

布装全一冊 定價金四拾五錢
郵税金八錢

兒童の教育法を家庭物語の體に叙べたるもの淳樸なる農夫の子松下繁雄の出生より長じて結婚するに至る迄の徑路を最も面白く描き其の間に於て精細に家庭教育の法を説きたる點彼の有名なるルソアの『エミール』をも凌ぐべき傑作と稱せらる。

東京

株式會社

同文館

神田

文部省檢定

石原ばんがく先生作歌
納所辨次郎先生作曲
國民唱歌
明治天皇

各學校に於て見本御
入用の場合には校印
押捺の上送料二錢添
附御申込次第進呈す

一冊金五錢
郵税金貳錢

古今東西に比類なき先帝の聖德を謳ひ奉り、明治國民が世界的大發展の事蹟を揚げて、次代新國民の更に大に發展すべきを、最も教育的に最も平易に最も快瀾に而も謹嚴を失はずして歌ひ得るやう、小學唱歌作者として有名なる石原ばんがく先生謹んで作歌し奉り、作曲大家納所辨次郎先生其旨を賛し苦心して作曲せられたり。我國民の永く且く盛んに、講堂にても途中にても山にても野にても、歌ふべく歌はしむべき國民必須の唱歌なり。

青淵 澁澤榮一先生著 (第十版)

刷縮

青淵百話

布装全一冊 定價金壹圓
郵税金八錢

榮達を説き家庭を説き交際を説き人格を説き修養を説く等何れも空中の樓閣にあらずして悉く男爵が七十年間實地の試練より歸納せる活教訓なり要するに本書の價値は或る意味に於て男爵の物質的貢獻を合したるものよりも更に大なるものあるべく男爵の名をして不朽ならしむるもの或は彼に在らずして此に在らん。

東京

株式會社

同文館

神田

文學士 小西重直先生閱
文部省普通 玉井廣平先生著
學務局

新 版
文部省調査小學校
作法教授要項參照
小學作法教程

和裝全一冊 定價金六拾錢
郵税金八錢

本書は過般文部省より發表せられたる小學校作法教授要項の趣旨に則り小學校に於ける作法教授の資料を列舉説明せるものにして國定「小學修身書」と密接なる連絡を保てるは固より、一々挿繪を以て詳密なる説明を施したるものにして、其の平易にして適切なる點は斷じてその比を見ざる所なり。文部省が右作法の要項を發表したる今日、教育實際家は本書と併せて茲に信頼すべき唯一の指針を得たるものと言ふべし。

文學士 小西重直先生閱
文部省普通 玉井廣平先生著
學務局

新 版
文部省調査小學校
作法教授要項參照
小學作法書

洋裝全一冊 定價金拾參錢
郵税金四錢

作法は能く知らしめ、能く行はしめて始めて其の効あり。本書は右の「小學作法教程」と相俟ち數十の挿繪と共に最も平易に且最も興味ある説明を施したれば、兒童の作法實習を指導するに最も好適なるもの也。「教程」を以て文部省作法要項の教師用書とすれば、本書は其の兒童用書たるべきものなり。學校は勿論、家庭、社會に於ける會合的教育上にも極めて必要なる兒童讀物なり。

東京高等師範學校講師 山松鶴吉先生著

全 部 完 成
尋常小學校
管理教授及訓練の實際

第一學年 定價金 貳圓
第二、三、四、五、六學年 定價各金壹圓八拾錢

文學士 後藤朝太郎先生 共著
宮部治郎吉先生

新 版
國定漢字の教授及教材

第一學年 定價金貳拾五錢
第二學年 定價金貳拾五錢
第三學年 定價金參拾五錢
第四學年 定價金四拾五錢
第五學年 定價金五拾錢
第六學年 定價金四拾五錢
教授篇 近刊

本書は實に各學級教育の責任を負へる學級主任の虎の巻にして、一人たりとも之を坐右に備へざる可からざる好著なり。全國十數萬の小學校教師諸君にして本書を手をせざる人ありや。諸君は此の一本を手にすれば、事業の一切を最も完全に行ふ事を得るなり。斯くの如くなるを以て、本書は尋常小學校に於ける唯一の寶典なれば各學校は之を取揃へ置くことを忽にすべからず。

小學校の教授中最も困難なるは漢字の教授にして而も最も必要の教授事項なり。本書の著者宮部治郎吉君は多年漢字教授の研究を爲せる篤學者にして後藤文學士は其專攻の學者、現に文部省漢字取調の囑託たり。兩先生が教授の實際より、漢字の理論より、教材の取調より、各方面に涉りて遺漏なく研究せられたるものにして教授篇と教材篇とに別ち、各學年分冊として教師の使用に便せり。

東京 株式會社 同文館 神田

東京

株式會社 同文館 神田

菊池 男爵 澤柳總長序
東京高等師範學校教諭 伊藤長七先生著

新 版
現代教育觀

布裝釘全一冊 定價金壹圓
郵税金八錢

京都帝國大學文科大學教授 小西重直先生著

七 版
現今教育の研究

布裝釘全一冊 定價金壹圓八拾錢
郵税金拾貳錢

小中學の普通教育より、女子教育、大學教育、師範教育其他の各方面に互り、椽大の筆を以て、縱横に教育界を論評せるもの、眞に是れ、邦家教育の前途に甚深の憂を抱く者にあらずんば能はざる憂國經綸の大文字なり。世の教育家一度此書を讀かば、感激已む能はざるものあるべく、爲政家は之によりて教育行政に關する曠野の聲を聞くを得べく、青年學生は以て志立奮闘の教訓を見出し得べし。

本書は現代最新教育學、教授法の學說、理論と、古來の學說、實際の變遷とを比照して、詳細に論評整理し、以て教育實際家の歸趣すべき所を示し、其適用の方法を研究せるものなり。而して現今の小學、中學、高等女學校、實業學校等各種の教授上實際の難問題に涉りて、之れが解決を試み、適切なる方針を與へられんことを期せり。

東京 株式會社 同文館 神田

東京高等師範學校講師 山松鶴吉先生著

三 版
現今小學校の缺點及改良方法

布裝全一冊 定價金壹圓八拾錢
郵税金拾貳錢

東京高等師範學校講師 山松鶴吉先生著

三 版
小學校各科教授の進歩

布裝全一冊 定價金壹圓八拾錢
郵税金拾貳錢

弘く全国各地に於ける小學校の實際に對し犀利なる視察と卓越なる識見とを以て説破せられ殆んど其の顔色なきに至る著者は更に進んで其の缺點を補ひ之を矯正改良して以て小學校教育の完備せむことを望み故に事に對して眞額より直接に其の缺點を指摘せらるゝと同時に其の豊富なる實地の經驗に基き極めて懇切周到に之が改良方法を指導せられたり。

小學校に於ける各科の教授に關して一々事實に就て之を縱横より批評し更に現今の時勢に於て直に實施し得べき最も進歩せる各科教授の主義方法を極めて實際的事實的に詳述せられたるものなれば諸君は本書に依りて自家の足らざる所を發見し所謂新傾向に適應せる最も進歩せる各科教授の實際的主義方法を領解し其實施上に於て多大の利益を獲得する事を得るや火を睹るよりも明かなり。

東京 株式會社 同文館 神田

文學博士 中島力造先生著

新 版 絶對現代の倫理學

布裝全一冊 定價金壹圓貳拾錢

郵税金 八錢

倫理學の研究も亦他の學科と同じく日進月歩して止まず先代諸大家の説と雖も今日にありては之を繼承主張する學者少く或は之を修正し或は之を變更し或は其の缺點を補足し以て其の面目を一新したるもの多し本書は現代倫理學界の代表者と認むべき諸氏の學說を叙述し之を批評したるものグリーン氏以後唯心論的倫理學説が如何に變化し如何に進みつゝあるかは本書によりて知るを得べし。

文學士 田中義能先生著

再 版 家庭教育學

布裝全一冊 定價金壹圓四拾錢

郵税金拾貳錢

本書は家庭教育を組織的に統系的に論述したるもの先づ家庭教育の意義目的より説き起して結婚、住居、妊娠、胎教、出産、衣食、睡眠、入浴、子守、疾病、看護に及び進んで知育を説き情育を解き更に餘論として母の任務及び家庭教師に及べり。

東京 株式會社 同文館 神田

275
54

終

